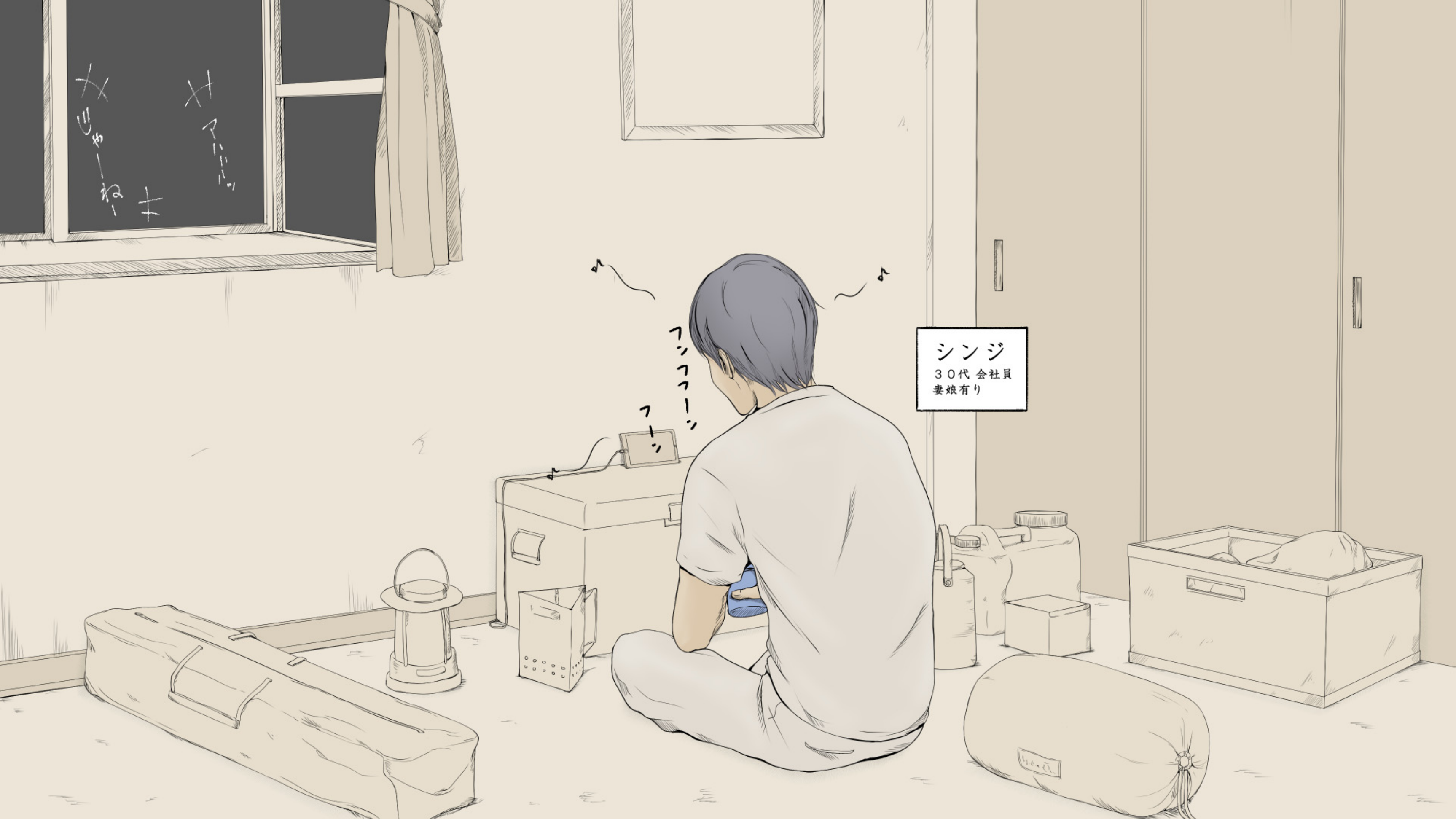


某都市部 夏の夜





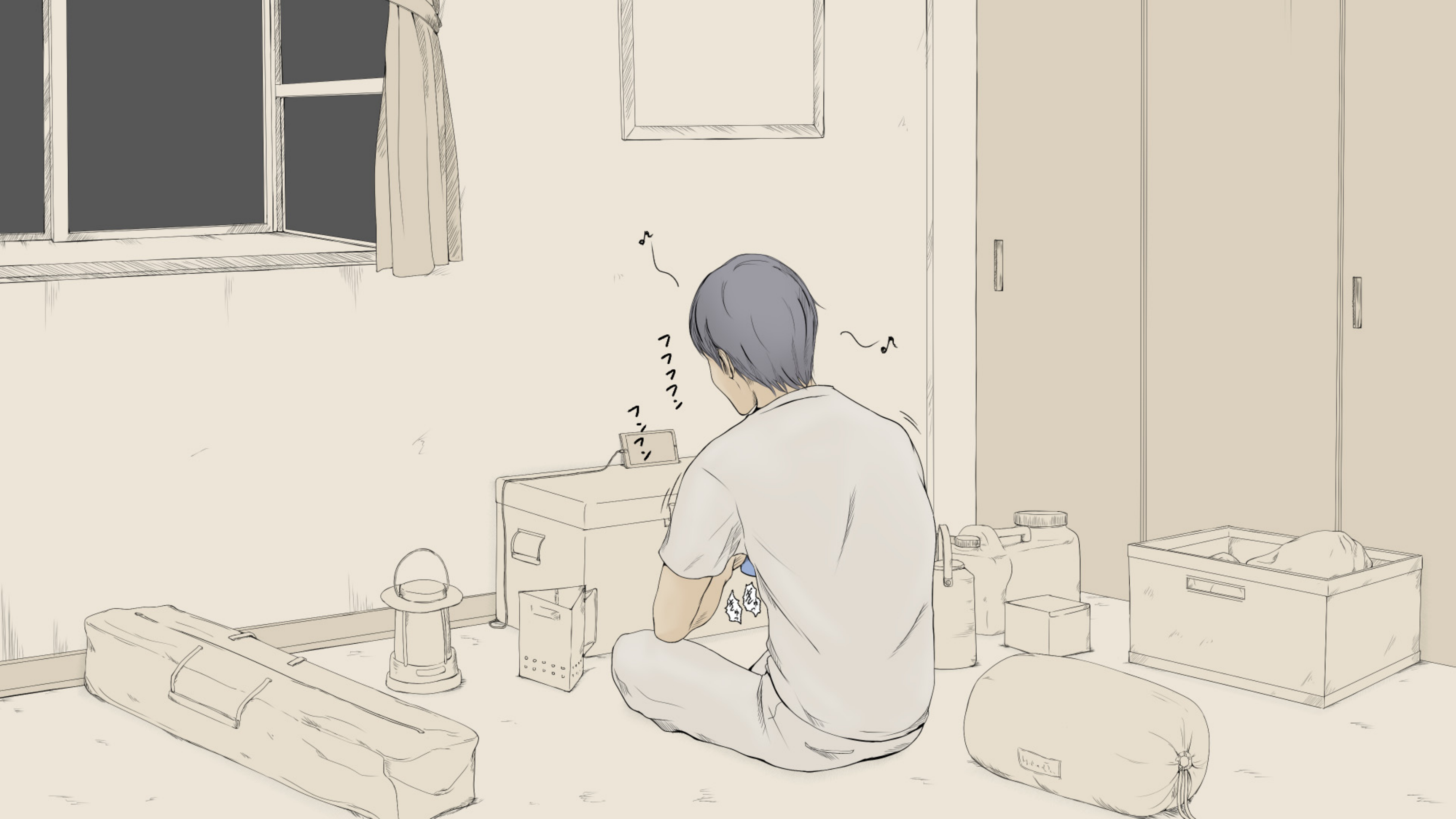


窓のガラスに書かれた文字：  
おーね  
ア  
+

フ  
ー  
ッ  
シ

シンジ  
30代 会社員  
妻娘有り







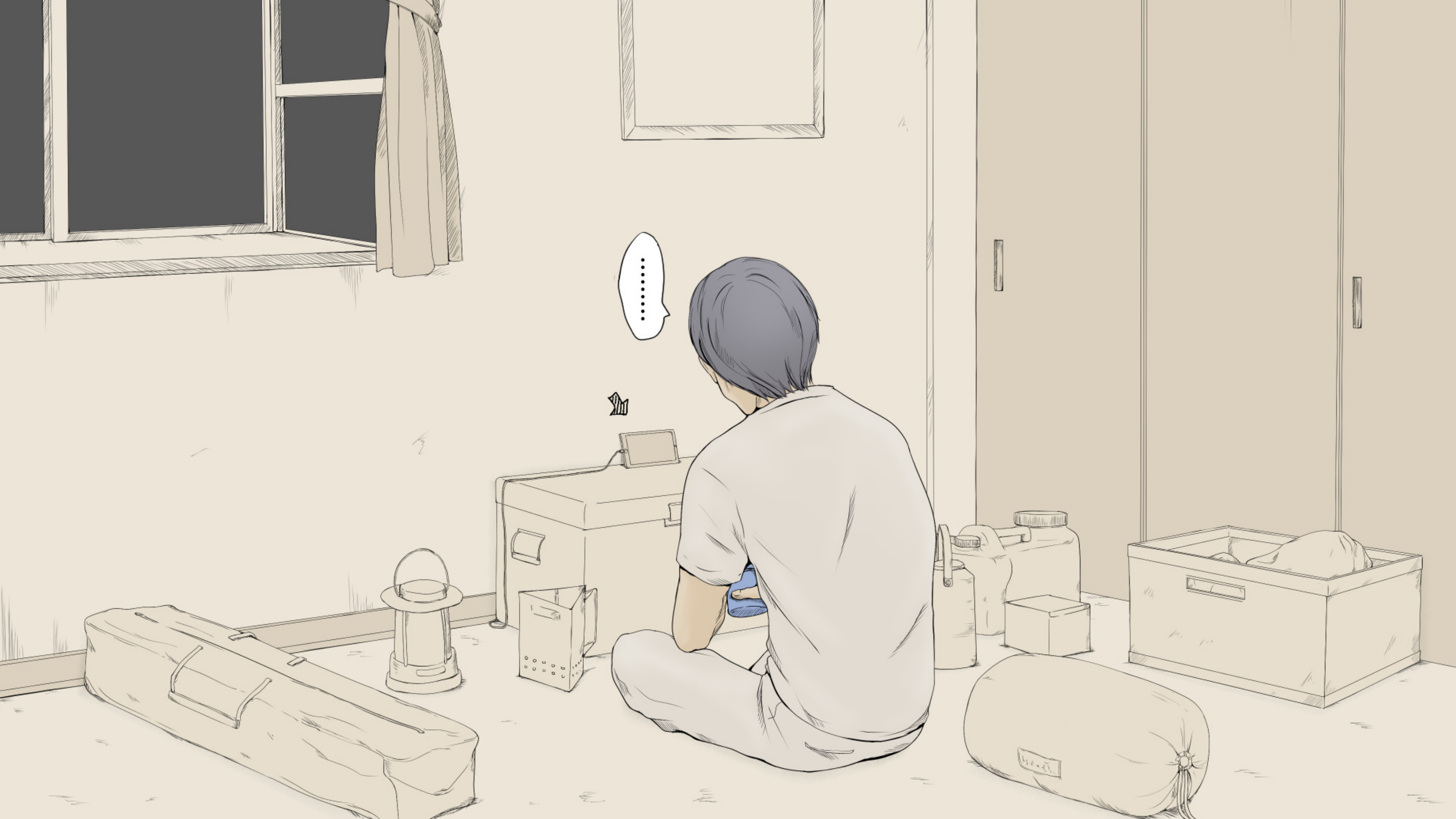






















7月。

わが社は閑散期かんさんきであると言えども  
有給休暇の消化に  
2週間の連休が認められた僕は  
会社にも、さして必要とされていない  
人間だろう。

会社『にも』

そう…つい先日さきひの事。

僕は家族に不要とされた。

いよいよ

仕事を終え  
いつもの時間に帰宅すると  
置手紙1枚が食卓に残され  
妻も娘もいなくなっていた。

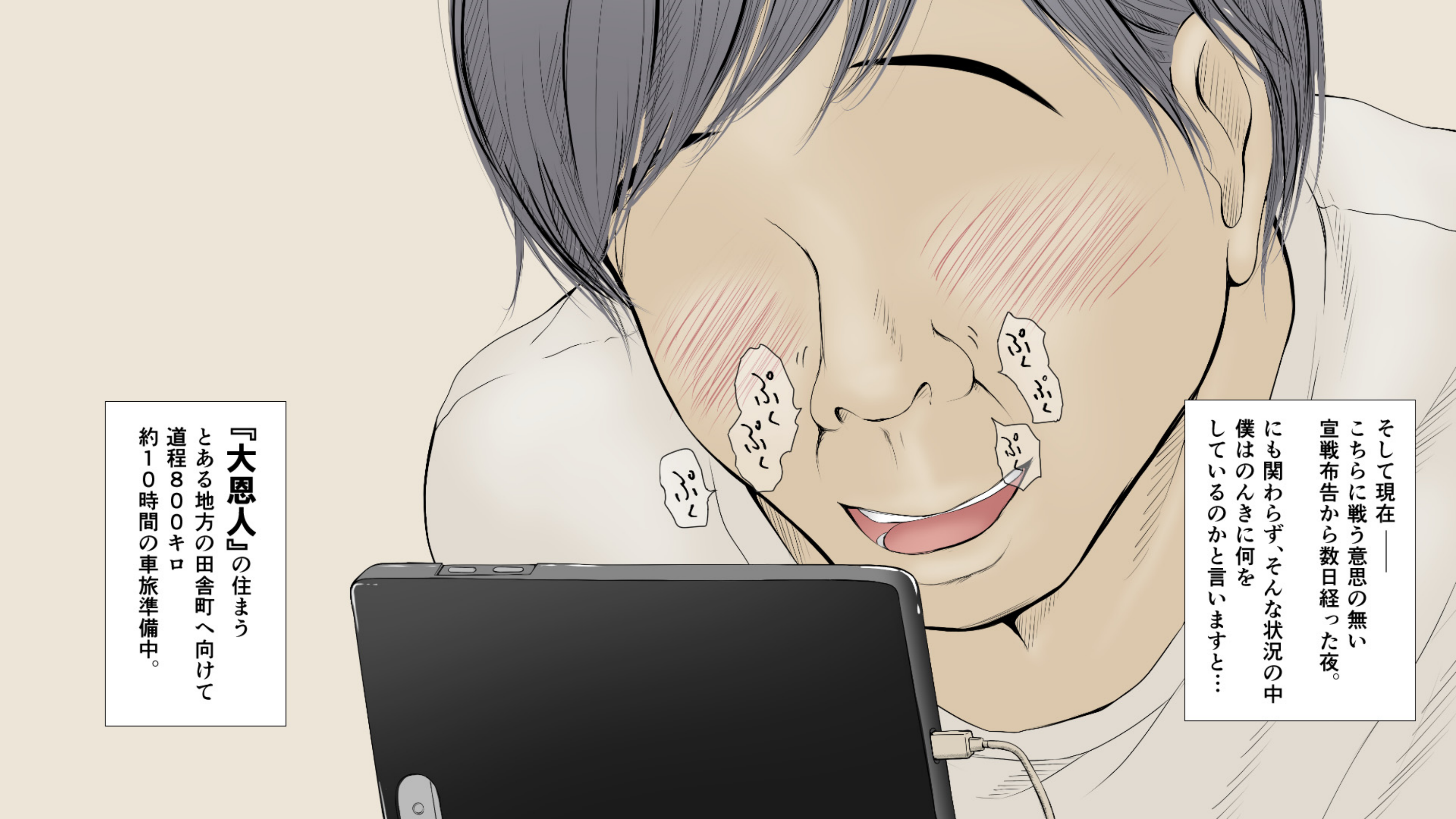
今日から夏休みが終わるまで  
二人で実家に帰らせてもらいます  
あなたとの今後について  
考えたい事があります。  
精神的に落ち着いたら  
そっとしておい

すので

妻には、その関係がもう5年にもなる  
娘も承知(?)の不倫相手が  
居たらしく  
そのどこの誰とも知れない相手と  
一緒になる為の『詰め』に入ったと  
思われます。  
ここ最近になり  
僕が気づいたという事を  
妻は察知したのでしよう。

短くも、ずいぶん丁寧な字で  
書かれた手紙には、そう確信できる  
決戦の覚悟のようなものが  
滲み出ていた。






そして現在——  
こちらに戦う意思の無い  
宣戦布告から数日経った夜。  
にも関わらず、そんな状況の中  
僕はのんきに何を  
しているのかと言いますと…

『大恩人』の住まう  
とある地方の田舎町へ向けて  
道程800キロ  
約10時間の車旅準備中。





妻と娘の選択を、ある日  
突然つきつけられたとしたら  
僕は自死の可能性も  
あったというのに  
今こんな風に鼻を  
ぷくぷくさせて居られるのは  
その人のおかげなんだ。

僕もらよお…♡

後先も考えず会社を休み  
大枚叩いて<sup>はた</sup>整備を整え  
半日に及ぶ運転をして  
会いに行きたい…

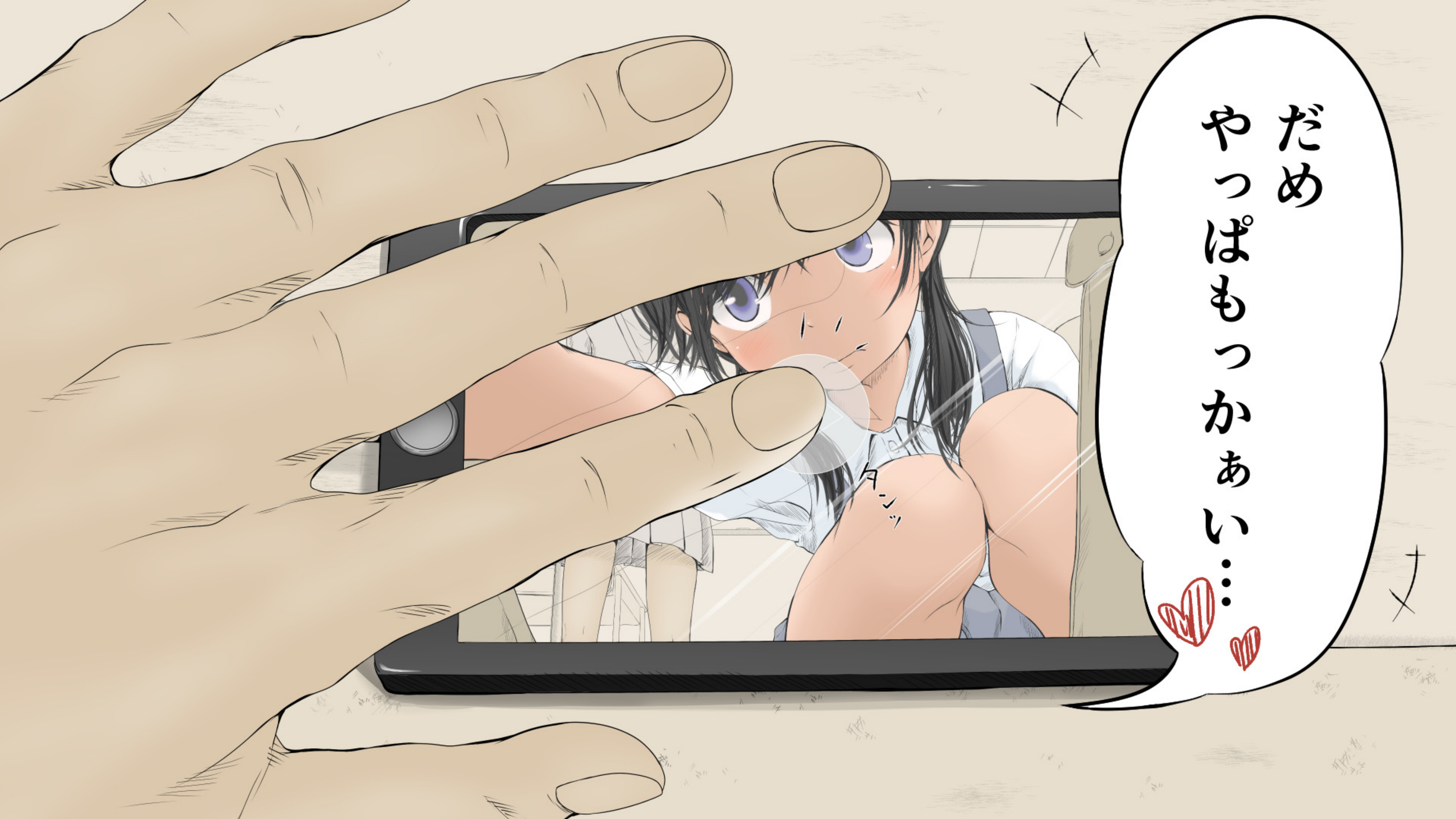


その恩人といひますのは――



う〜〜ん…  
時間ないんだけどなあ〜  
う〜〜ん…





だめ

やっぱもつかあい……













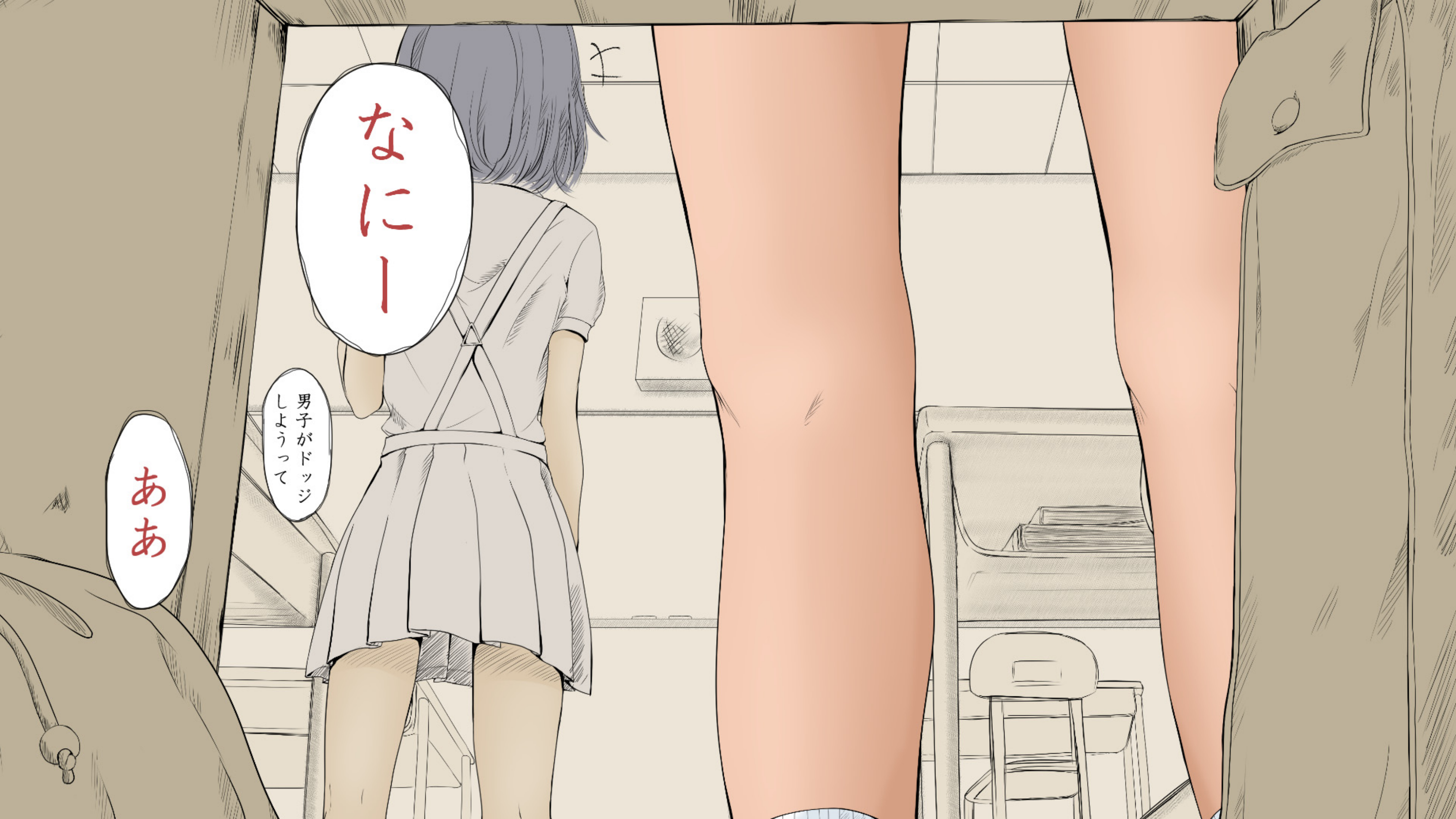




なにー

男子がドッジ  
しようって

ああ





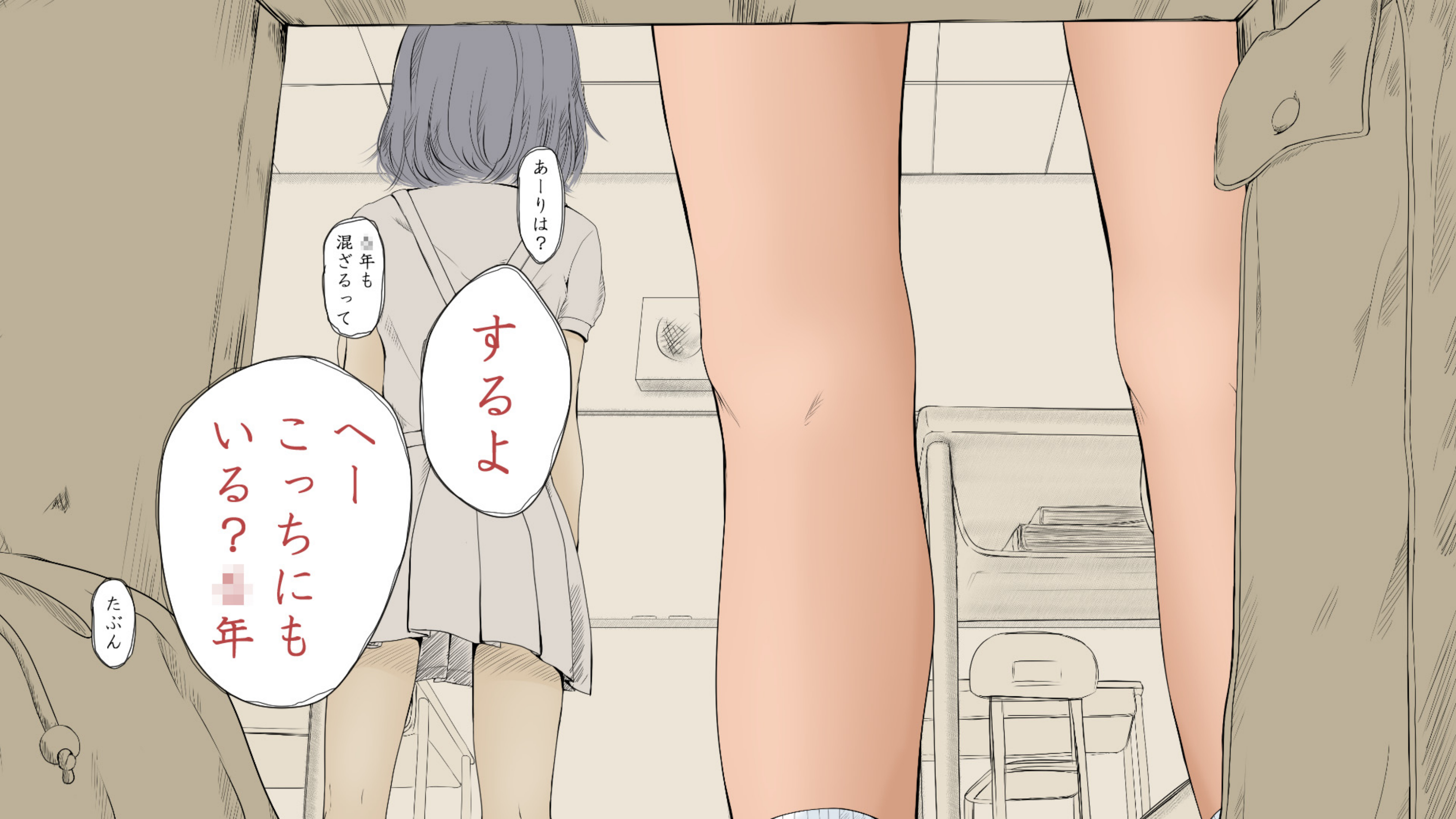
ありは？

年も  
混ざるって

するよ

へー  
こっちにも  
いる？  
年

たぶん



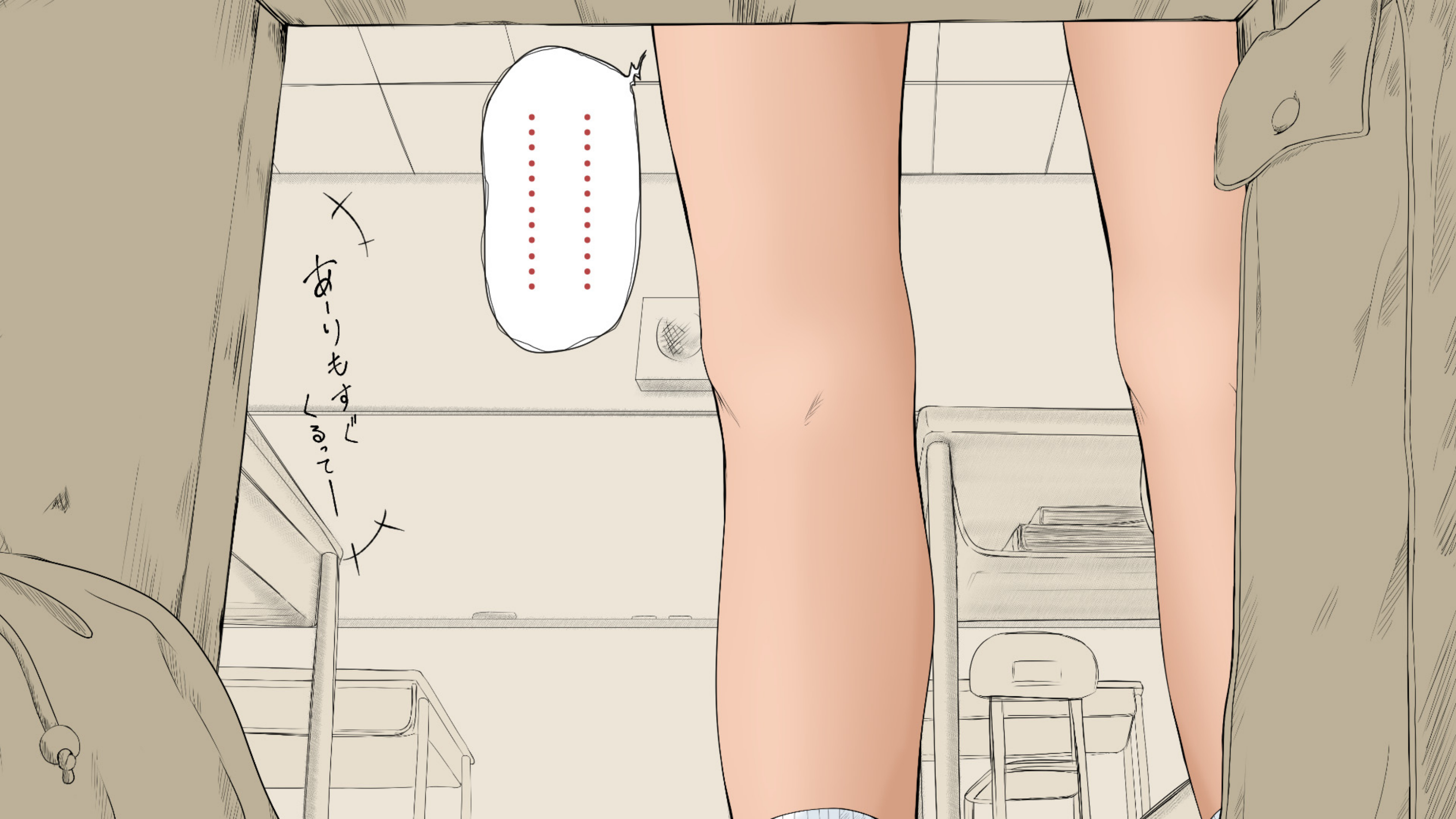


わ  
!  
+

わかった  
すぐ行くよ

早くねー





おーいもすごーるー





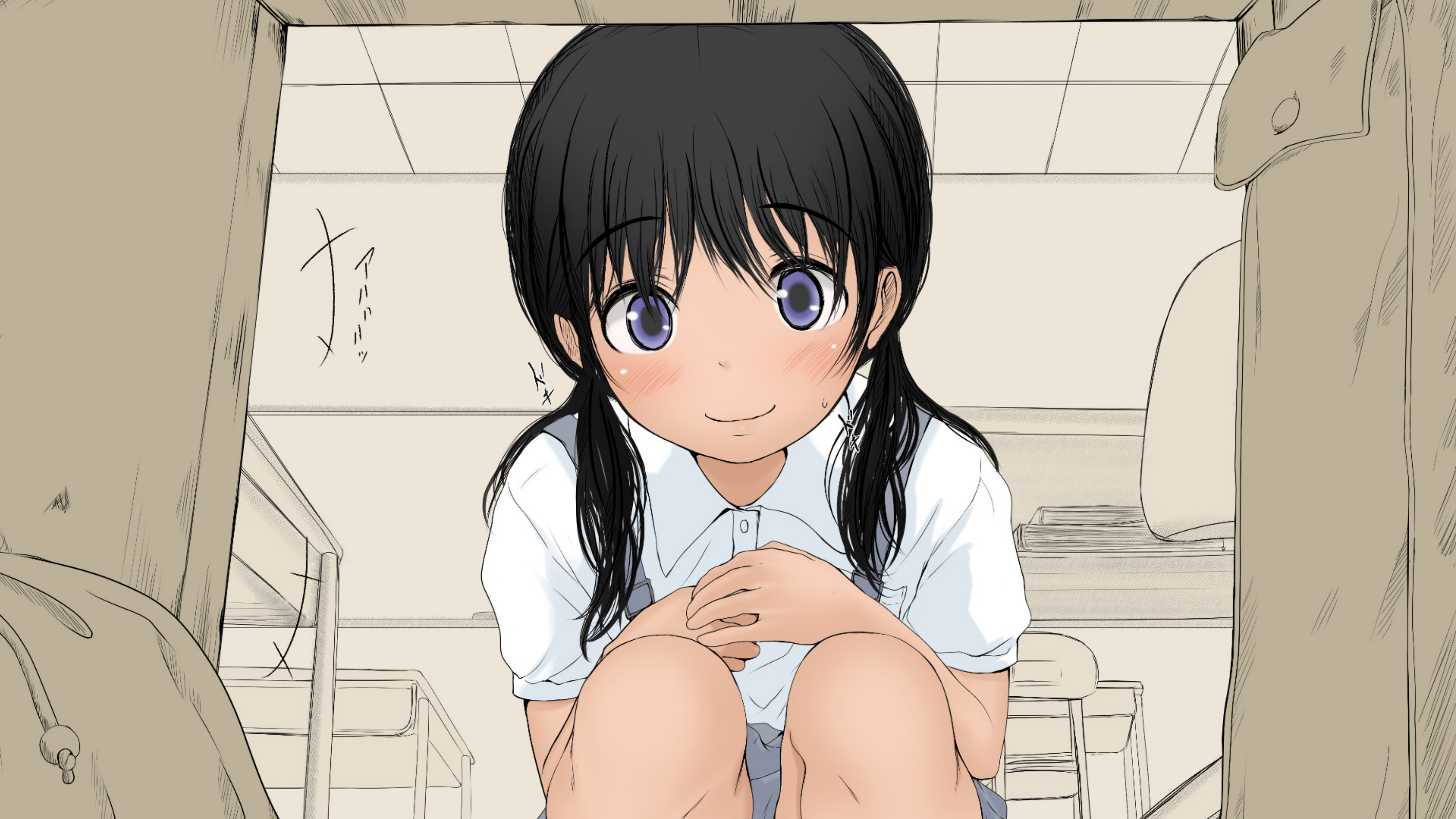
お、おー

勝ち確！

ニッ

ニッ





ア  
ハ  
ツ

×

×



あ、あのね  
シンくん

朝パンツはく時に  
あっ！って  
思っ





えと今ね、大そうじ  
終わったところ  
夏休み前だから

でね、  
階段とこで…ほら階段って  
一番下せまいところ  
あるでしょ？  
パって脱いで走ってきて…



喜んでくれる  
かなって思っ  
て…

あのね…











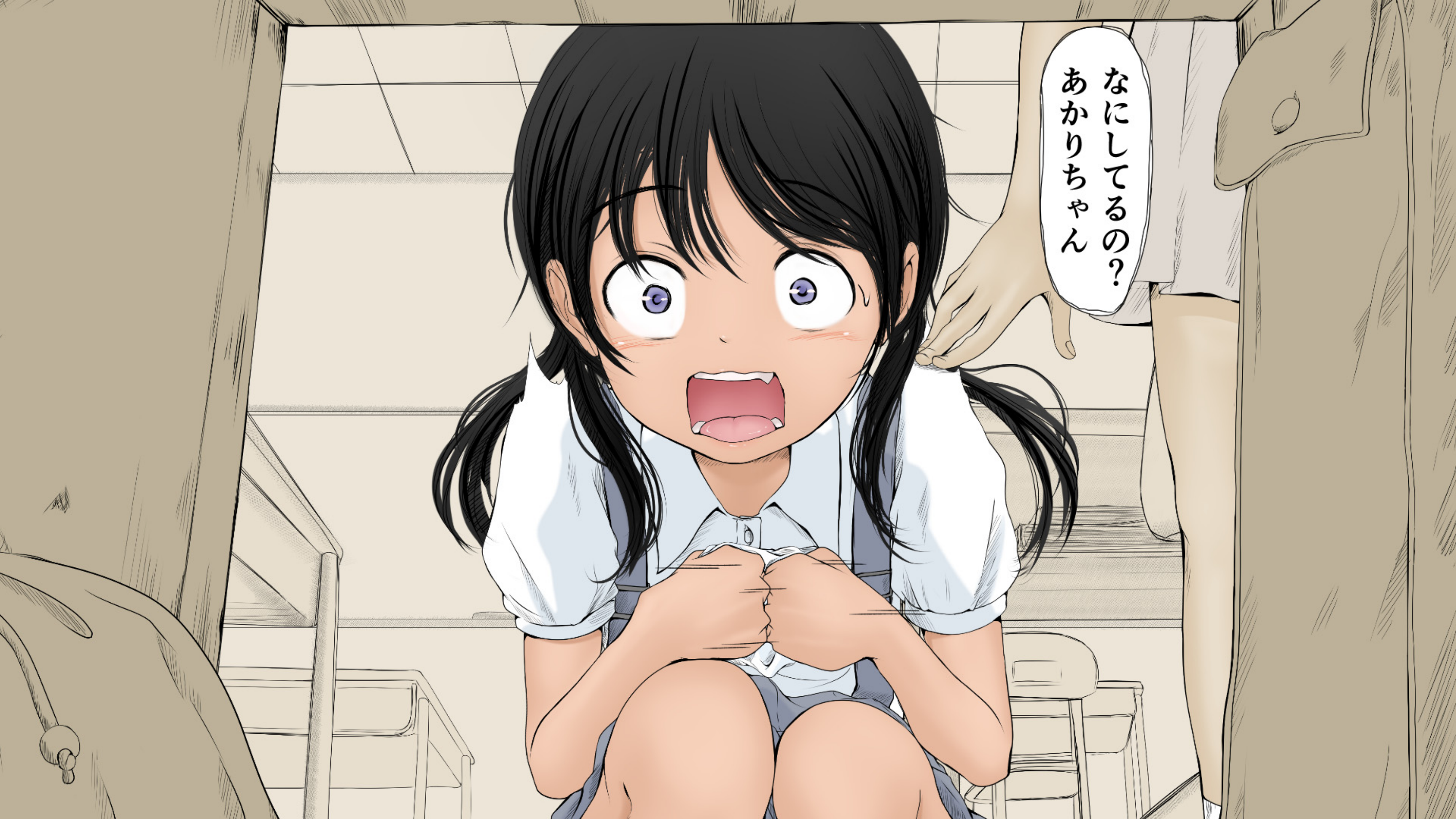
大しゅきい♡






みたいなの...





なにしてるの？  
あかりちゃん





この子

ロクハラアカリちゃん  
と申します。



ぼくの愛する田舎の少女。

— 二章 —




一幕 我が愛ロリコンGOの旅路へ


二幕 意外な反応


三幕 薪のお風呂と小麦色 


四幕 会議といふは揉めるものナリ

五幕 夜伽蚊帳ヨトギガヤ 

六幕 納屋とY字と灯り 

七幕 Hな自由研究？（お尻で？） 

八幕 せーの…でイこ…   
抜かすの3射目「ダメ、こっち見て、目合わせたまま…」

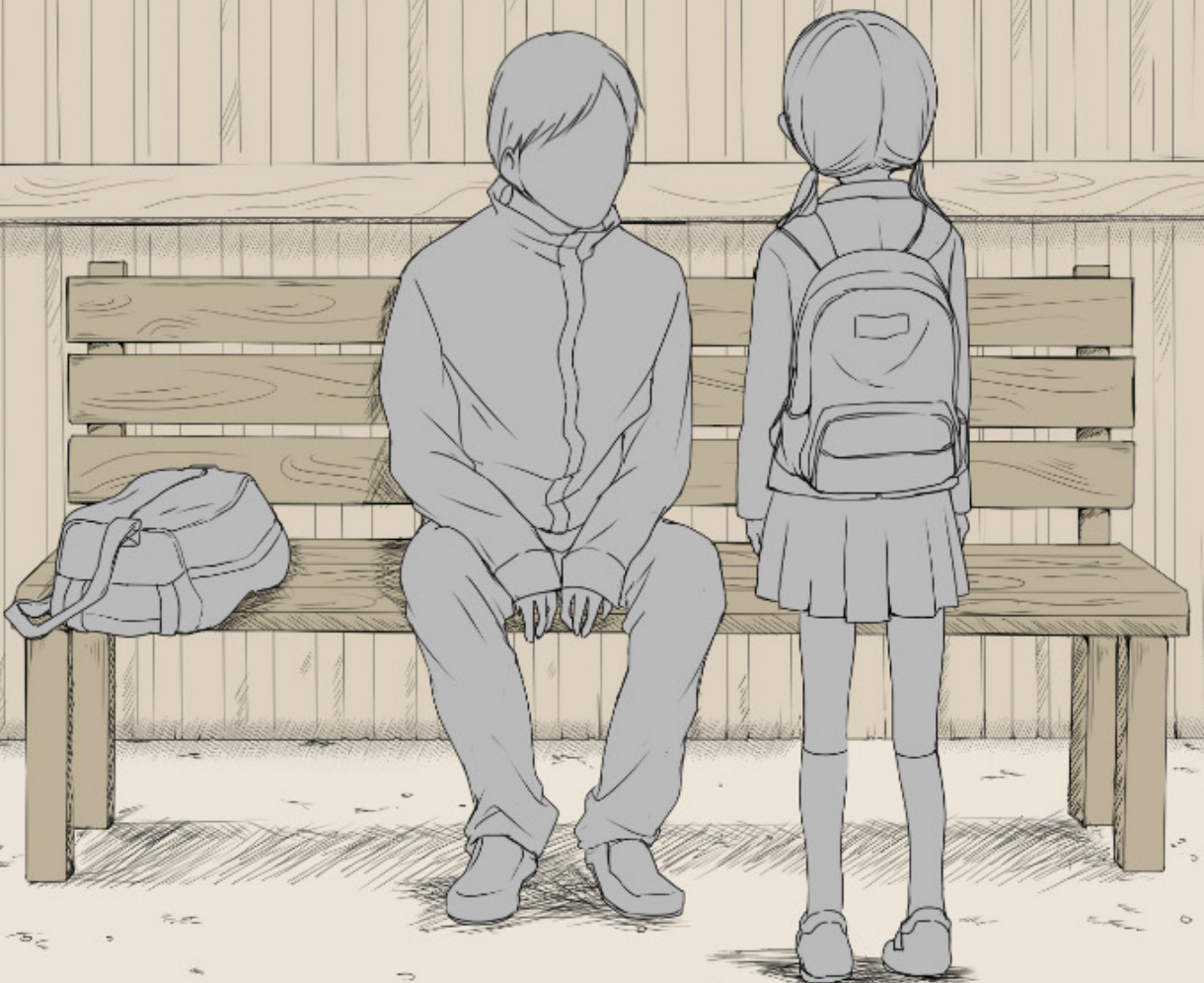
九幕 バブルビキニとミルクィウェイ 

終幕 夏休みの始まり アリスの終わりは



彼女と出会ったのは、先々月の5月下旬週末を使って、とある地方へひとり旅に赴いた時の事。  
宿泊地への復路に使う、バスの待合所であった。

癒しを求めた田舎巡りは  
フタを開けば二日かかりの過疎村徘徊。



ややあってバスの最終も逃し  
宿のあてもなく  
無駄金払って長距離タクシーかあ  
なにも良い事なかったなあと  
金具のサビ果てた木製のベンチで  
一人沈んでいた。

そんな時、下校中に  
前を通りかかった彼女が

『もしかして  
泊まる所がありませんか?』

自宅での宿泊を勧めてくれたんだ。



一度通り過ぎた後、駆け足で戻ってきて  
息を整えながら、幼い声色を  
むりに大人っぽく彩って話していた。

あの時交わした会話は  
一言一句覚えている。

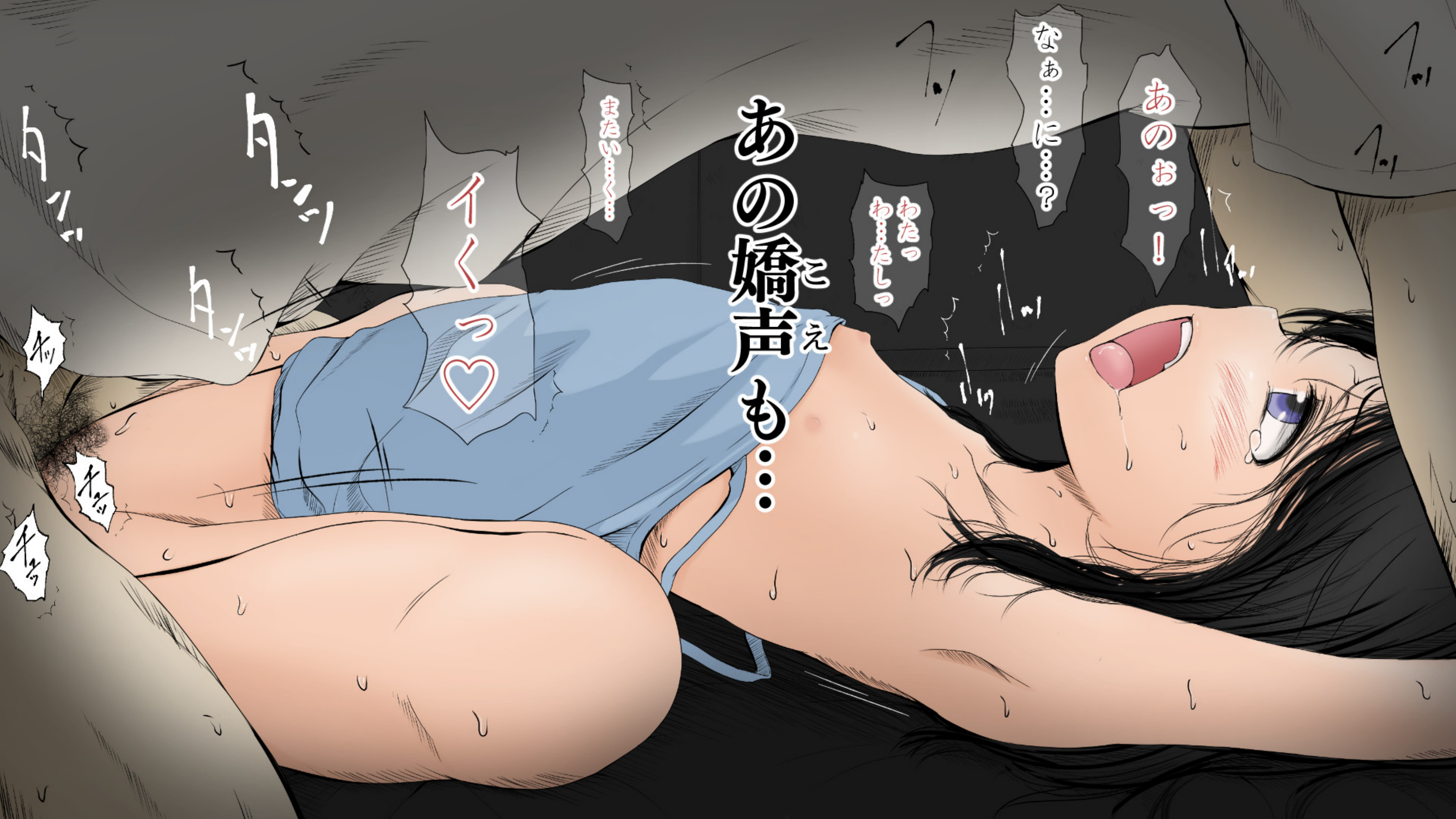
僕の人生が、定まりつつある  
負の路線から外れた…  
いや、掬い上げられる『始まり』と  
なったひと時。

この幸せをかみしめるたびに  
その情景が頭の中に、鮮明に、繰り返し浮かび  
もうどんなに離れていても、側に居なくとも  
いつでもあの子の声を聴く事ができる。

じゃ、じゃあ…  
行きましょう…

そして…





あのおっ！

なあ……に……？

わたっ  
わ……たしっ

あの嬌こえ声えも……

またい……

イくっ  
♡

ハッ  
ハッ  
ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



何がどうなって関係がソコまで  
発展してしまったのか、し得たのか  
今となっては  
よくわからないのだけれど  
まだ■学■年生でありながら  
彼女は僕の恩人であり…

あーりー

後で見てください…

肉体の関係をも伴う  
幾ばくかの比喩もない



恋人

なんです。



そのようなわけで  
逸る気持ちと性欲を抑えつつ  
明日から2週間の連休を獲得した僕は  
彼女の元へ馳せ参じるため  
現在、身支度に奔走中。

ちなみに、その宿泊先である六波羅宅は  
昭和の風情を色濃く残した古民家。  
あかりちゃんは、そこでおばあさんと  
二人暮らしをしながら  
民泊をやっている。

もう1回???

この度の計画はこう。  
本日夜中に出発して夜通し運転。  
夏休み前日となる終了式の明日  
午前授業で帰ってくるあかりちゃんを  
件のバス停で待ち伏せ。  
サプライズで登場する僕。

「今日から2週間滞在したいんだけど  
もつぱら大丈夫?」

「え…急だけど甚だ嬉しい…♪」

夏のラブ日和始まり…みたいな流れ。  
どうでしょう、これ。

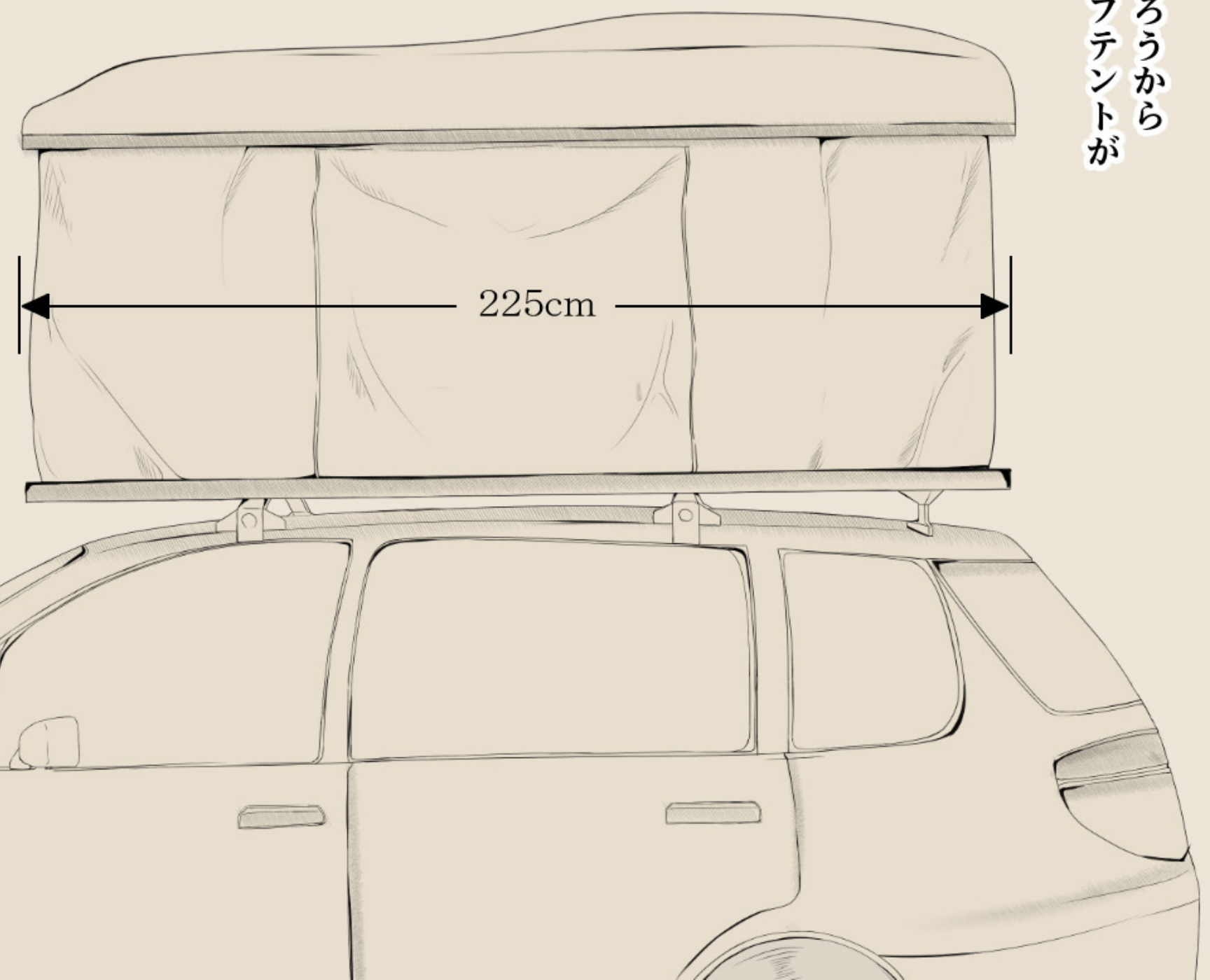


もちろん備えはぬかりなく。  
突然の訪問であろうとなかろうと  
さすがに2週間もの  
長期連泊はご迷惑だろうから  
基本的にはこのルーフトントが  
おもちゃど  
主宿の予定。

昨日販売代理店まで行って  
着けてもらったルーフトント  
『グッ・スリーパーL』  
(¥299,000-)(税抜)

車でならあかりちゃん家から  
それ程遠くない場所に  
源泉掛け流しの温泉施設なんかも  
見つけたし  
食事はスーパで材料を買い  
アウトドアセットで野調理。

そうやって間を置きながら  
何回か宿泊させて貰えたらなって  
思ってるんだ。  
これならどう?  
ラブ日和いけますよね?ね?



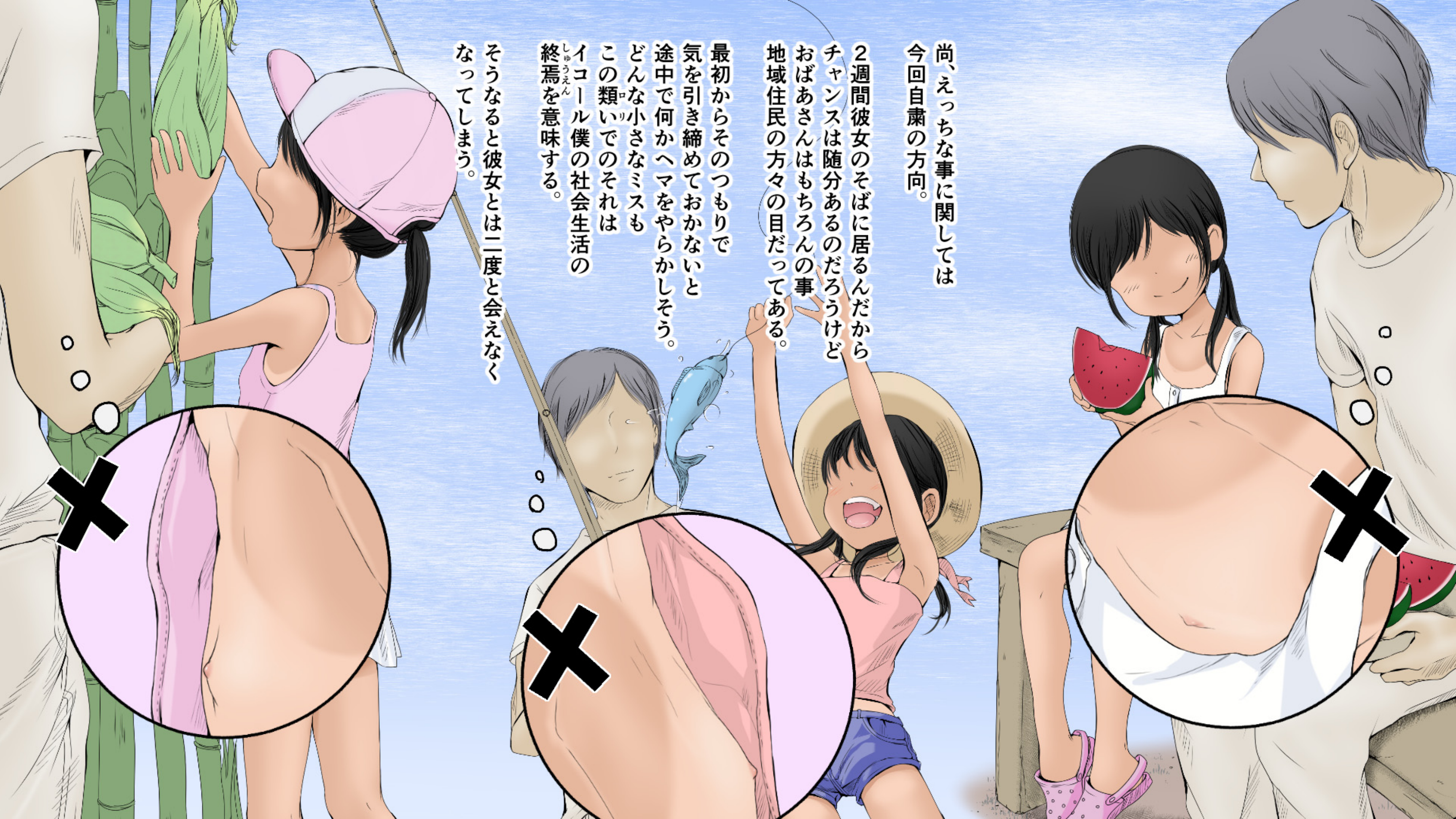


尚、えっちな事に関しては  
今回自粛の方向。

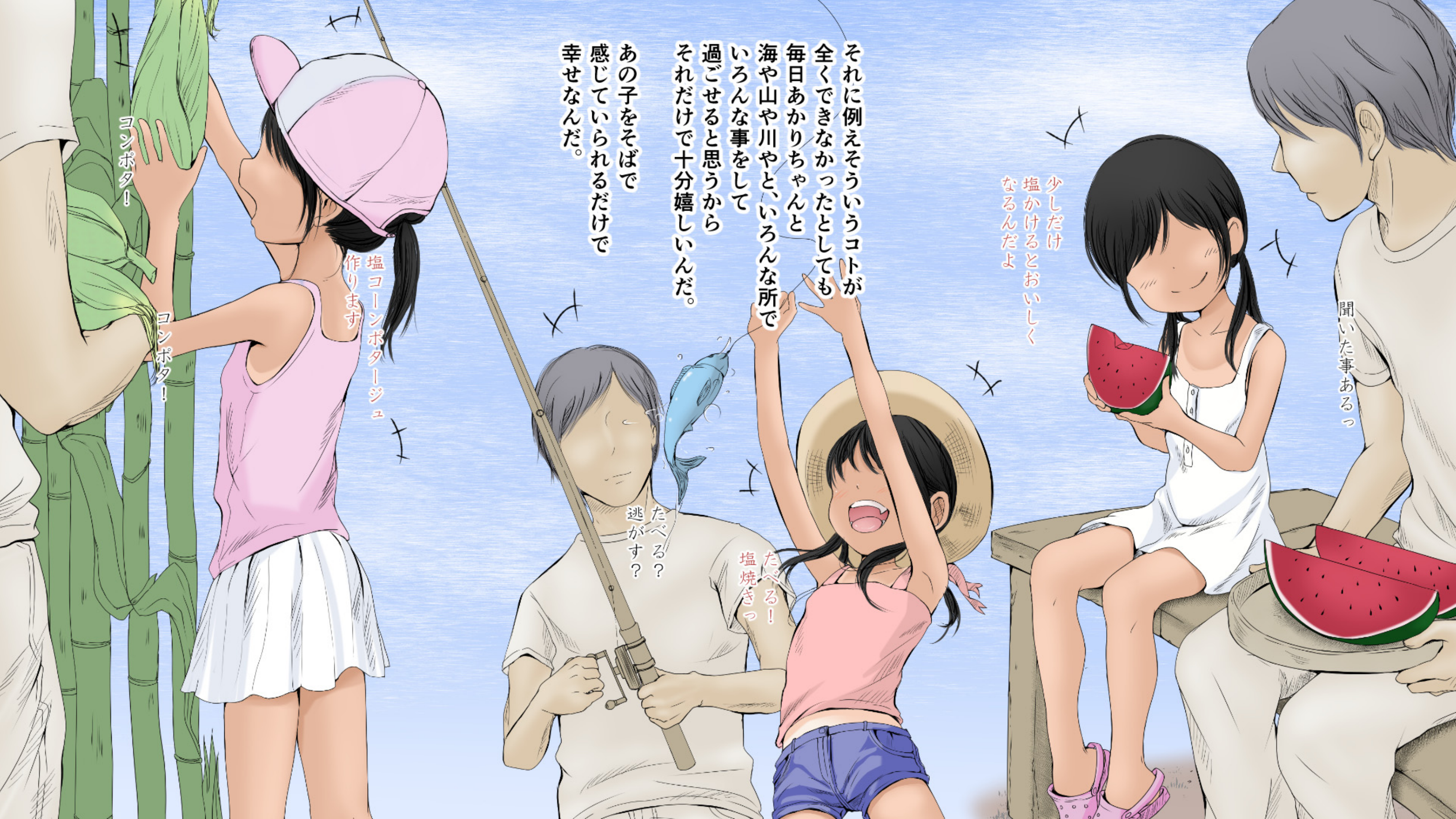
2週間彼女のそばに居るんだから  
チャンスは随分あるのだろうけど  
おばあさんはもちろんの事  
地域住民の方々の目だってある。

最初からそのつもりで  
気を引き締めておかないと  
途中で何かへまをやらかしそう。  
どんな小さなミスも  
この類いでワッのそれは  
イコール僕の社会生活の  
終焉しゅうえんを意味する。

そうなると彼女とは二度と会えなく  
なってしまう。







聞いた事あるっ

少しだけ  
塩かけるとおいしく  
なるんだよ

それに例えそういうコトが  
全くできなかつたとしても  
毎日あかりちゃんと  
海や山や川やと、いろんな所で  
いろんな事をして  
過ごせると思うから  
それだけで十分嬉しいんだ。

あの子をそばで  
感じていられるだけで  
幸せなんだ。

たべる！  
塩焼きっ

たべる？  
逃がす？

塩コーンポタージュ  
作ります

コーンポタ！

コーンポタ！



とは言っても…!

えっちな事など  
絶対にやらないぞと  
そういう訳でもないんだ。

先月はまだ何も警戒されて  
なかったから  
おばあさんがテレビを観ている  
すぐ隣の寝間で…  
という状況で初夜を果たす事が  
できたんだけど

さすがに三月連続訪問  
今度は長期滞在したいじゃ  
誰でも怪しむ。

今回おばあさんは、こちらの動向に  
大なり小なり注意を向けてくるはず。

そこでこのルーフトtent。  
宿泊施設の乏しい土地で  
約半月の生活。

いくつか手段がある中で  
非常に値の張るこれを選んだのは  
安眠の確保という理由だけではなく

人の目のなくなる真夜中に  
二人でこっそり抜け出して  
どこかの山中で…みたいな期待も  
32万円(税込)にこめたんです♡

そのロケーションでなら  
先月とは違って周りの事なんか  
一切気にせずに  
めいっぱい、あん♪あん♪と喘ぐ  
あかりちゃんを堪能できるかも。  
(ちよつとした露出プレイ的な事も  
できるかも♪)

こういう…  
の…どお?

え?  
そ、それ…

シンくん  
だ…めえ

あ♡

やあ♡

どおっ?  
どおっ?

ああっ…  
イクッ♡

あんっ♡

あん♡♡

僕はもう…それを  
想像するだけで…

「……………」  
「……………」



とこのような目論見につきまして  
不詳私め、準備整いまして候

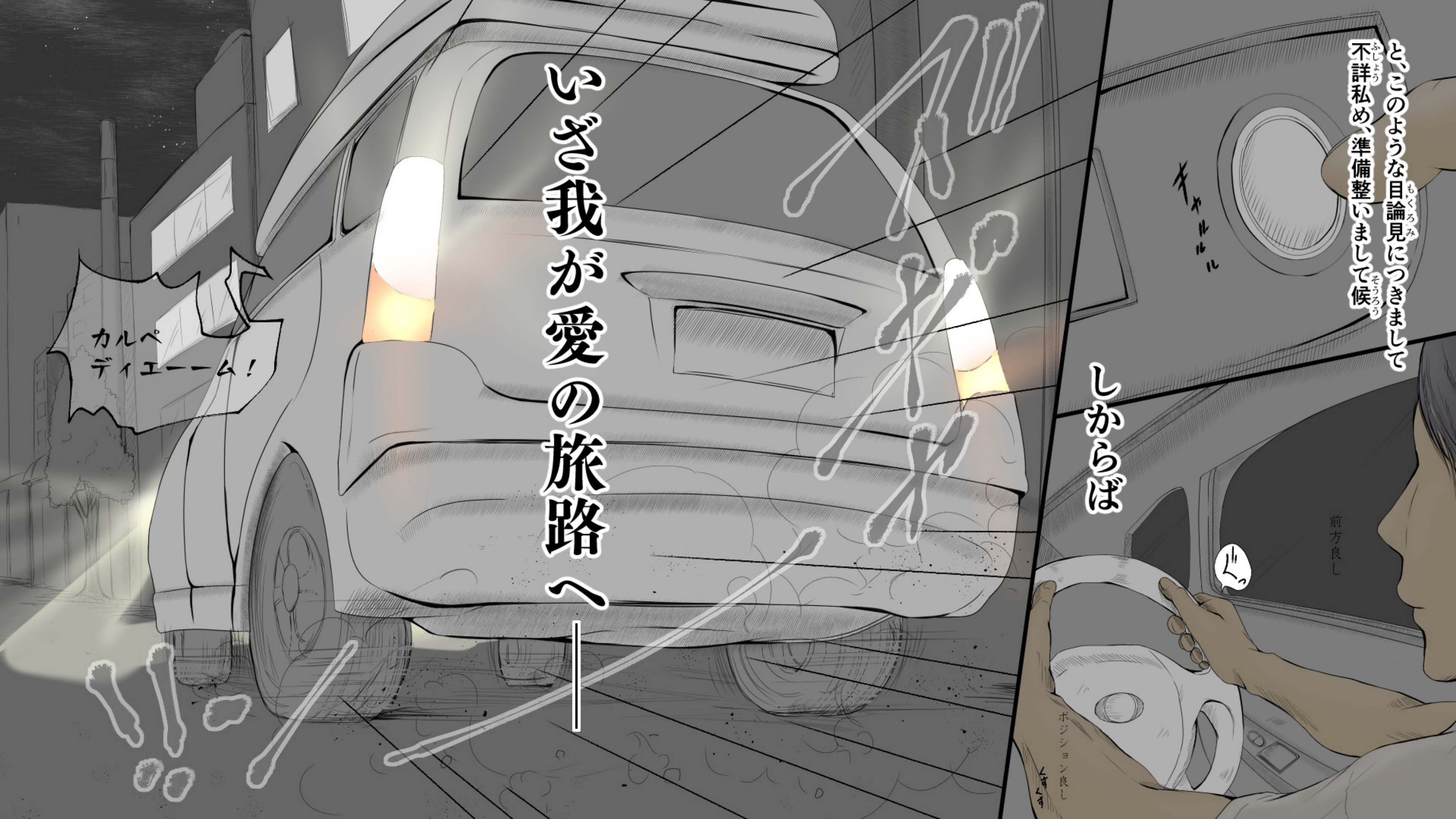
しからば

前方良し

ポジション良し

いざ我が愛の旅路へ

カルペ  
デイエーム!





一幕 意外な反応





























— 941 —



「…………ふ…………う……………」

総走行距離839km  
思っていたより過酷だった…

休憩、給油、食事、トイレ。  
小さな所用や交通規制なども  
重なって2時間押し。  
予定時刻ぎりぎりになってしまった。

ここいらで帰宅中の学生は  
一人も見なかったから  
今日の下校時間に  
ちゃんと間に合ったんだと  
思うけど…

「……………」

無理にサプライズなんて  
しなくてもいいし  
冷静に考えればやられた側は戸惑う内容だ。

いくらあかりちゃんと言えど  
こんな事を本当に喜んでくれるのかと  
不安にはなるんだけど  
やると決めたらなんだか止まらなく  
なっちゃって…

年甲斐もなく浮かれてるんだと  
思う。

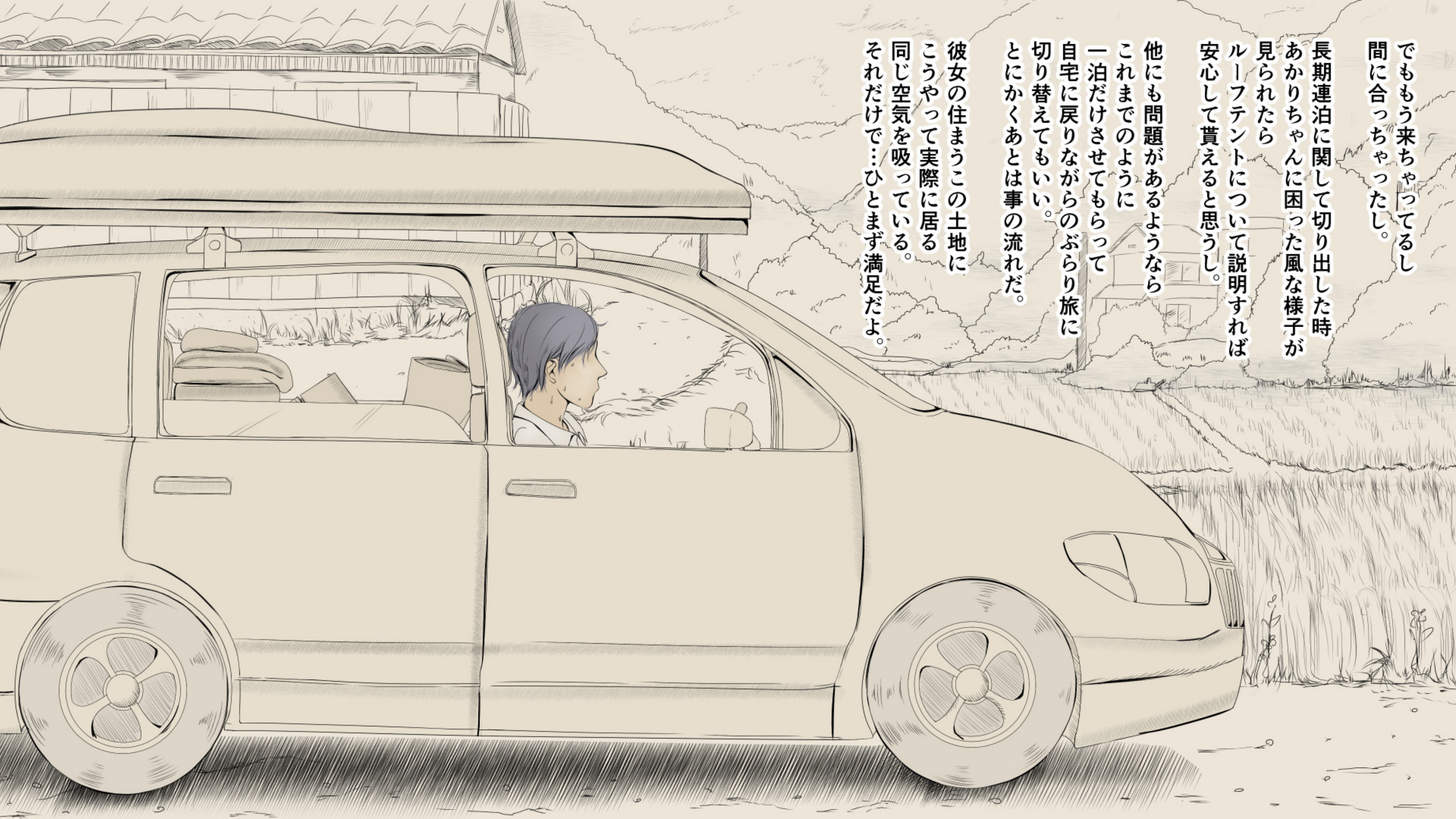


でももう来ちゃってるし  
間に合っちゃったし。

長期連泊に関して切り出した時  
あかりちゃんに困った風な様子が  
見られたら  
ルーフトントについて説明すれば  
安心して貰えると思うし。

他にも問題があるようなら  
これまでのように  
一泊だけさせてもらって  
自宅に戻りながらのぶらり旅に  
切り替えてもいい。  
とにかくあとは事の流れだ。

彼女の住まうこの土地に  
こうやって実際に居る  
同じ空気を吸っている。  
それだけで…ひとまず満足だよ。





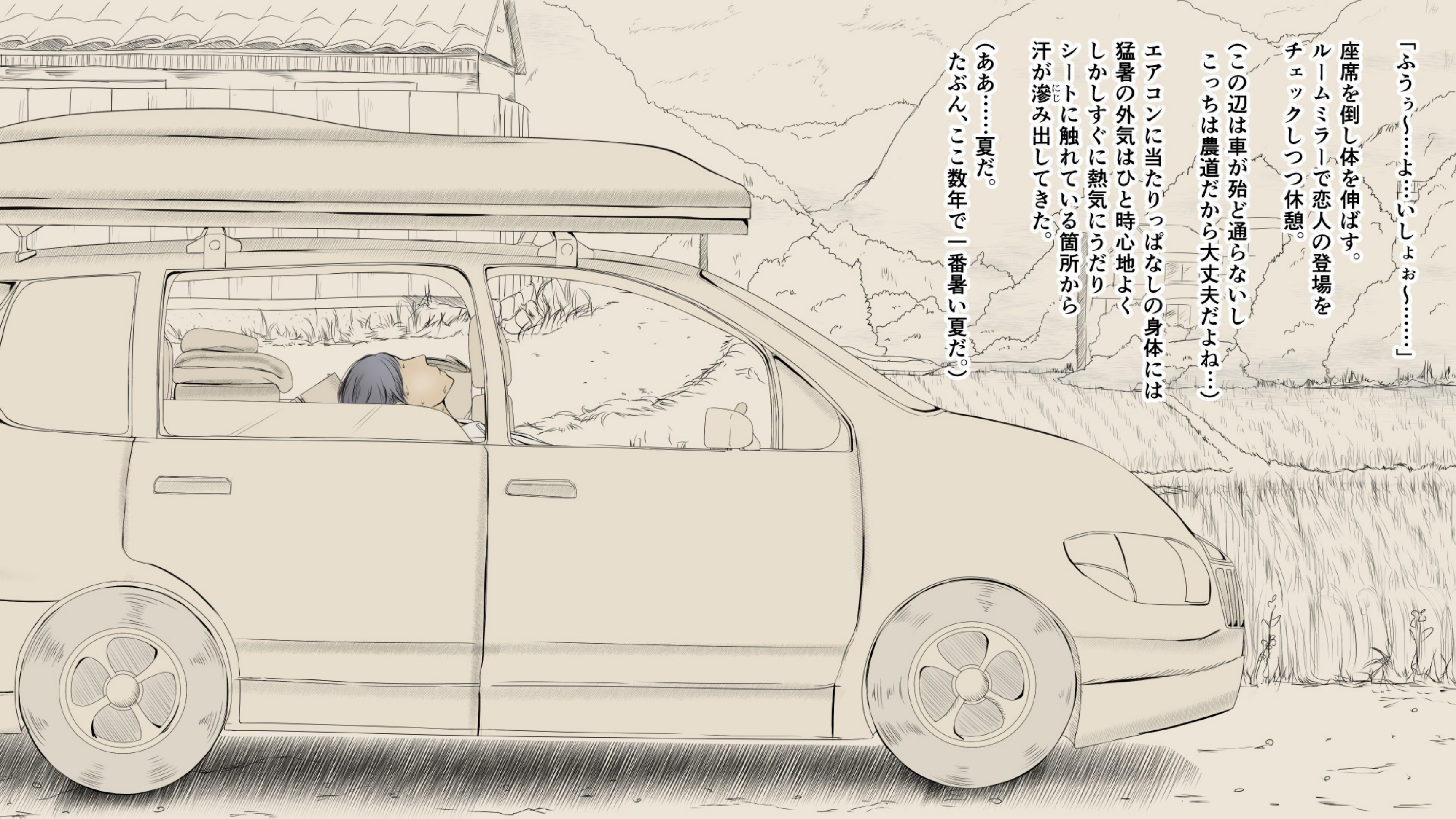
「ふうう〜…よ…いいしょお〜…」

座席を倒し体を伸ばす。  
ルームミラーで恋人の登場を  
チェックしつつ休憩。

(この辺は車が殆ど通らないし  
こっちは農道だから大丈夫だよね…)

エアコンに当たりっぱなしの身体には  
猛暑の外気はひと時心地よく  
しかしすぐに熱気にうだり  
シートに触れている箇所から  
汗が滲み出してきた。

(ああ…夏だ。  
たぶん、ここ数年で一番暑い夏だ。)





セミの喧騒に耳を傾けると  
音の中に自我が溶け込んでいくように感じ  
疲労と睡眠不足で朦朧もろろとした意識に  
不思議な心地よさをもたらしている。

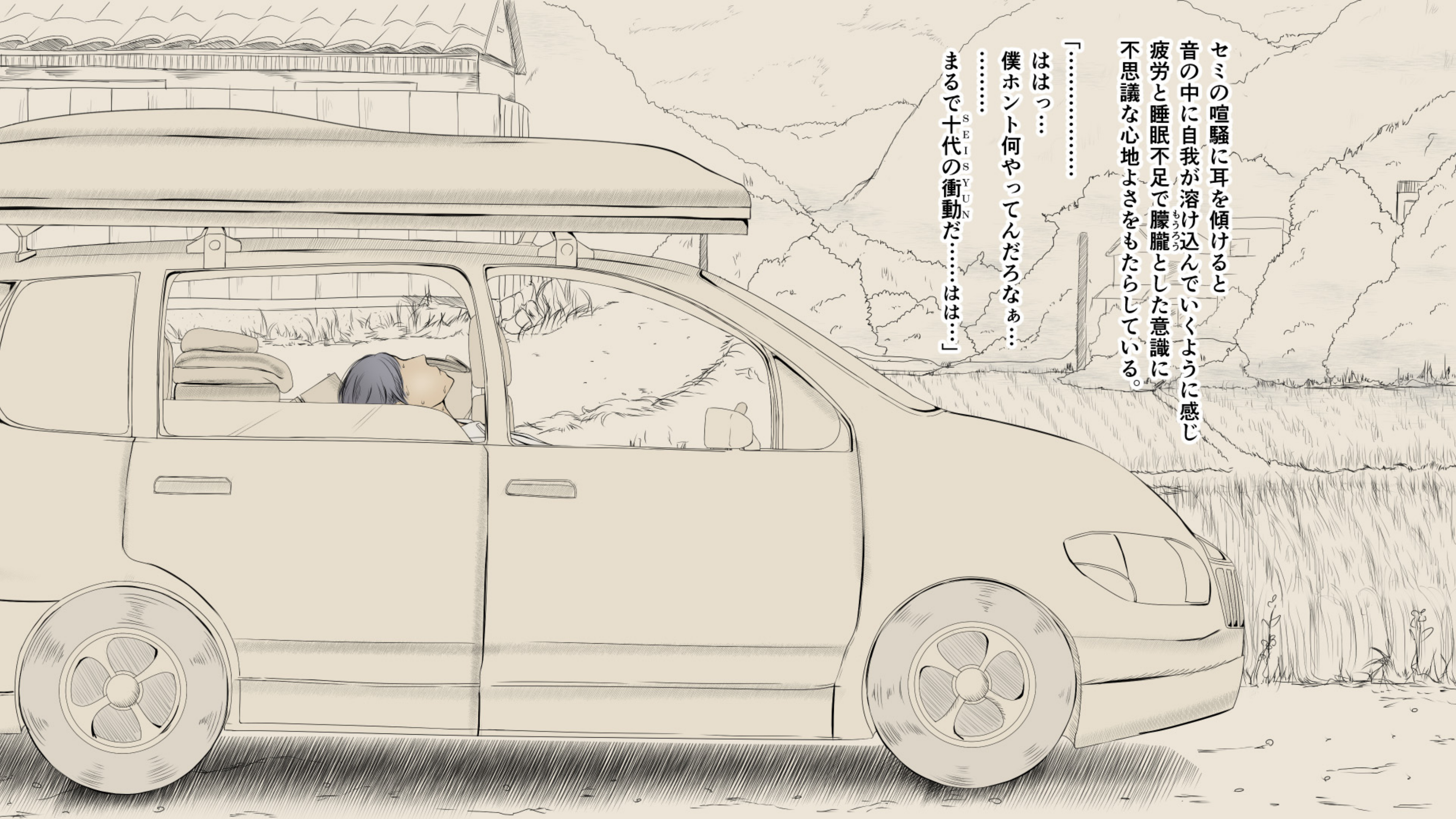
「……………」

ははっ…

僕ホント何やってんだろなあ…

……………

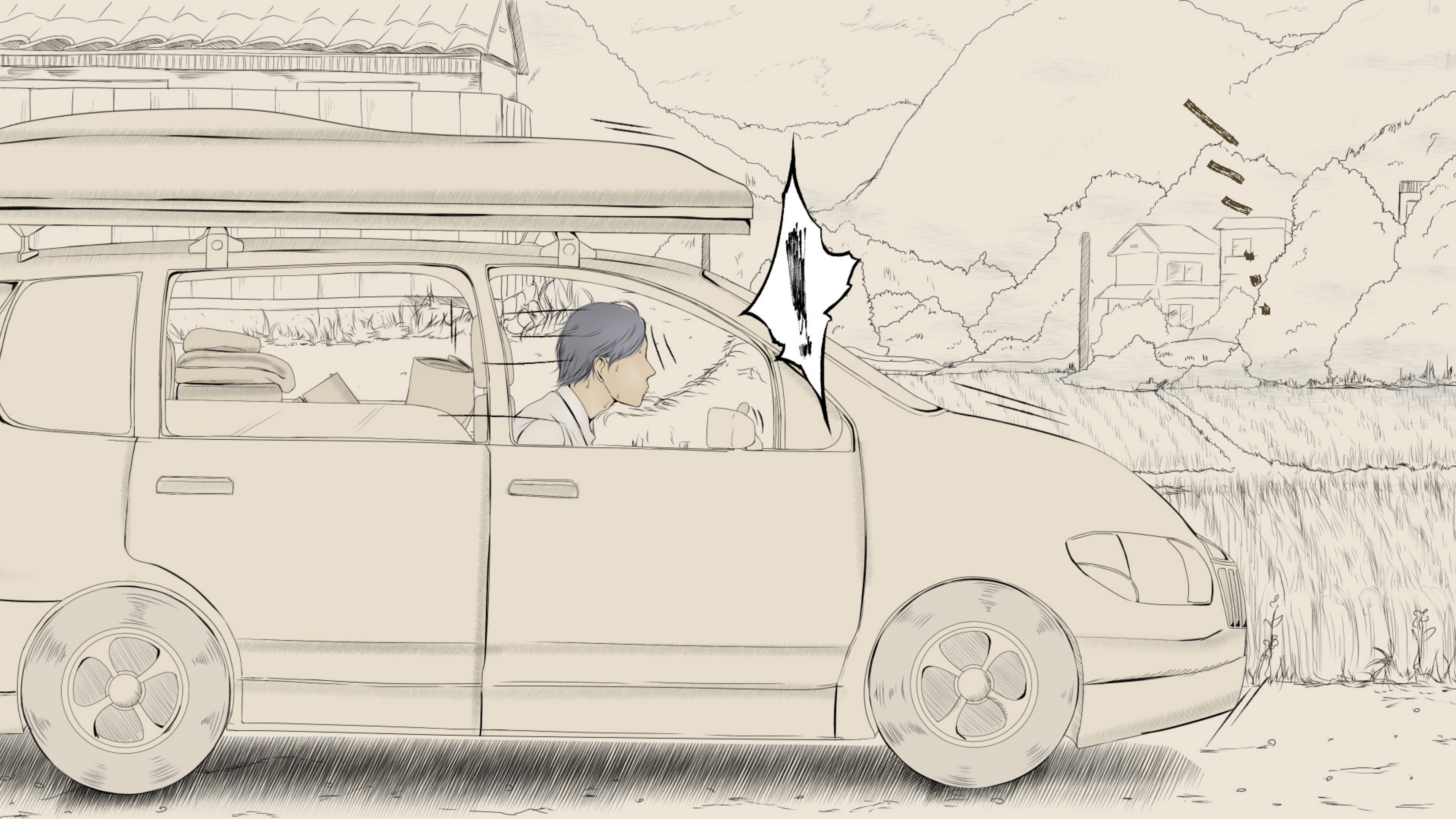
まるで十代SEISSYUNの衝動だ……………はは…」



















来たっ！

あかりちゃんっ！

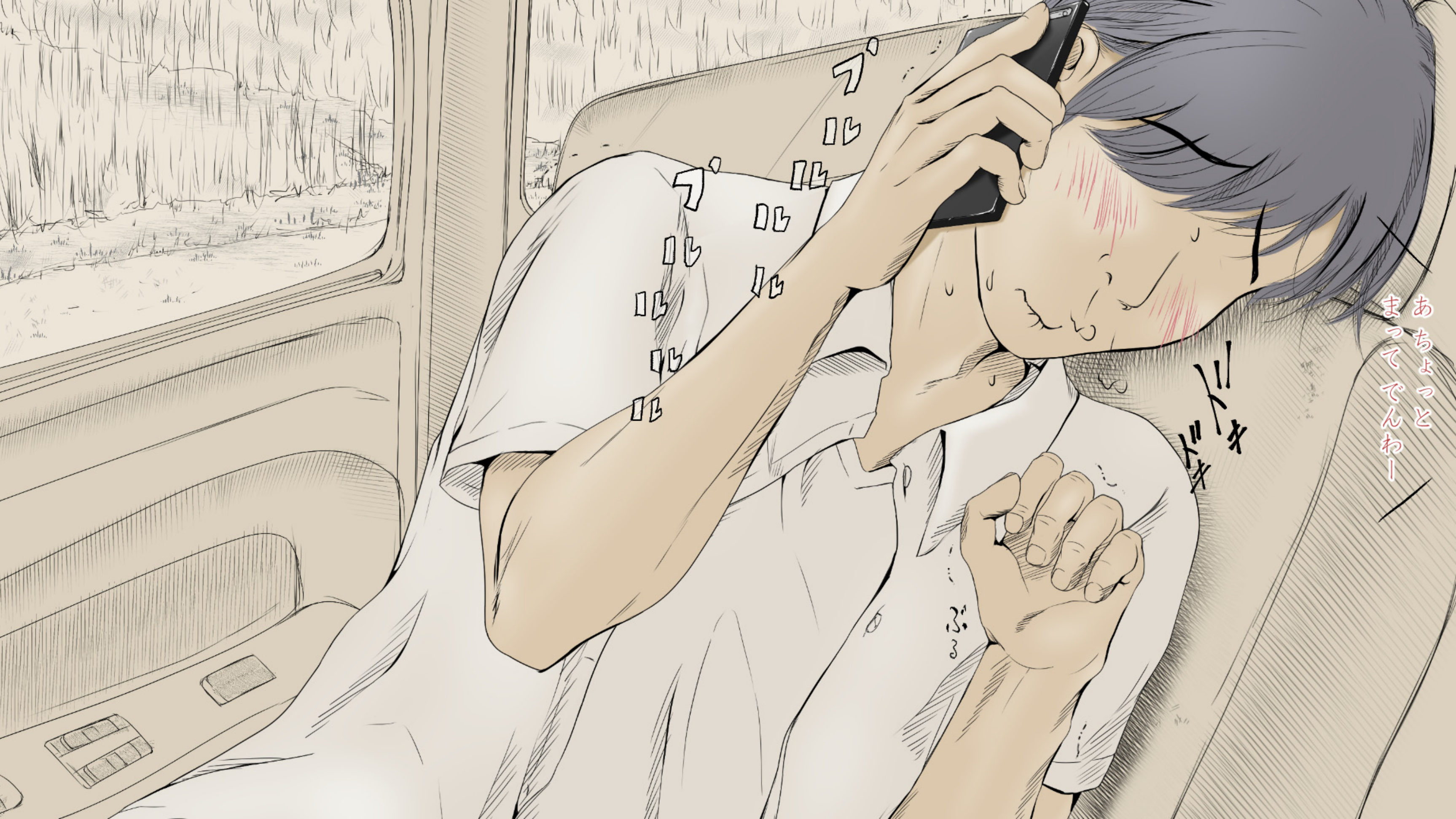












あちよつと  
まっつてでんわー

トキ  
トキ

トキ  
トキ  
トキ  
トキ  
トキ  
トキ  
トキ  
トキ  
トキ  
トキ

トキ



あかりちゃんに出会う前の僕は  
何事に対しても多くを望まず生きてきた。

何かを得た後に必ず訪れる  
まるで不幸の圧平衡を取るかの様な  
機械的な喪失が怖ろしいから。

そうなる事がわかっていながら  
抗ってでも貪欲に得たいもの  
そういうものも無かったんだと思う。

しかし彼女に関わる事では  
何も顧みずに挑み  
滑落に身構えない自分に驚くんだ。

家族に捨てられ

縁もゆかりもない土地の

■ 学生の女の子にご執心

もしも僕が、この社会にもっと  
行き場所のある人間なら…



あっかりちやあ  
しゅん♡

こんな人間を  
卑下ひげしただろうか…

それでも  
『愛』に真っ直ぐだと  
誇るだろうか…



「あか……」

「……うん……え？……かれない？」

あははは……うん、ごめんね

あとでLINEする……うん……

ばいばい……え？……あ、は……い……

「もしもしっ！シンくんですか？」

「ですっ！」

「声大きいですきつきからっ！」

耳キーンってしたし友達に聞かれたよ

バレたら大変なのはシンくんですよっ！」

「ご、ごめん……」

(ああ……♡)

怒ってすらかわいい声……)

「……どうしたんですか？」

お仕事だよね？」

「うん……」

あ、あのさ、急にあかりちゃんの声聞きたくなっただ……」

「あかりちゃん？」

「うん……  
どこにいますか？今。」  
「外周りのお仕事で車の中。」

「……嫌な事あった……ですか？」

「え……あ、いや……」

「いっぱい……ひざまくら  
してあげますか、からね……  
……来てくれたとき……」  
「……うん……」

夏休み前に浮かれて  
友達とひと騒ぎしたのかな。  
いつもより少し声がしゃがれてて  
でもいつものように僕を包み込んでくれる  
やさしい喋りかた。



「ほんととはすぐ会って  
いい子いい子って…  
してあげたい……」

「……そ、それなんだけどね  
あのね……」

「はい……え？  
……もしかして……」

「うん…今月行けます…」

「いやったやったやったあ〜♪」

（ここまで届く弾んだ声。）

（声大きいよあかりちゃん…♡）

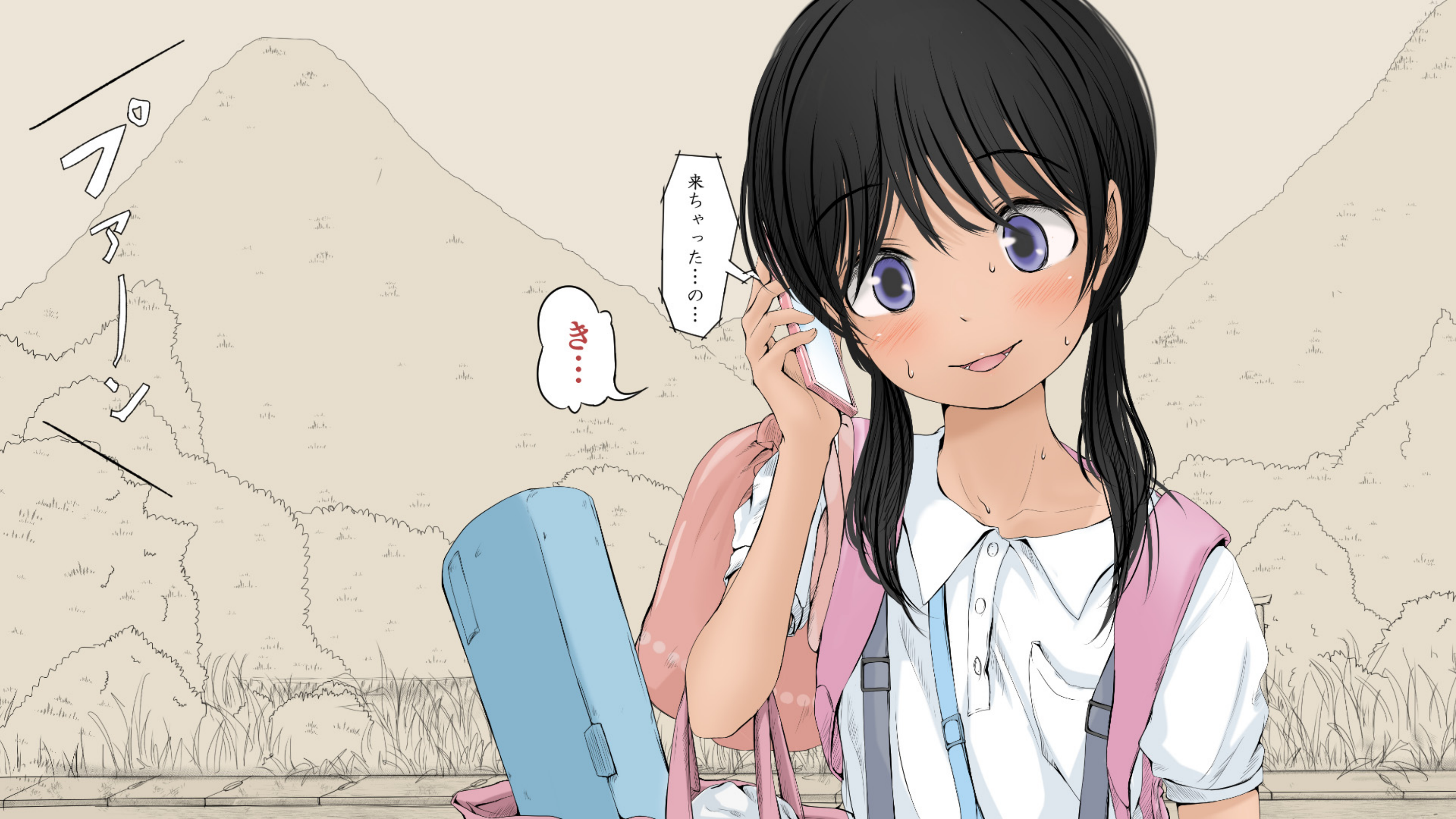
「いつっ!?ね、いつっ!?」

「今月だよね?7月だよね?  
じゃああともう十日ぐらいだよ?  
ねえいつですかっ!?」

「それが実はね…」

「うんっ!いつデスっ!」





来ちゃった…の…

き…

ア

ア

ア

ア

















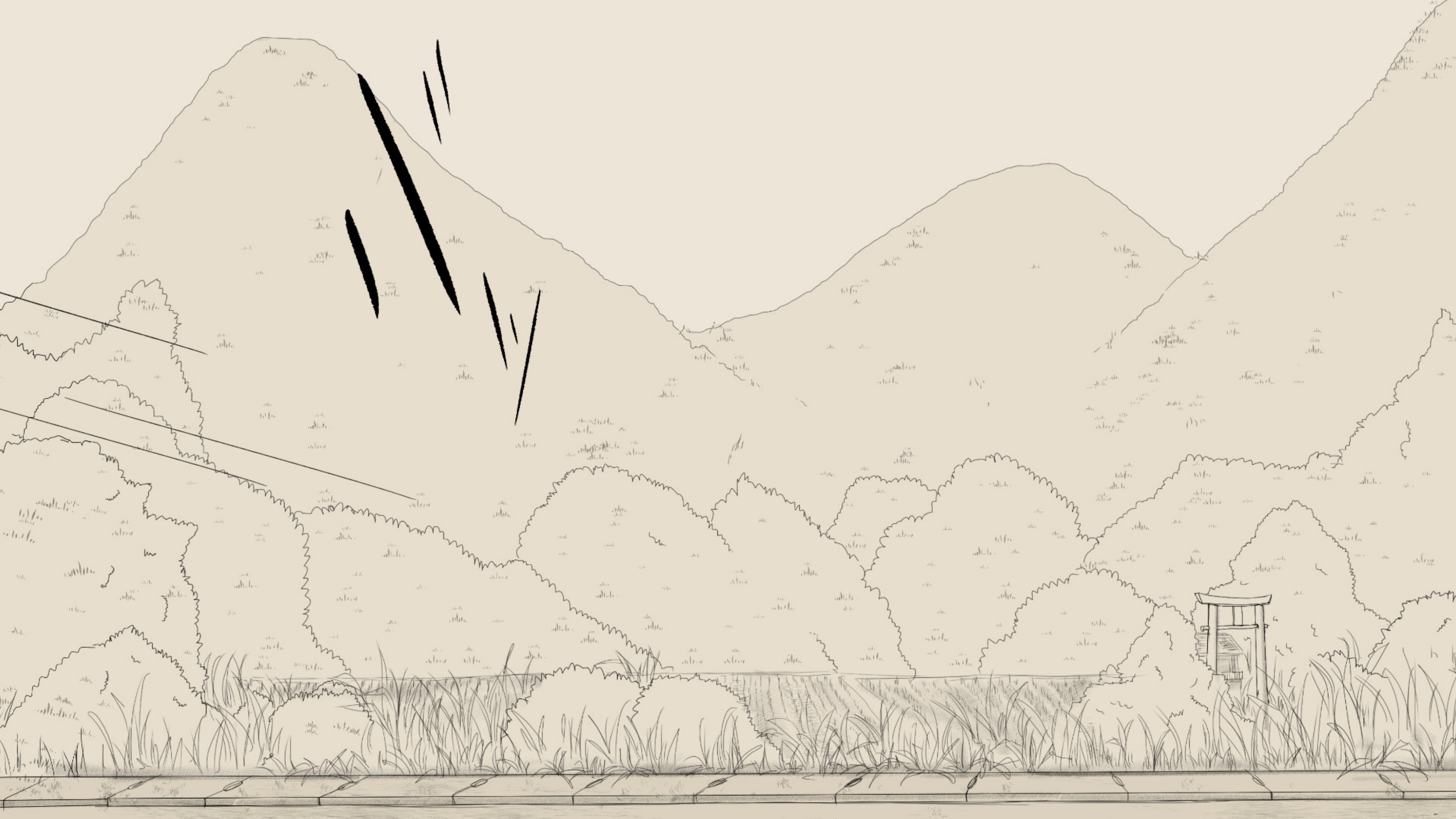
















変な走り方っ！



カッ  
ッ  
ッ

カッ  
ッ  
ッ













え?なんで?  
なんでえ?

なんで  
いるの?

シン...シン...

シン...シン...



この子なら、こんな自分勝手な来訪も  
きつと喜んで迎えてくれるって  
思っていたけど  
それがどのようなものかと  
想像を巡らせてはいても

「うああああああんっっ!!  
シンきゅん、シンきゅん!!」

号泣されるとは考えなかった。

恋愛ドラマよろしく  
再会して抱きつかれて  
泣きじゃくられるなんて  
…こんな事生まれて初めてだ。

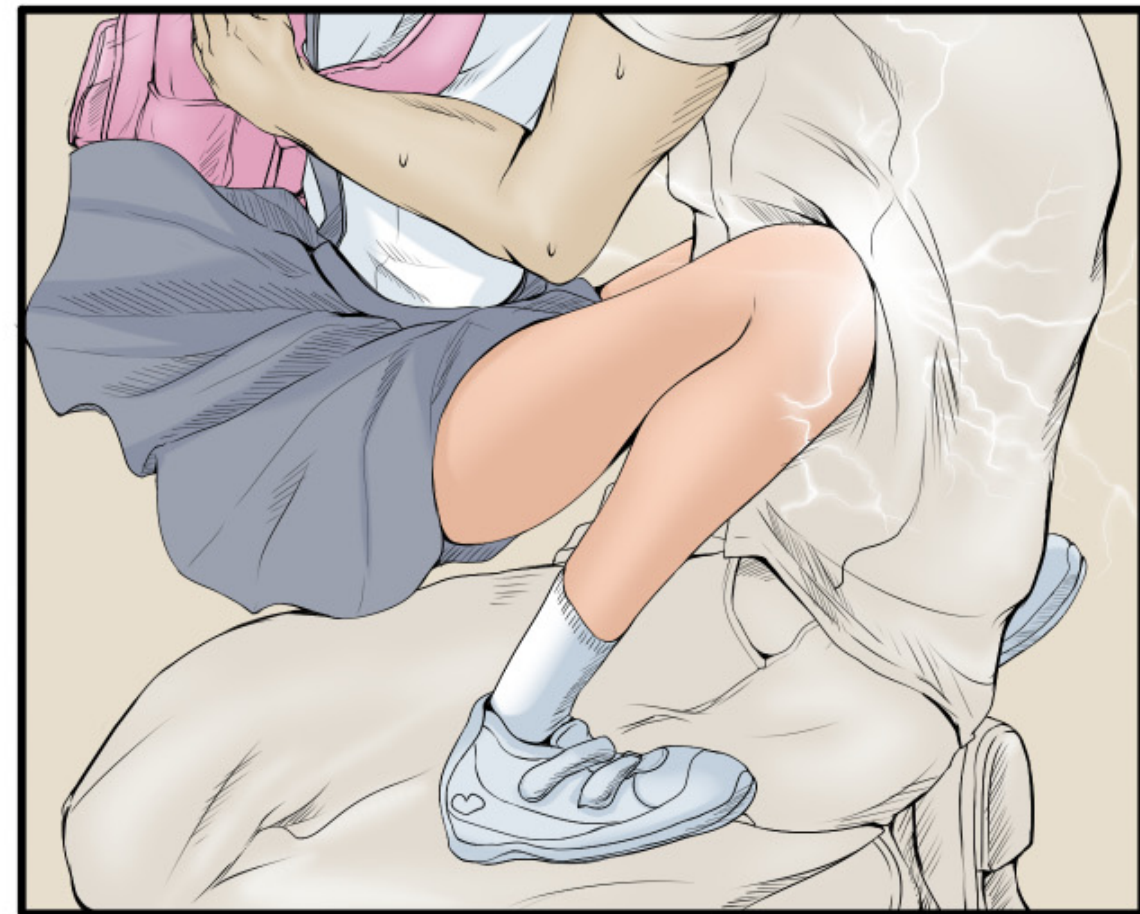
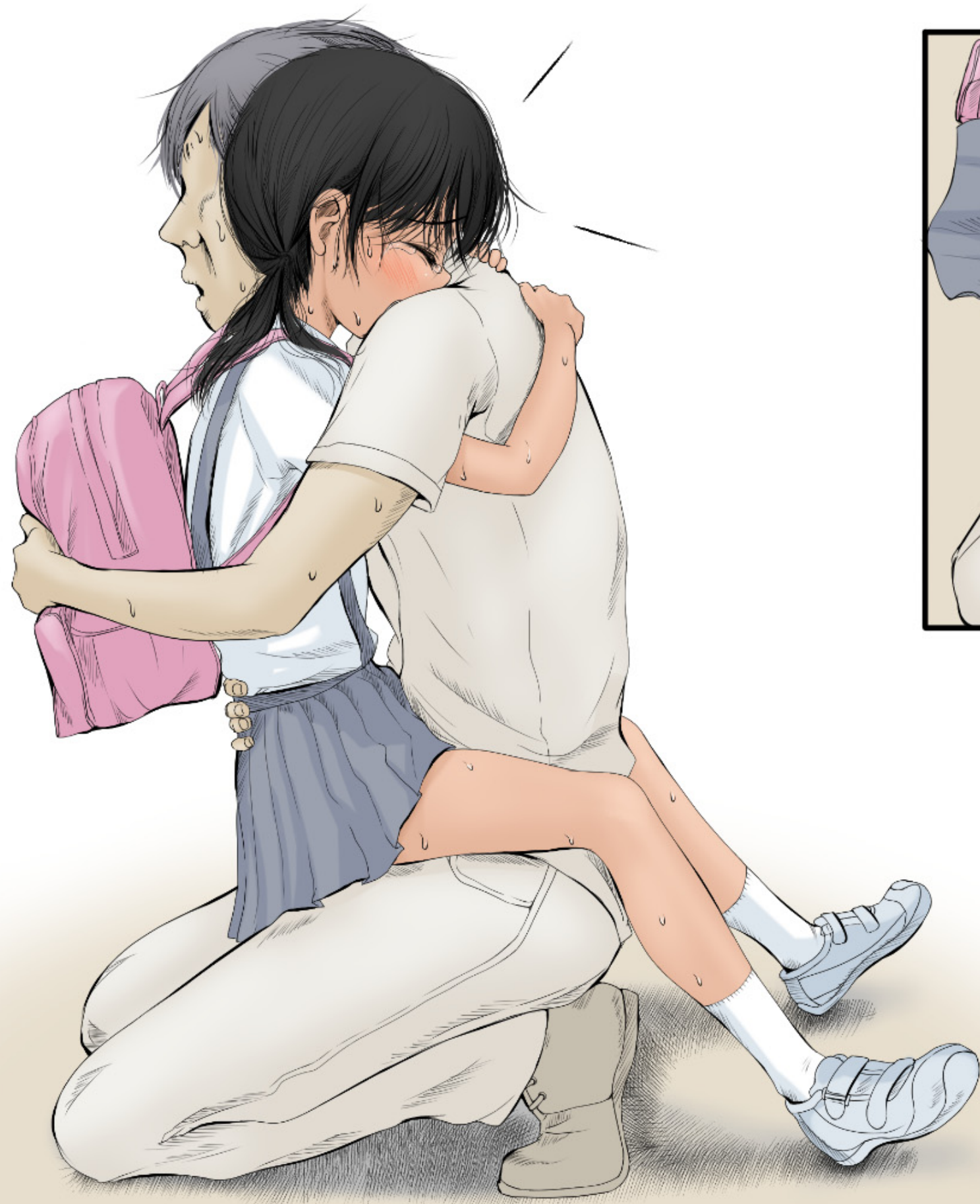
(こういう時は  
逆にこっちは冷静になるのか…)



周囲には民家がちらほらある。  
人目を憚った方がいいんだけど  
色々で泣いてる女の子に男がすべき  
所作が僕にはわからない。

あと、それとは別に  
ちよつとした問題が一つ  
発生しています。  
今あかりちゃんが飛び込んできた時  
入ったの…







肋骨に

一点

ヒザが

全加重

アキアキ





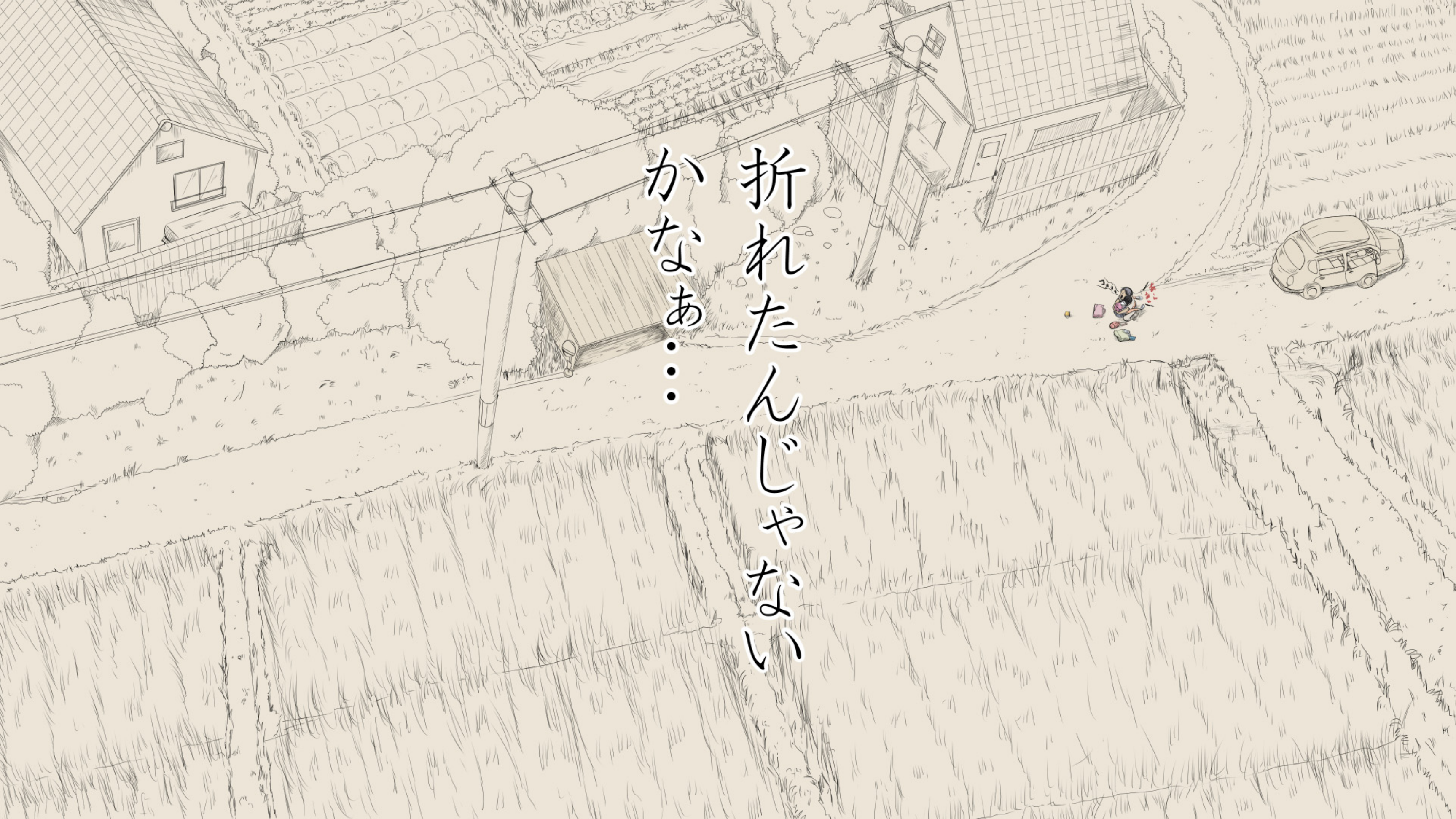






もしかしてこれ……





折れたんじやない  
かなあ……





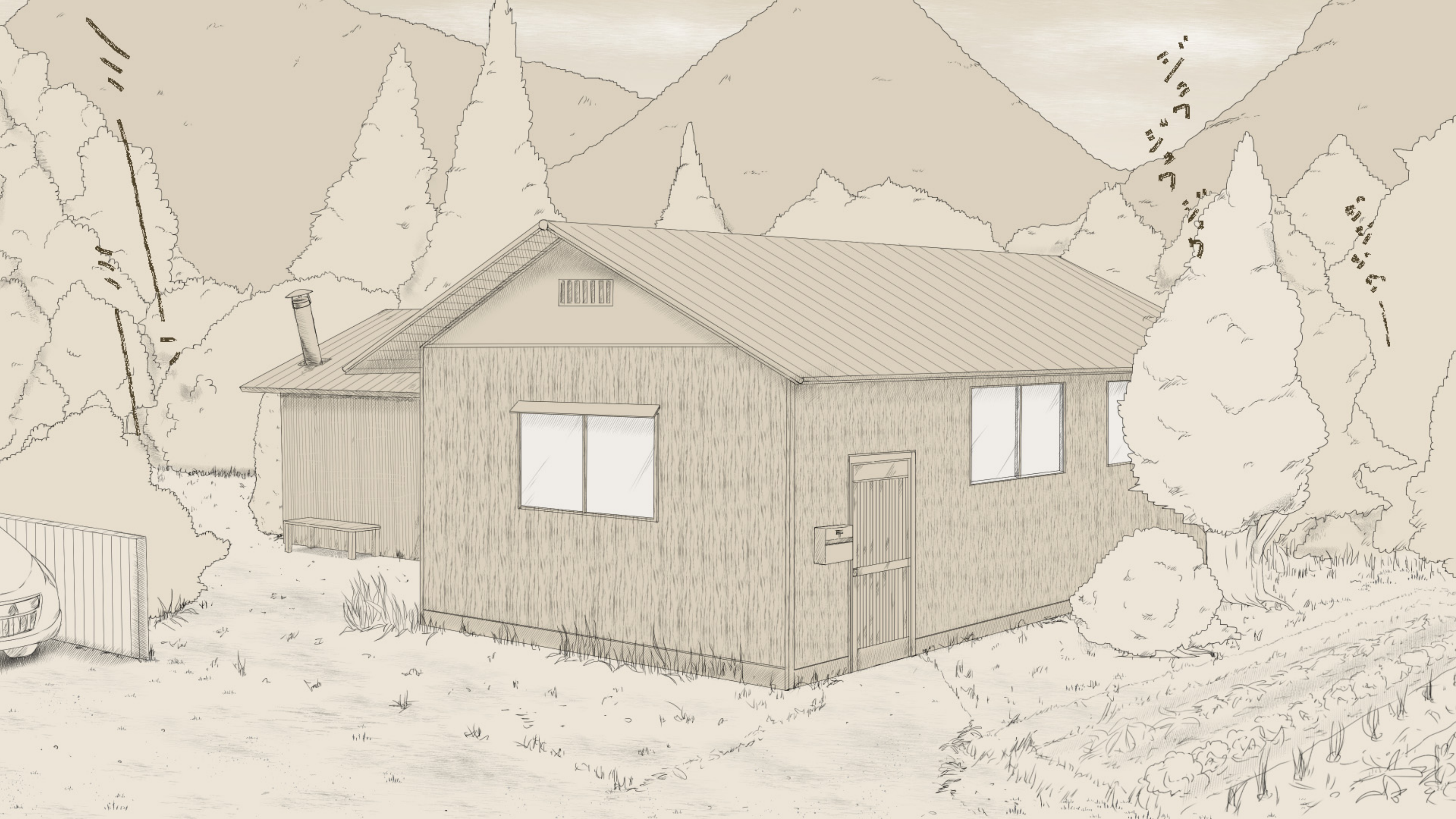


三幕

薪のお風呂と小麦色













僕は子供の頃、田舎のあぜ道で  
イノシシに激突された事がある。

漫画のように吹っ飛び転がり  
肋骨が2本折れたんだけど  
その時はもっと深刻な信号が  
身体中を巡った覚えがある。

皮膚表面は熱気を帯びているのに  
体内を寒々とした何かが  
重みをもって侵食するような  
そんな感覚だった。

(痛いには痛いけど  
これならいっててヒビかな...)

「だいぶ治まってきた...」

「ほ、ほんとうっ!？」

「ごめんなさい、ごめんなさい...」

現在もつとも  
痛みを逃がせる体勢

「もう、あかりちゃん...」

「いいってばさあ...」

「だって...」

1ヶ月ぶりのあかりちゃん宅。

過ごしたのはほんの数日なのに

不思議と懐かしく感じる茶の間に寝そべり

言わば公認膝枕中♪  
オフイシマル甘えんぼ



その後  
のろのろ運転で家の前まで乗りつけ  
あかりちゃんはおばあさんに緊急報告。  
いつもは何事にも動じない方が  
嫌にうろたえる姿が妙に可笑しかった。

僕としてはこの怪我、追い風というか。  
やましい気持ちを背負っているが故に  
どんな顔して連泊の交渉に臨むの<sup>のぞ</sup>かって  
この旅一番の不安要素だったんだけど  
痛みとどさくさに紛れて  
すんなり幾日かの約束を  
取り付ける事ができた。

泊めてください

死ぬのかもしれない!

なんて目じゃっ





あかりちゃんのおばあさん。

この方は油断ならない。

平時においてはご老体然とした

鷹揚さをまもっているが

その眼の奥に、只ならぬ鋭さを携えている。

僕みたいな小心者がやましき頭わに  
お願いしたら『邪な企み』を察知され

「一日ならいいが、連泊はご遠慮を…」

と、この流れが濃厚だと思っていた。

下手をすれば警戒の対象として

おばあさんから地域の方々に向け渡るとか。

そうになると、今後周辺に近づく事すら

できなくなる。

村正  
包丁

当たり前だけど

あかりちゃんとの関係は

誰にも勘づかれてはいけない。

あと7年。

彼女が1才になるまでは

危ない橋を渡り続ける道行きなんだ。

(そんな長い間、この関係が続いてるって  
奇跡だけど…)



しかし…

何をやっても  
肝心要かんじんかなめでつまづく僕の境涯きょうがいも  
この子との事だけは

ほんに申し訳  
ない事です…

い…いんですよ…  
たいしたこと  
ありません…んから…

おばあちゃん  
やっぱり救急車呼んだ  
方がいいんじゃないかな

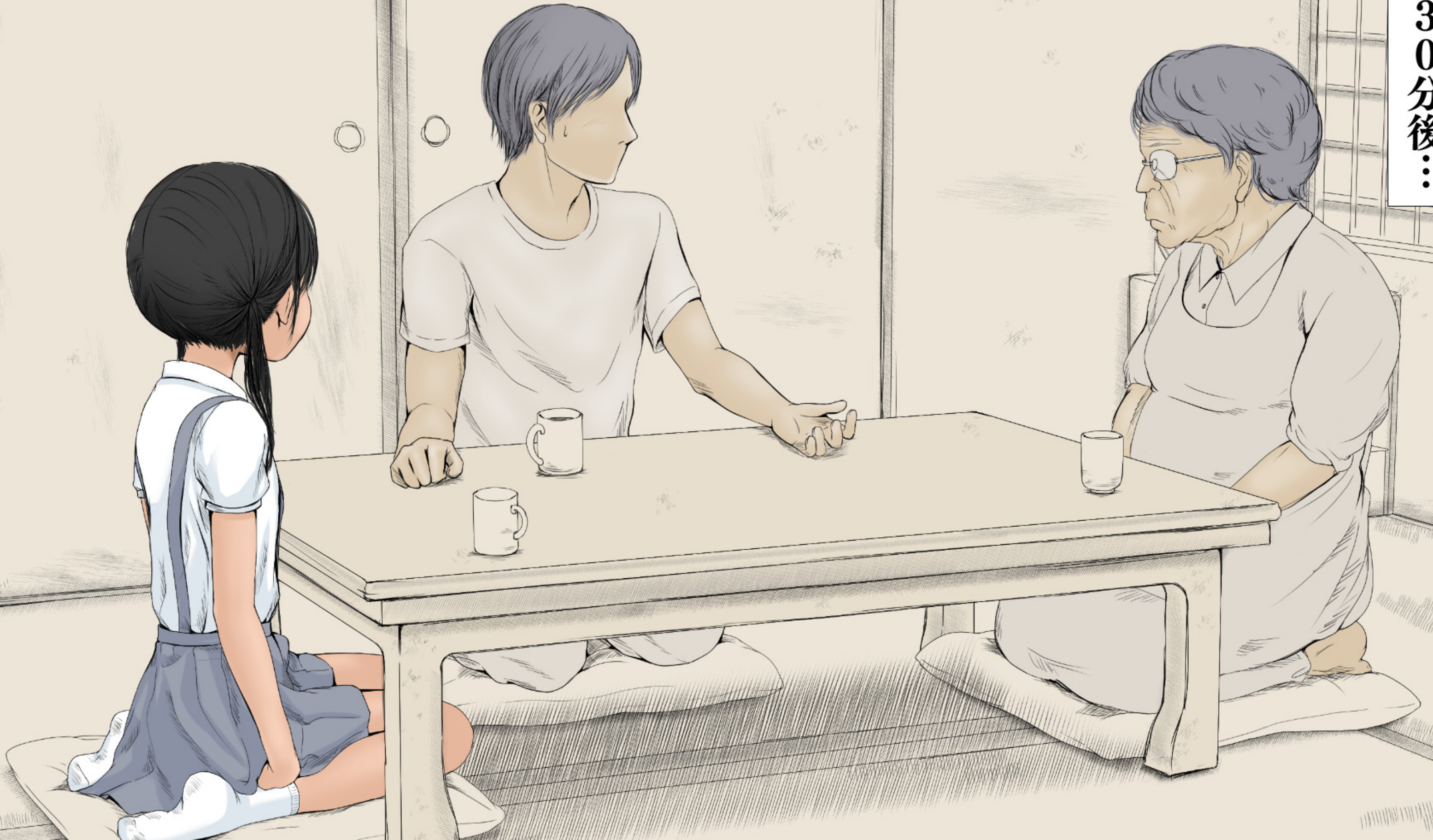
やめてよ  
このまま

なぜか  
その尽ことごとくが上手ことごとくいくのです。

ロキソニン テーブ



30分後：





時間と共に痛みも随分引いてきた。やはり、これならいっててビビどまり。折れてなくてよかった。

体を起こしていられるようになったので冷たいハト麦茶を頂きながら宿泊についての話をまとめさせて貰った。

土地開発などに伴う生態系の影響を調査する会社に勤めていると偽った僕は、偶然訪れた前々回そして前回とで、この辺りの集落を中心とした、人と生き物との良好な関係に興味を持った。

生物達の活動がおうせい旺盛な夏の2週間単独で調査活動する許可を得られたので本腰を入れて調べたく時々泊まらせては貰えないかと。

すると…

「そうでございますか。」

：怪我しても休めんですか…大変なお仕事ですなあ。

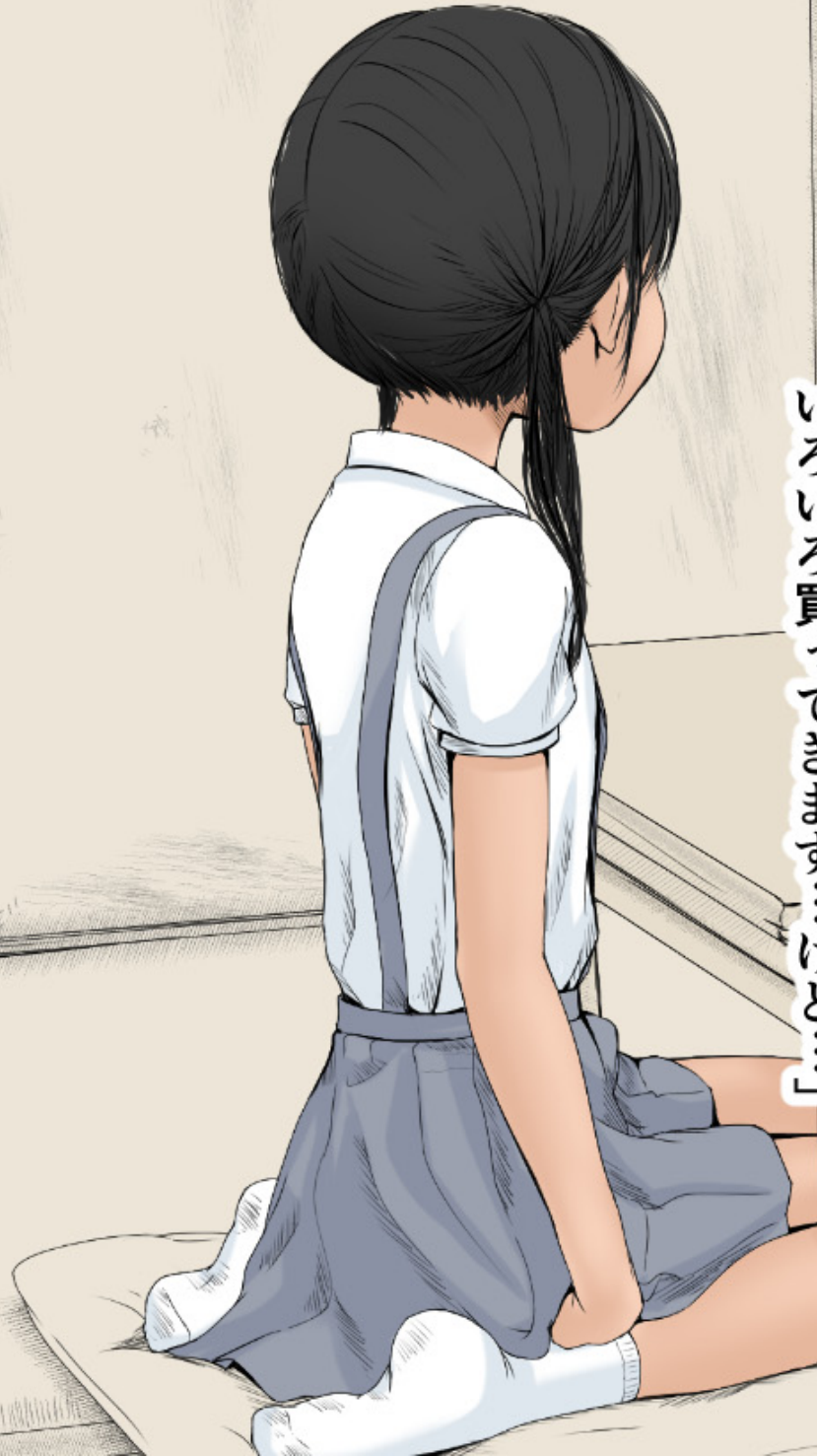
こんな所でよければ、どうぞご遠慮なくのう。」

「ありがとうございます。助かります。」

「食べ物をご用意できりゃ、ずっと泊まってもらってええんですが…」

「え？…」

じゃあ…明日、町まで行って足りない分の食材とかいろいろ買ってきます…けど…」





「お客さんにそういう事をさせる訳にはいかんでしよう。骨も折れとるんでしようが。」  
「い、いえ、たぶんヒビ程度ですし運転は別に差し障りさわありません……」  
それに痛み止めや湿布なんかもついでに……

「……ほうですか……  
こんなところで  
怪我人を車のテントで寝泊りさせるよりはええですかのう……  
ほいじゃ孫、手伝いにつけますでええの？あかり。」  
「う、うん。」

「わ、悪いねあかりちゃん。」  
「い、いえ……いいですよ。」

「……」  
「……」

- ①夏休み始まり
- ②連泊OK
- ③明日一緒にお買い物

ここまですっぺんに揃うとき  
おばあさんに見られてるの  
わかってるんだけど……





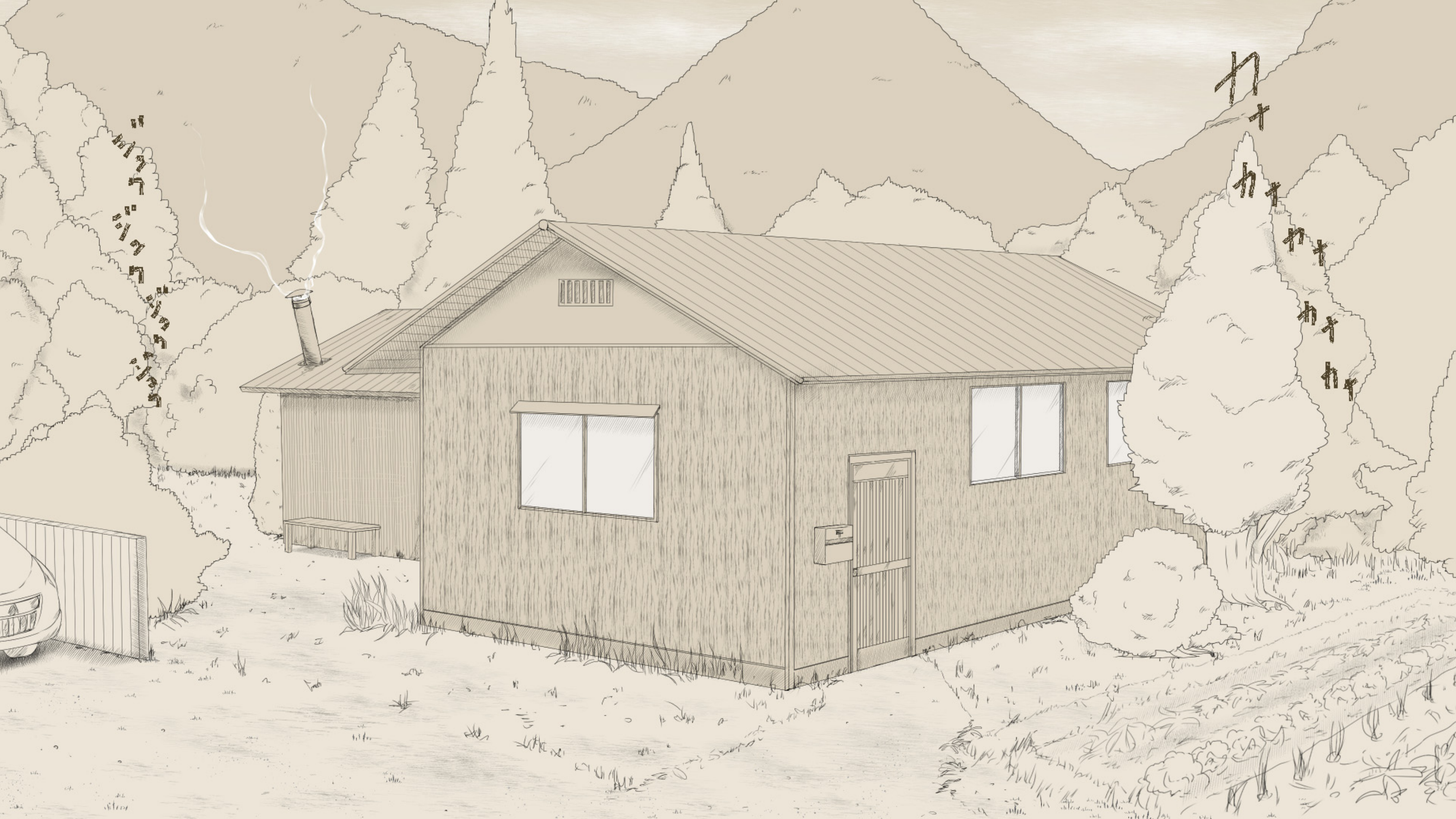
こんな顔に  
なる…なる…♪

…明日…  
ひま…なので…

川口  
あき

じいじ







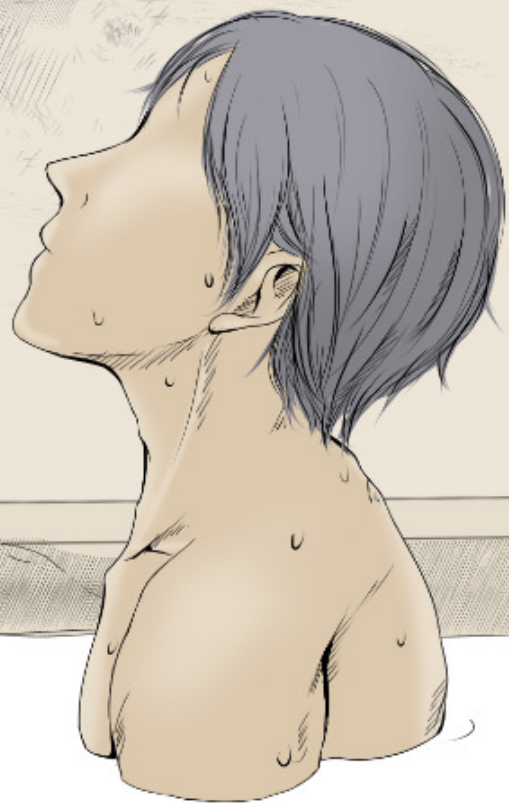




ああ…やっぱりいい…  
煙の香りいい…

新風呂…好き…

あかりちゃんの膝枕の  
次ぐらいに♪  
くすくすっ





山間にあるこの場所は  
平地の日没とは趣きの異なる階調で  
少し早めに空が宵へ変貌する。

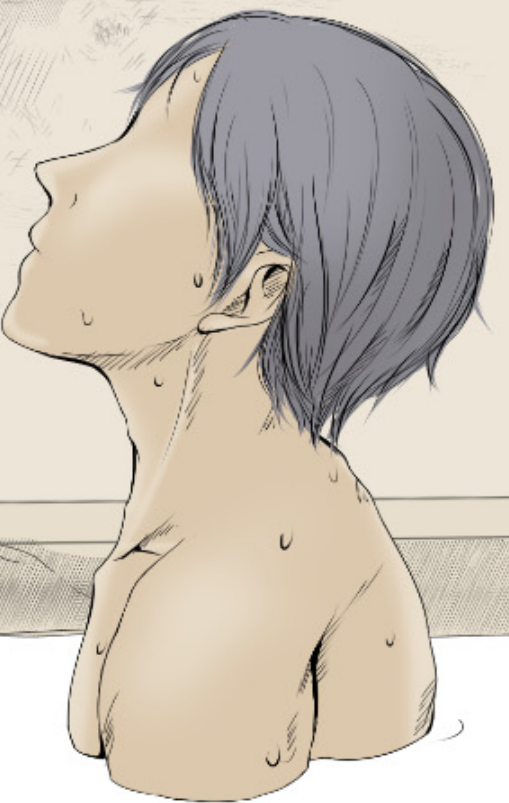
7月中旬の18時。

それでもまだ、外は昼間と言える程に  
強い陽光が  
濃緑の木々を燦爛と輝かせている。

「こんなに明るいうちにお風呂入るの  
何年ぶりだろ…」

…思い出せないぐらいだな…」

怪我に障らないよう  
ぬるめのお湯で汗を流し  
すっきりしたらどうかと  
勧められたので  
遠慮なくお風呂を頂く事にした。



アブラゼミでしょ…  
ツクツクボウシと  
クマゼミだこれ…

さっきオニヤンマも見たぞ…  
明日網買おう…オニだのクマだの  
大変ですぞ…くすくす…  
あ…カブトムシ…蜜も買おう…♪  
居るんだろ？クワガタ氏  
キミも居るんだろ？

半日の運転で、むくんだふくらはぎや  
凝り固まった腰から背中にかけての  
筋肉の緊張が、解されていくのがわかる。

たしかこの家の生活水は水道じゃなく  
70mぐらいの深さにある水脈から引く  
地下水って言うってた。  
薬効のある成分でも溶け込んでる  
のだろうか。

(普段なら…まだ会社に居る  
時間だっけ…)

家に居づらい僕は、タイムカードを切ったあと  
明日に回せる仕事を一人デスクでやっている  
丁度その頃だ。

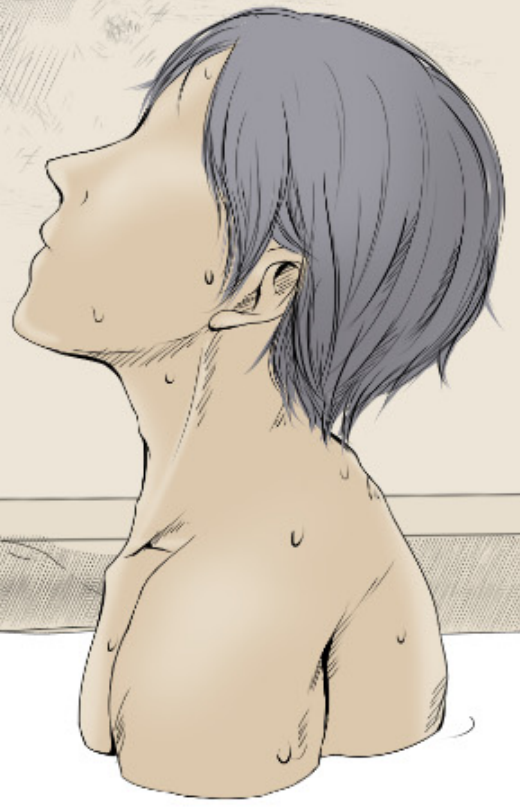
なんだろう…仮病で学校を休んだみたいなの  
後ろめたさと、わくわくが混じったような心持ち…



お湯加減どうですか？  
ぬる  
温すぎないですか？

.....

これ以上温まると  
ぶり返すかな...  
少しシクシクしてきた...



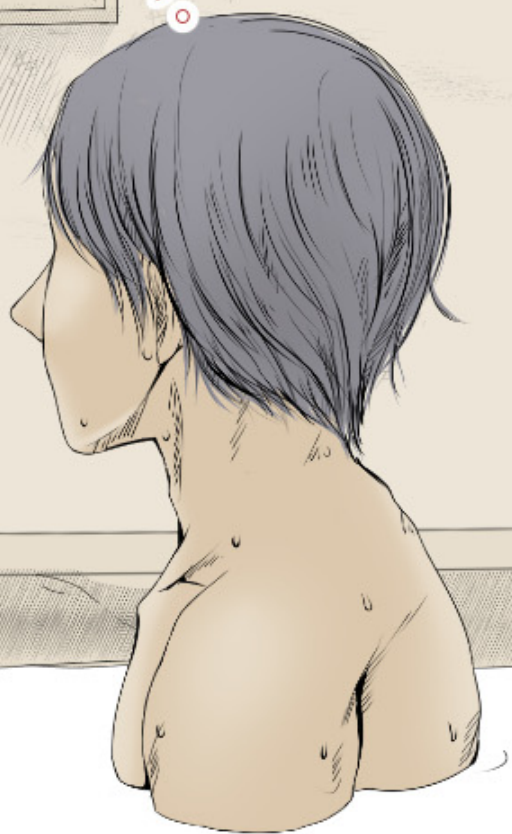


「うん、丁度。  
もう薪くべなくても大丈夫。  
ありがとう。」

「はい。  
あの…バフいれました？バフ。  
見えるトコにあるでしょ？  
取れなかったら  
わたしがと、取りましようか？  
骨に効くかもしれないよ  
か、身体も流しますよ？」

「……………」  
「シンくん？  
あれ？」

効かないと思う





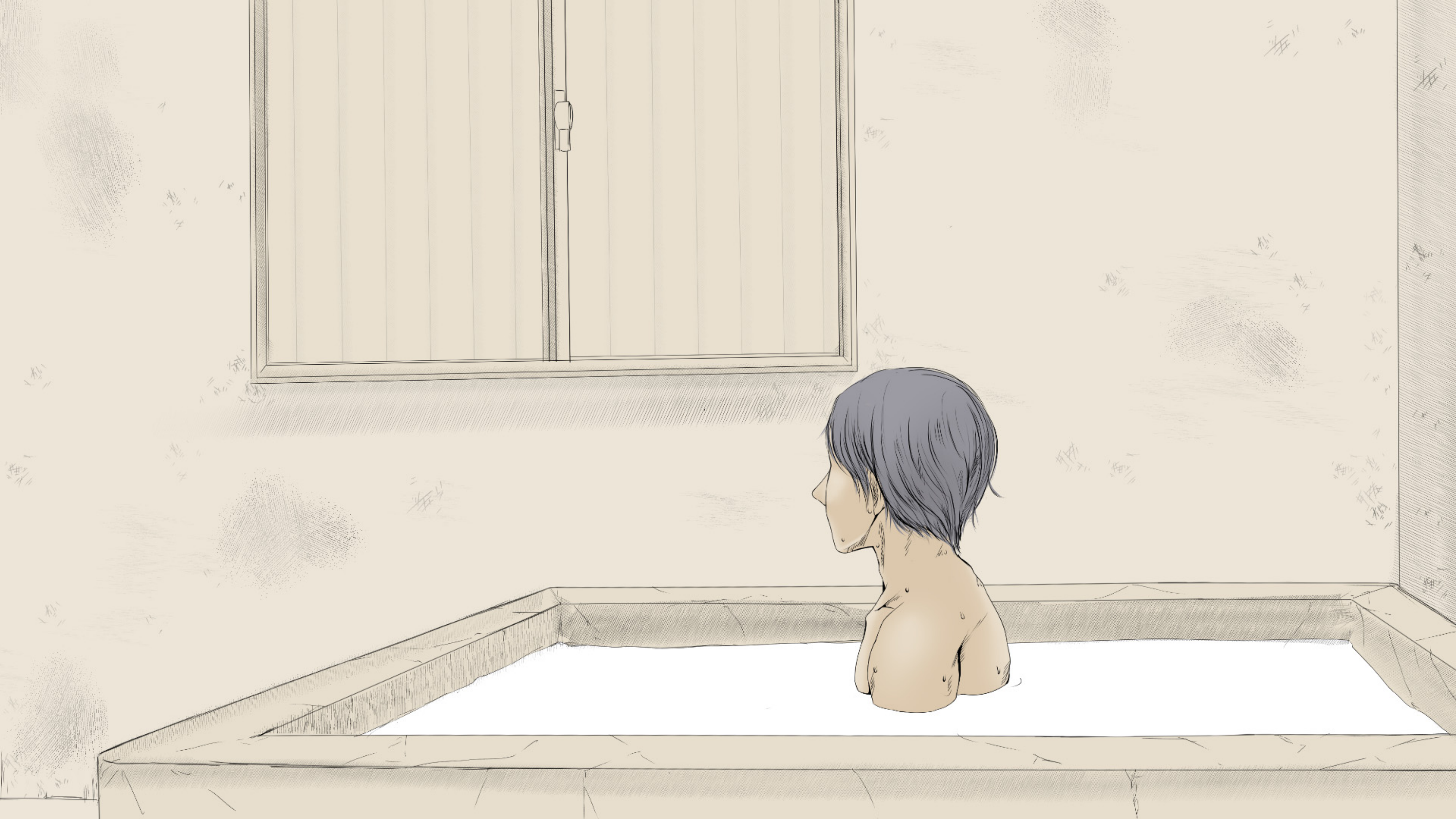


はい？

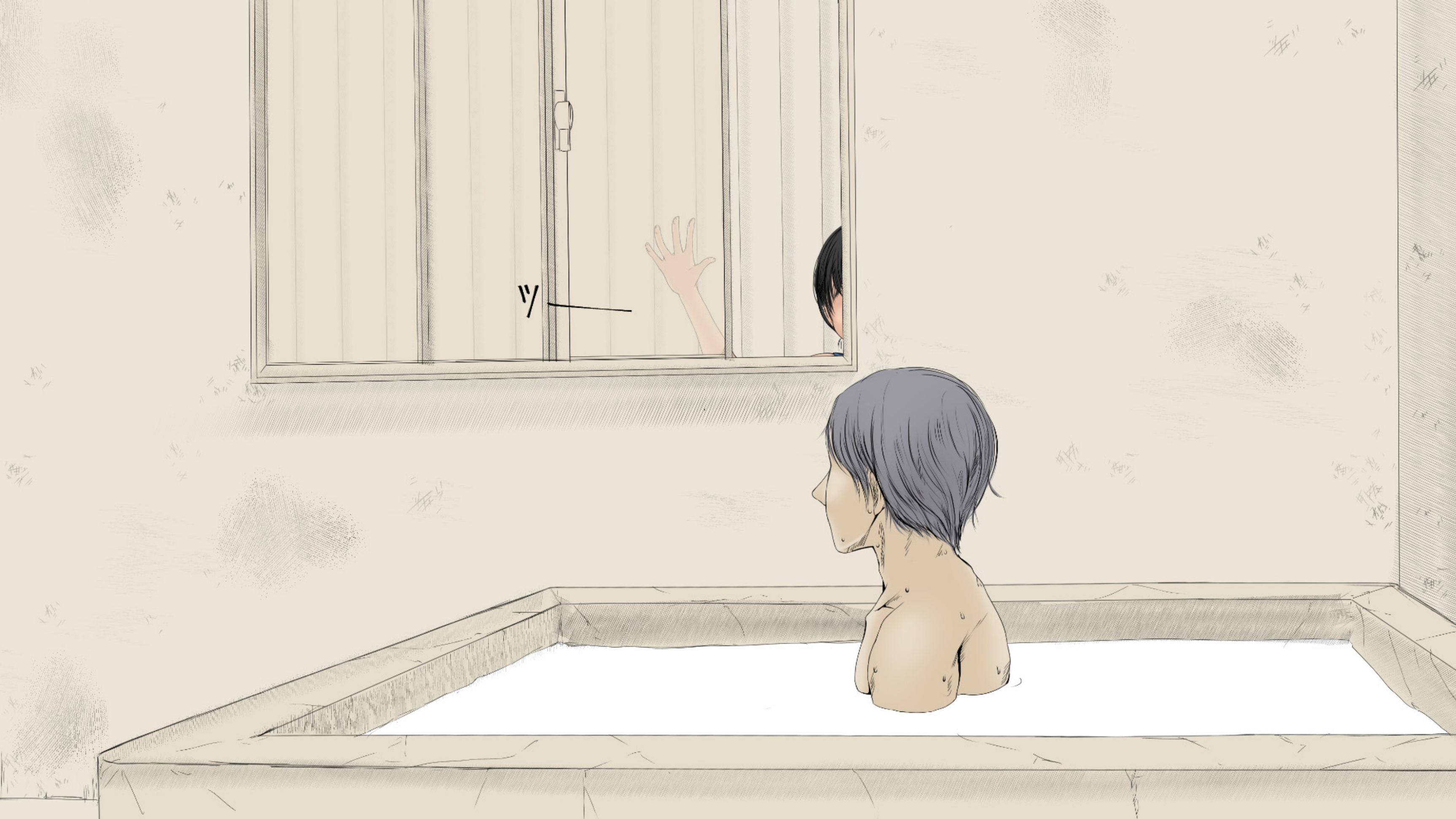
あ、あかりちゃん…

あ、あ、逢いたかった  
ですよ…

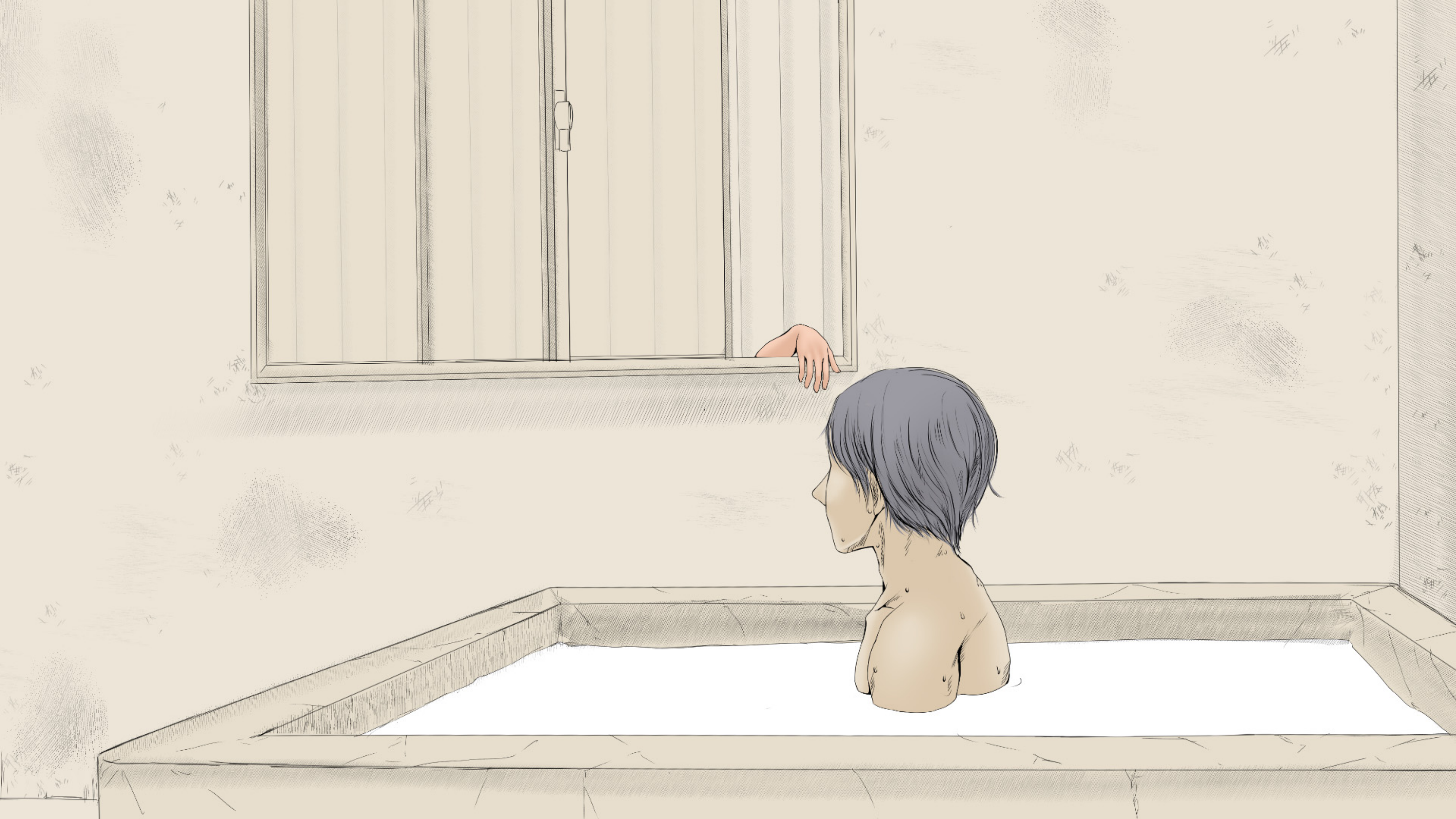




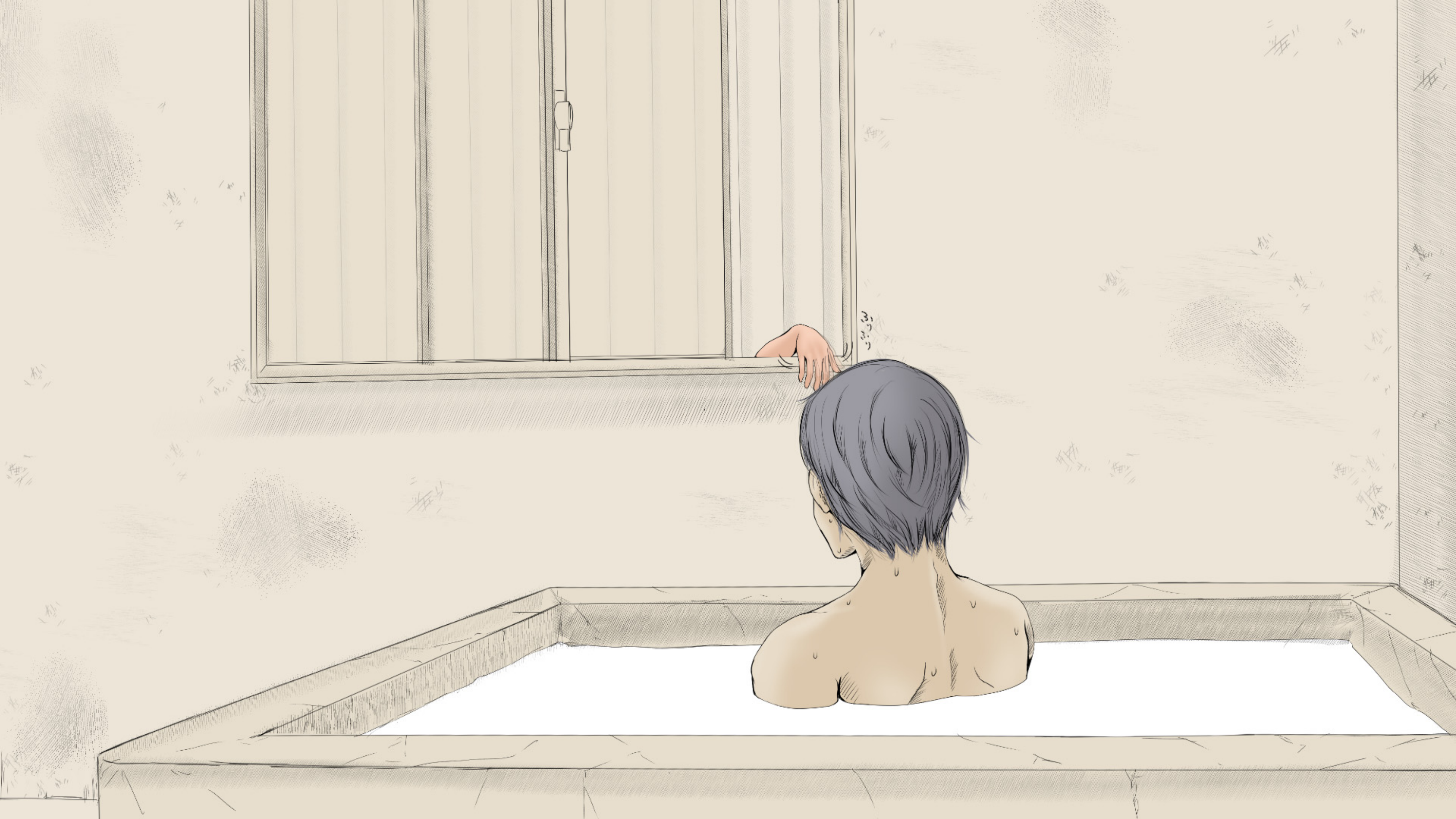




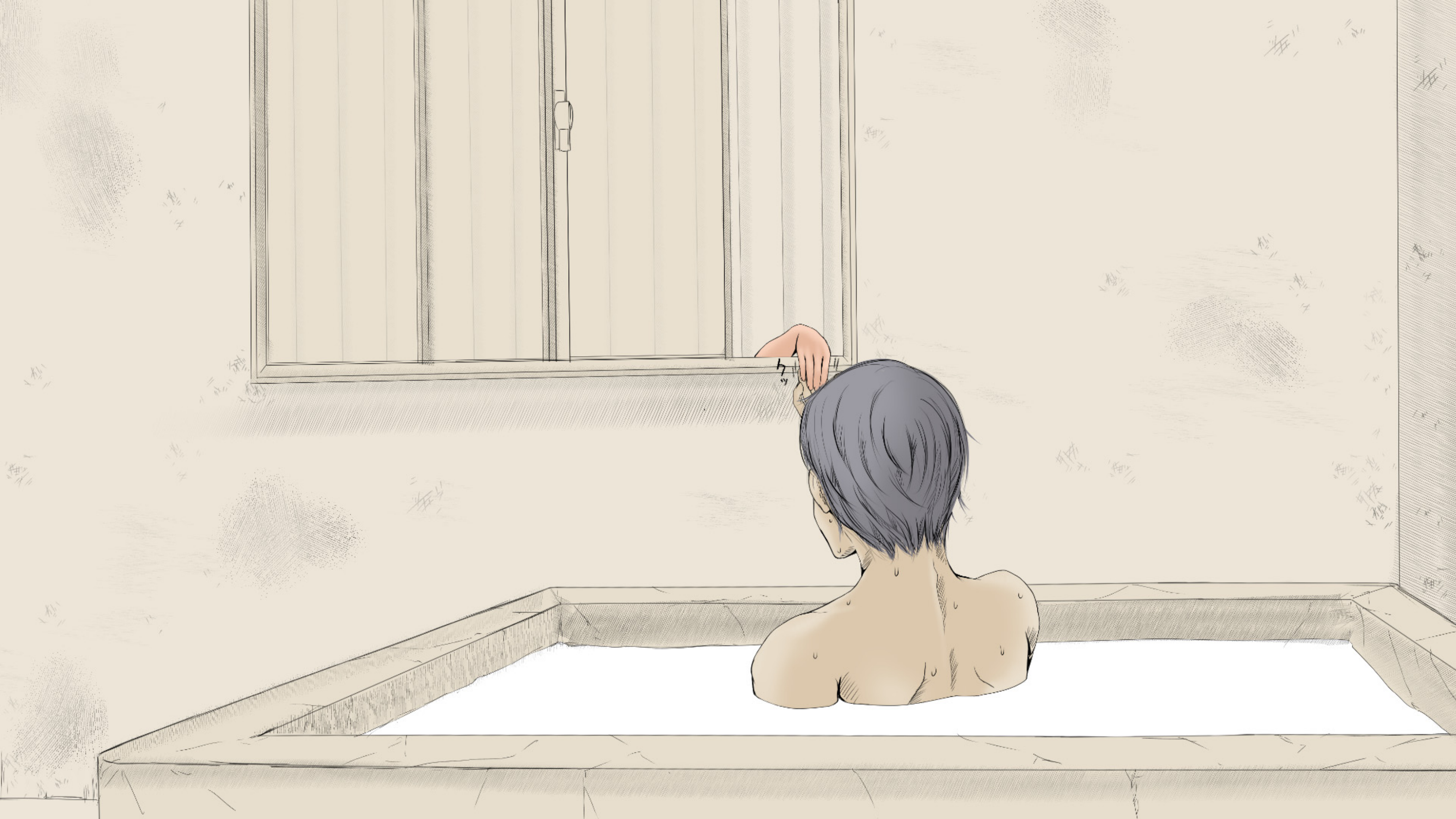




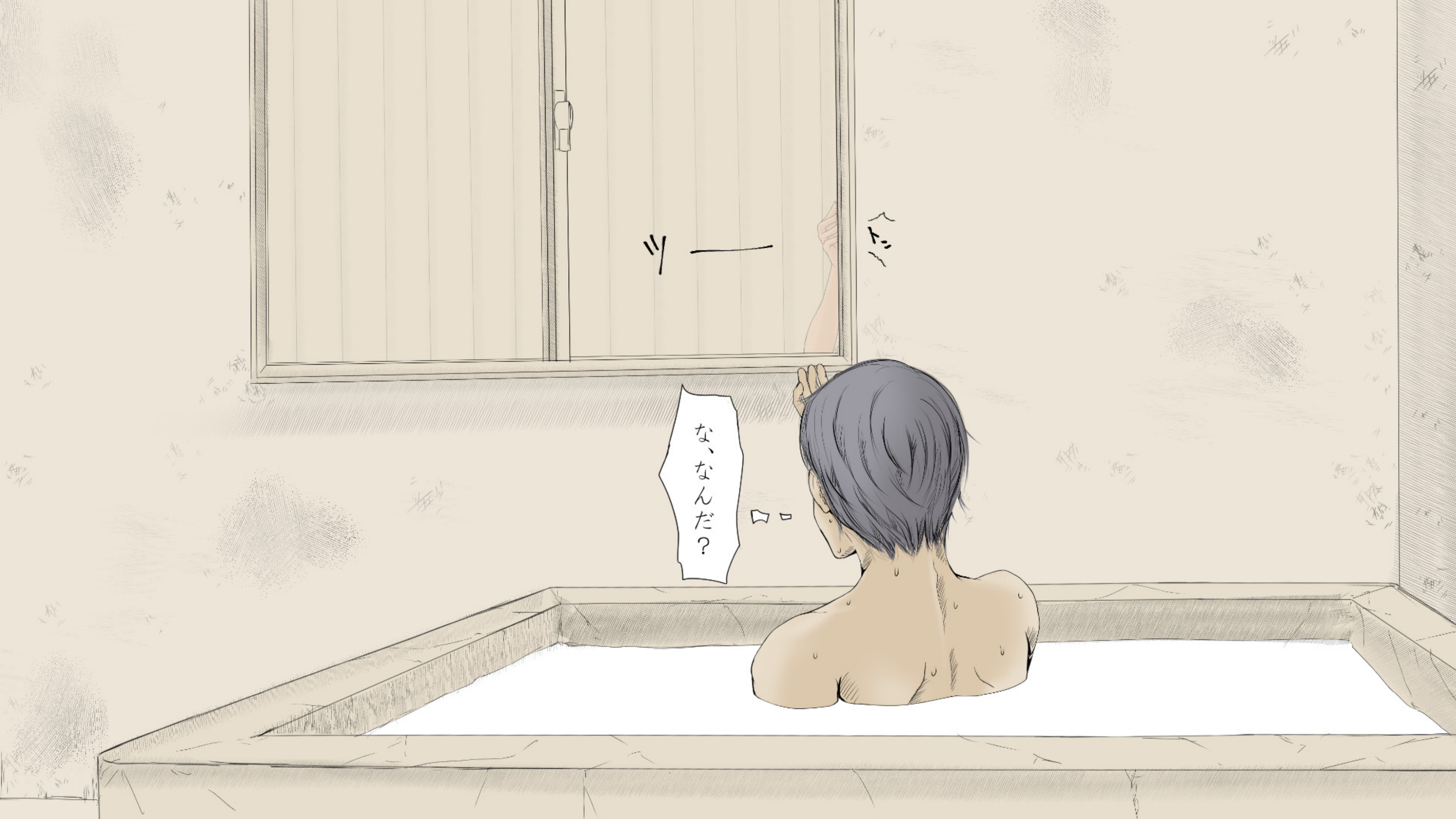










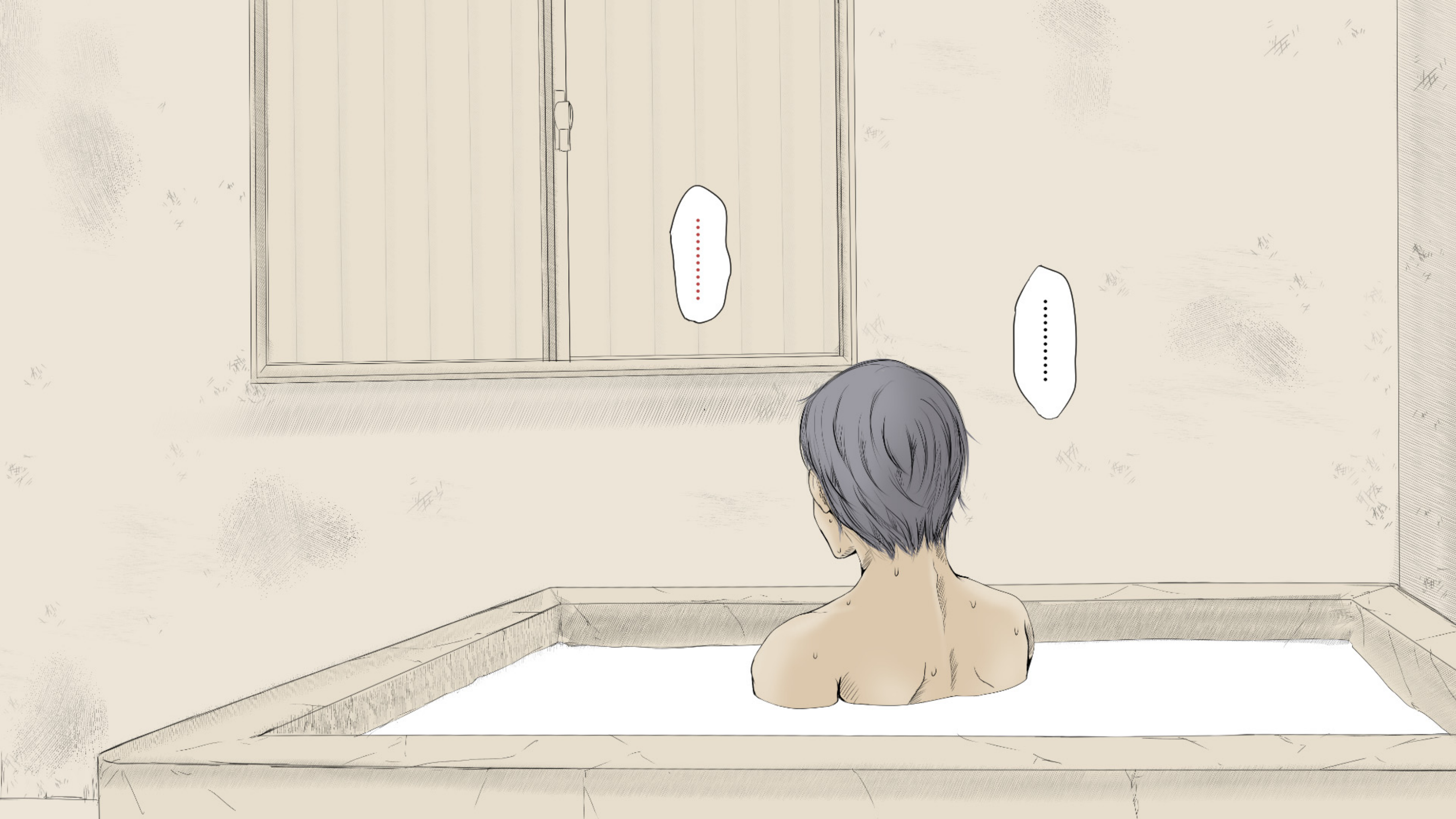


ツ —

な、なんだ？

□ □





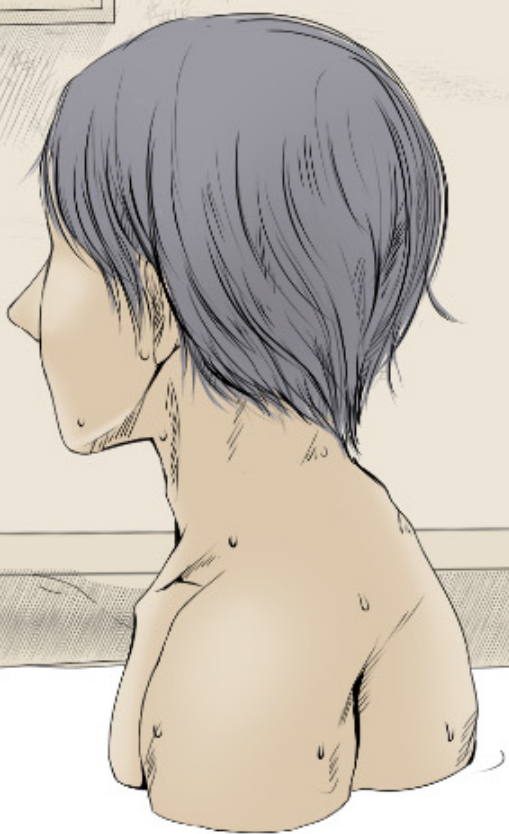


「や、やっぱり今からでも  
病院行った  
方がよくないですか？」

「い、いや  
さっきも言ってたけど  
肋骨って、たとえ折れても  
やる事ないんだよ

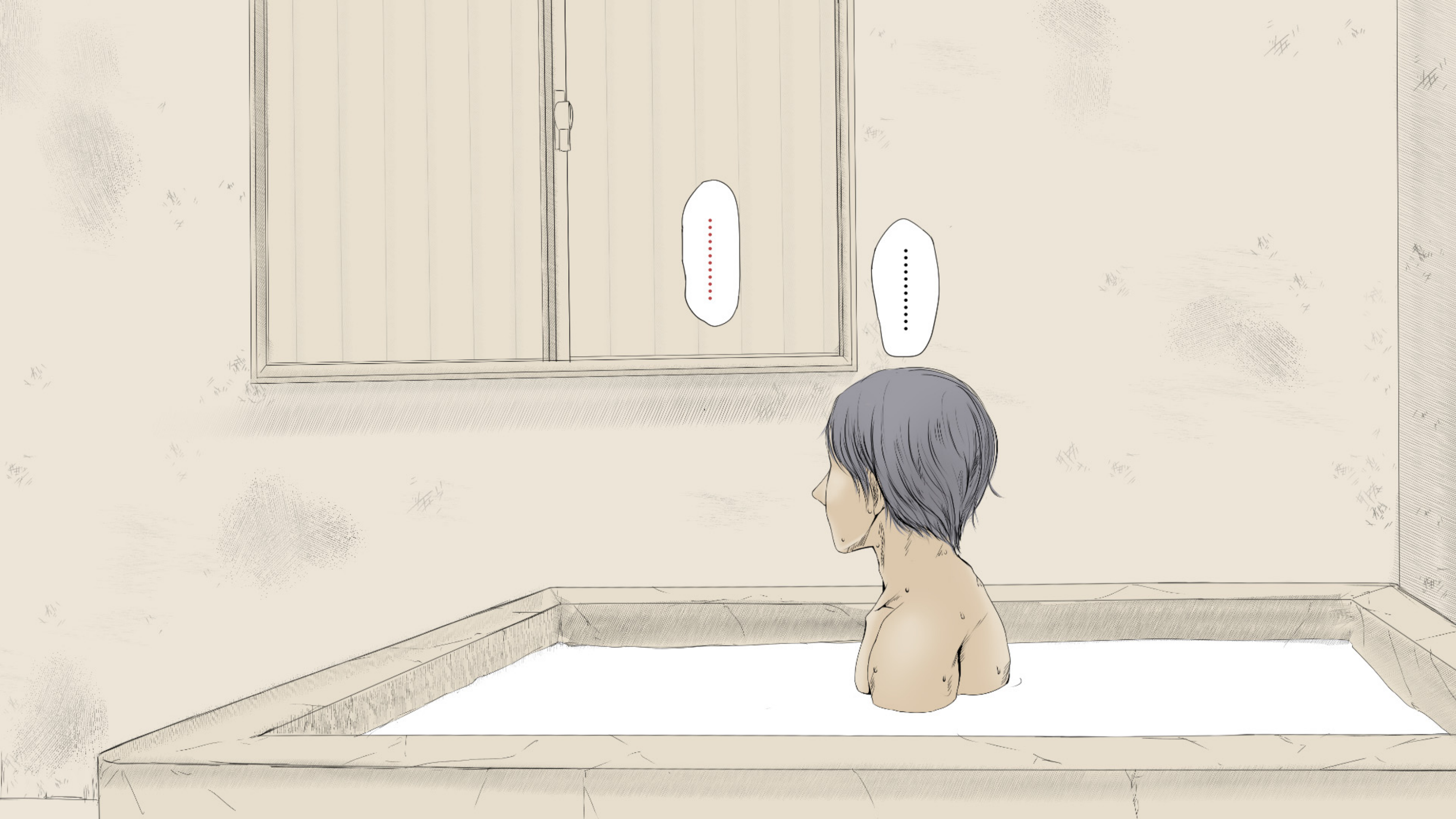
コルセットと湿布ぐらい  
それにほら、おばあさんの手前  
(同情を誘うため)  
大げさにしてるだけで  
ヒビも入ってるかどうか  
分からないし……」

「……」  
「ほんと大丈夫だよ。」

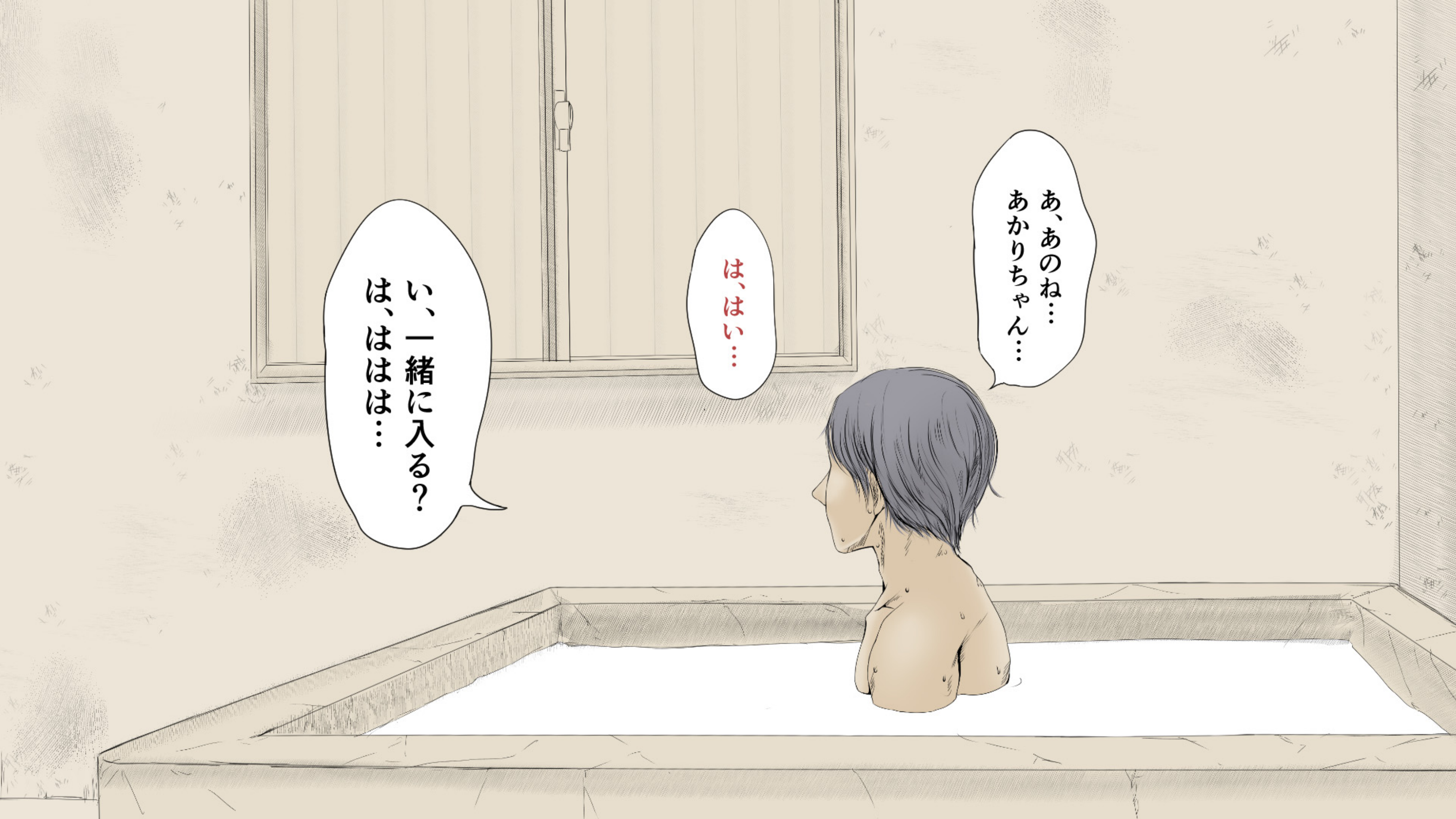


単なる  
すごい打撲かも







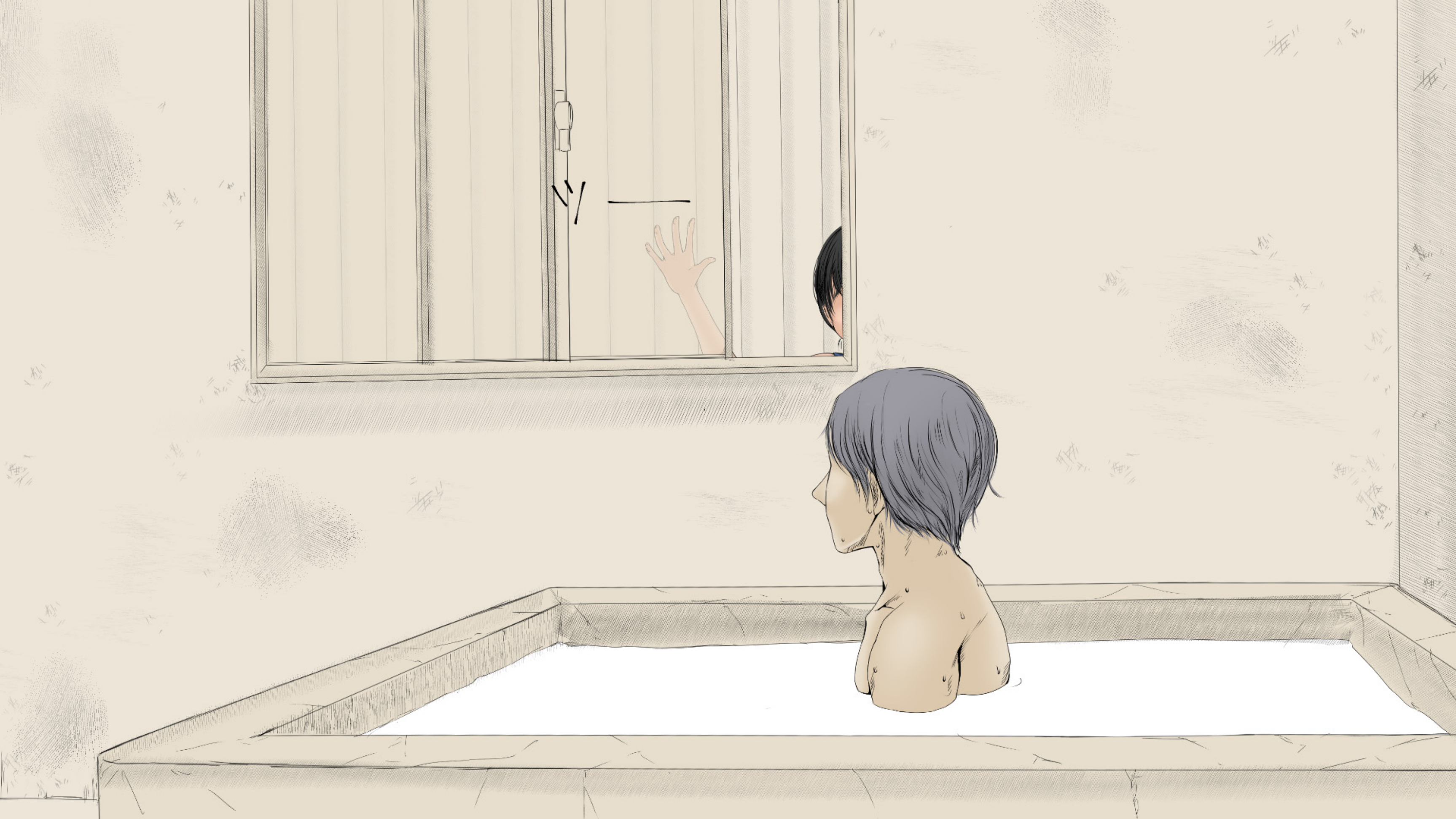


あ、あのね…  
あかりちゃん…

は、はい…

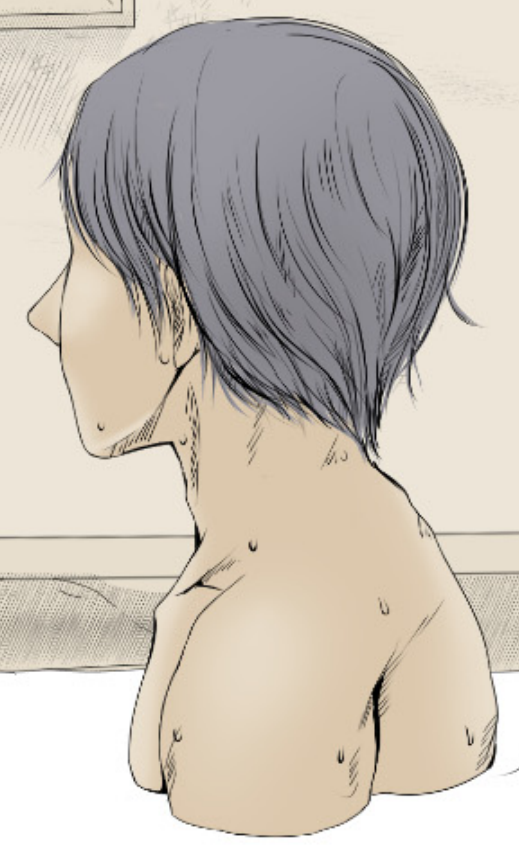
い、一緒に入る？  
は、ははは…



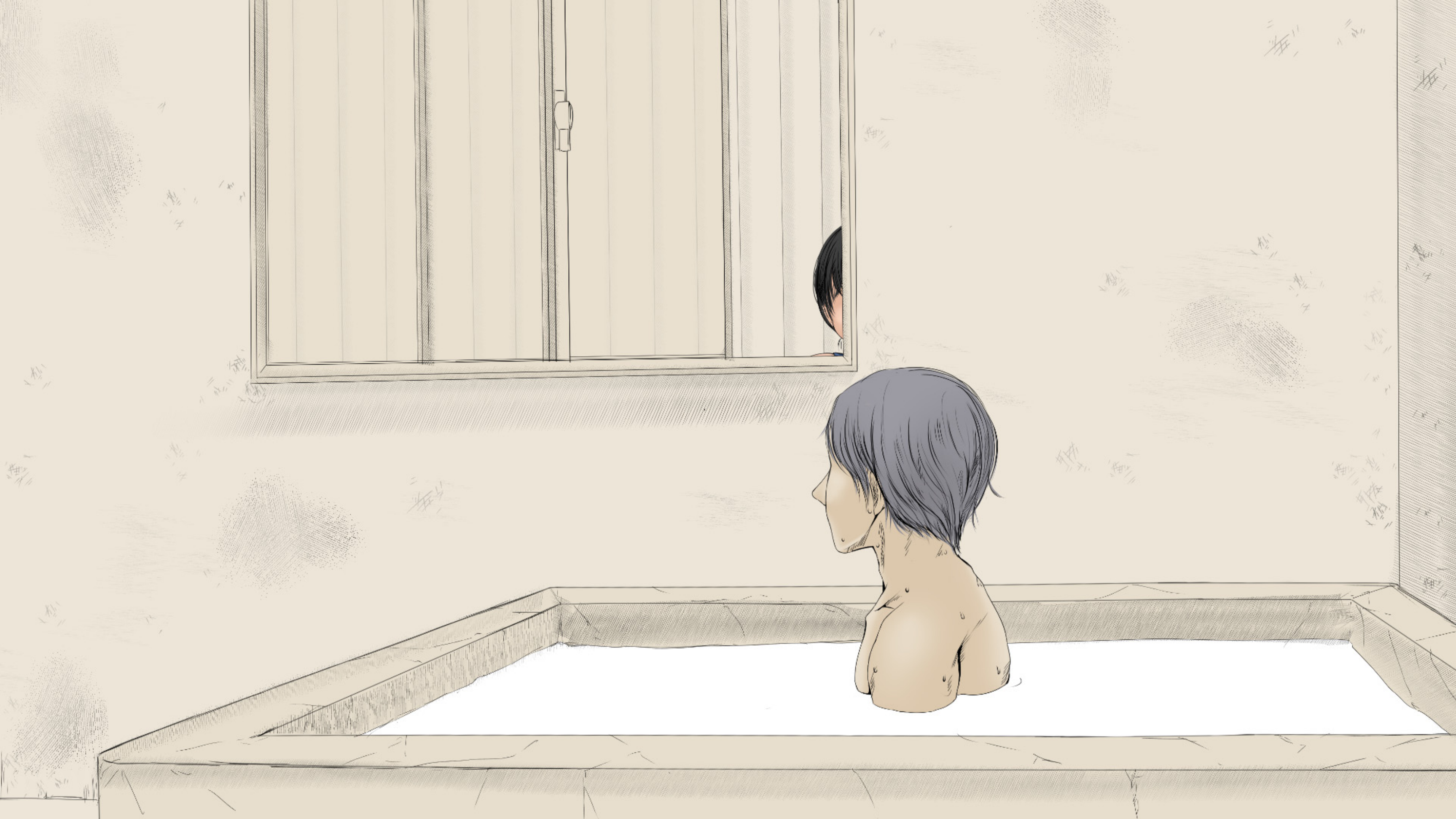




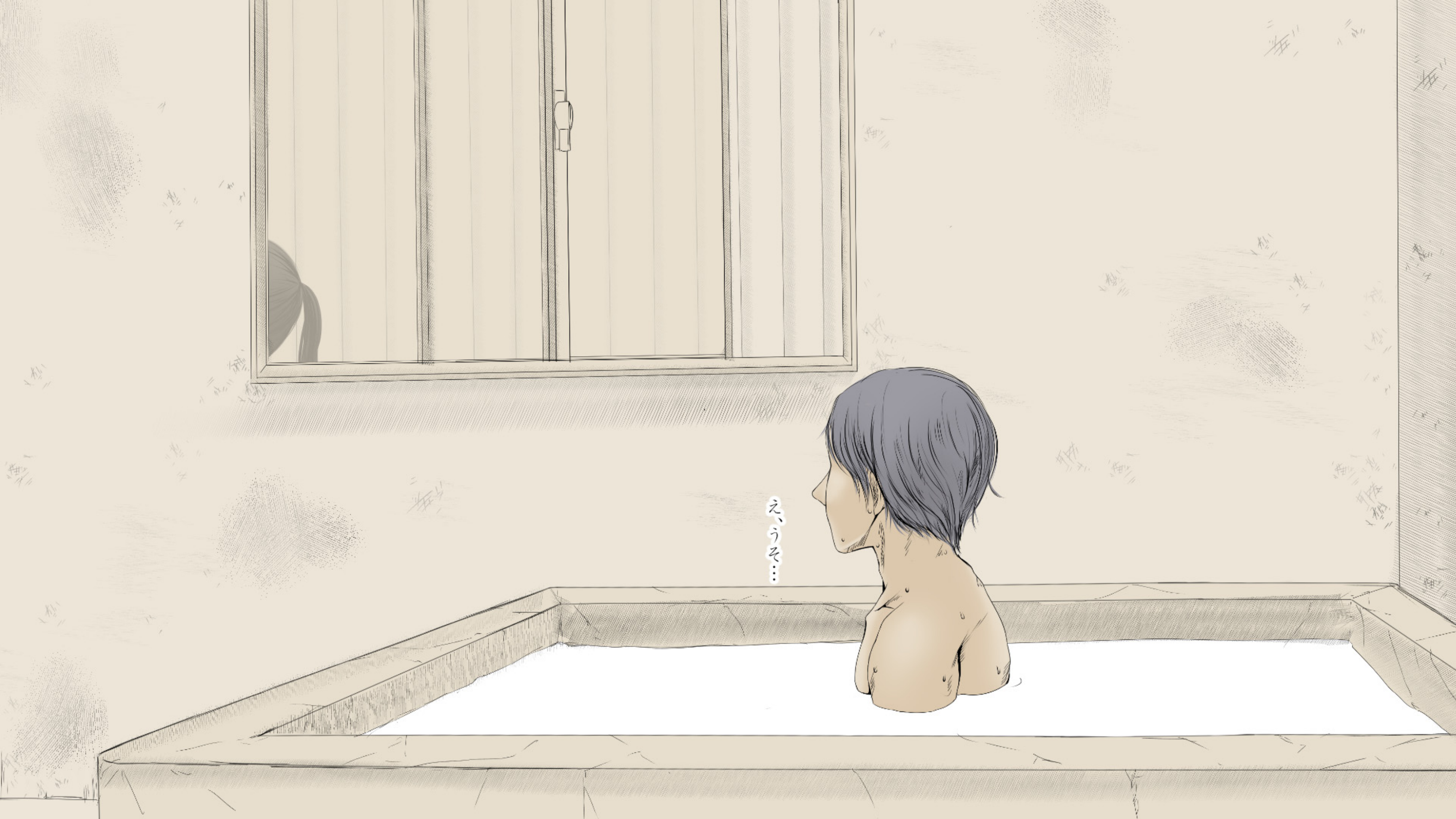
いいですね…  
それ…





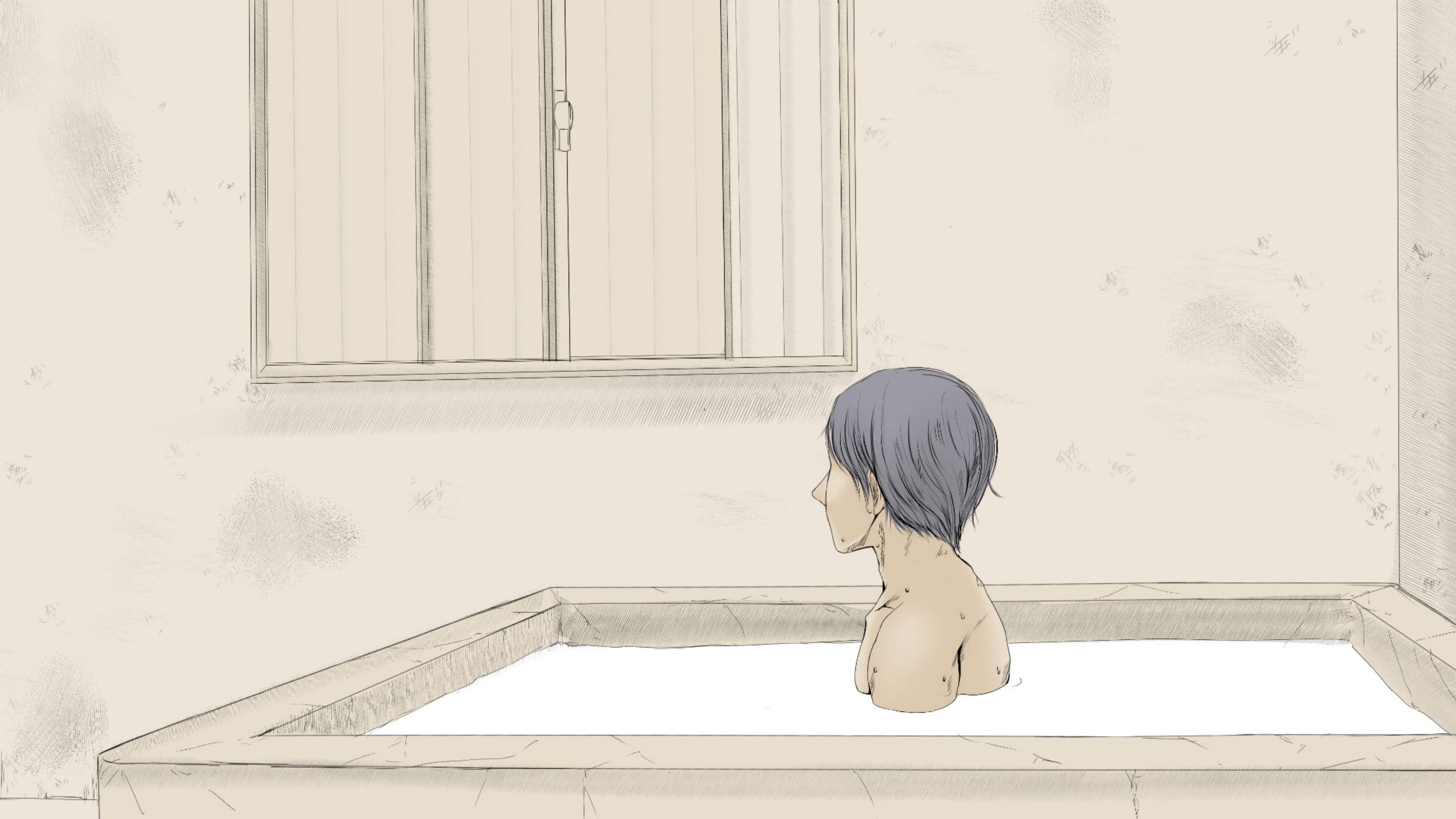




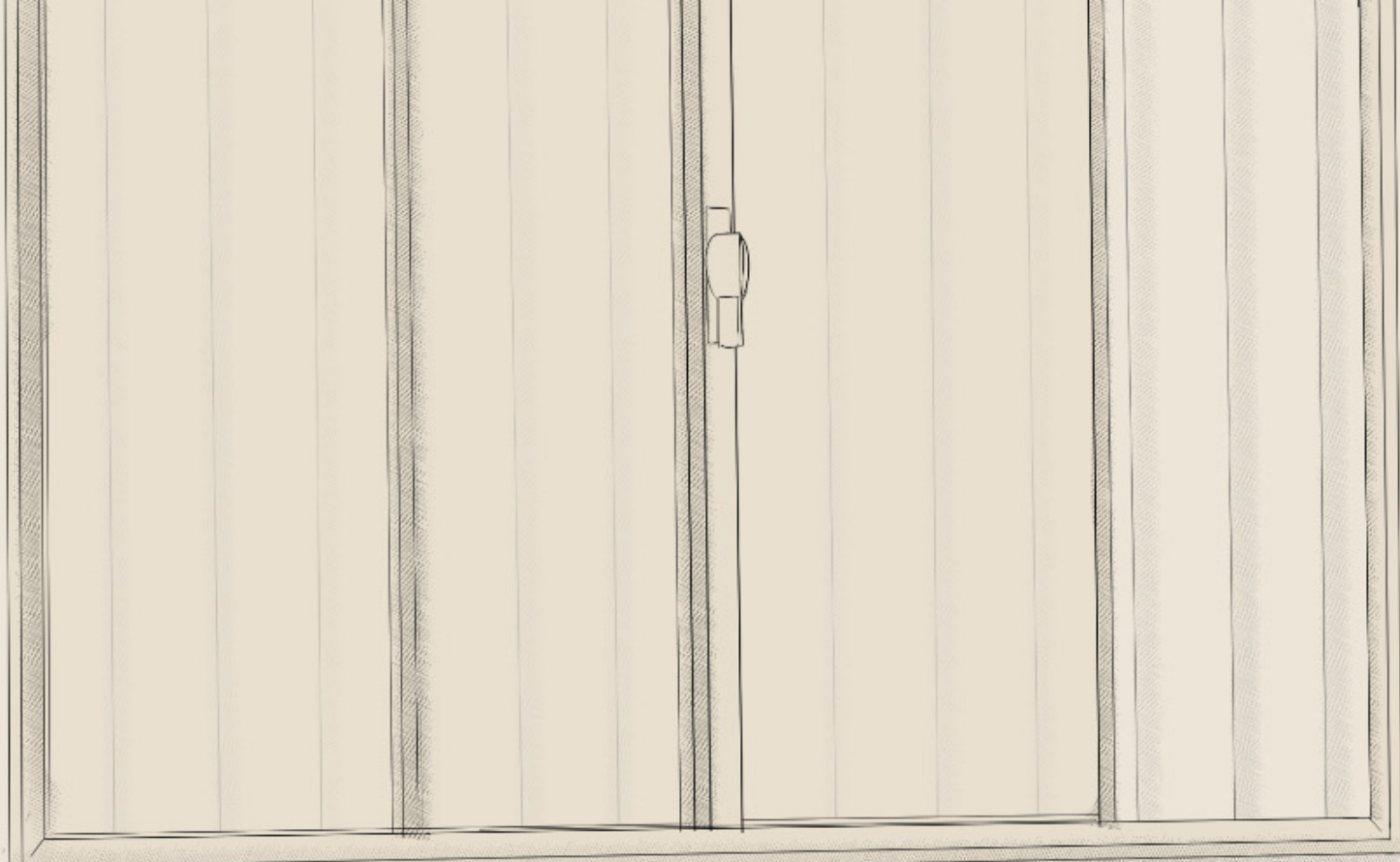


え、うそ…

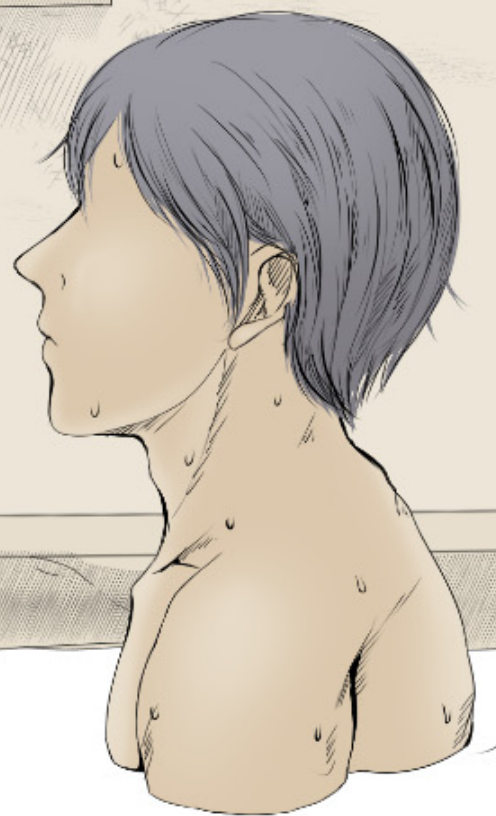




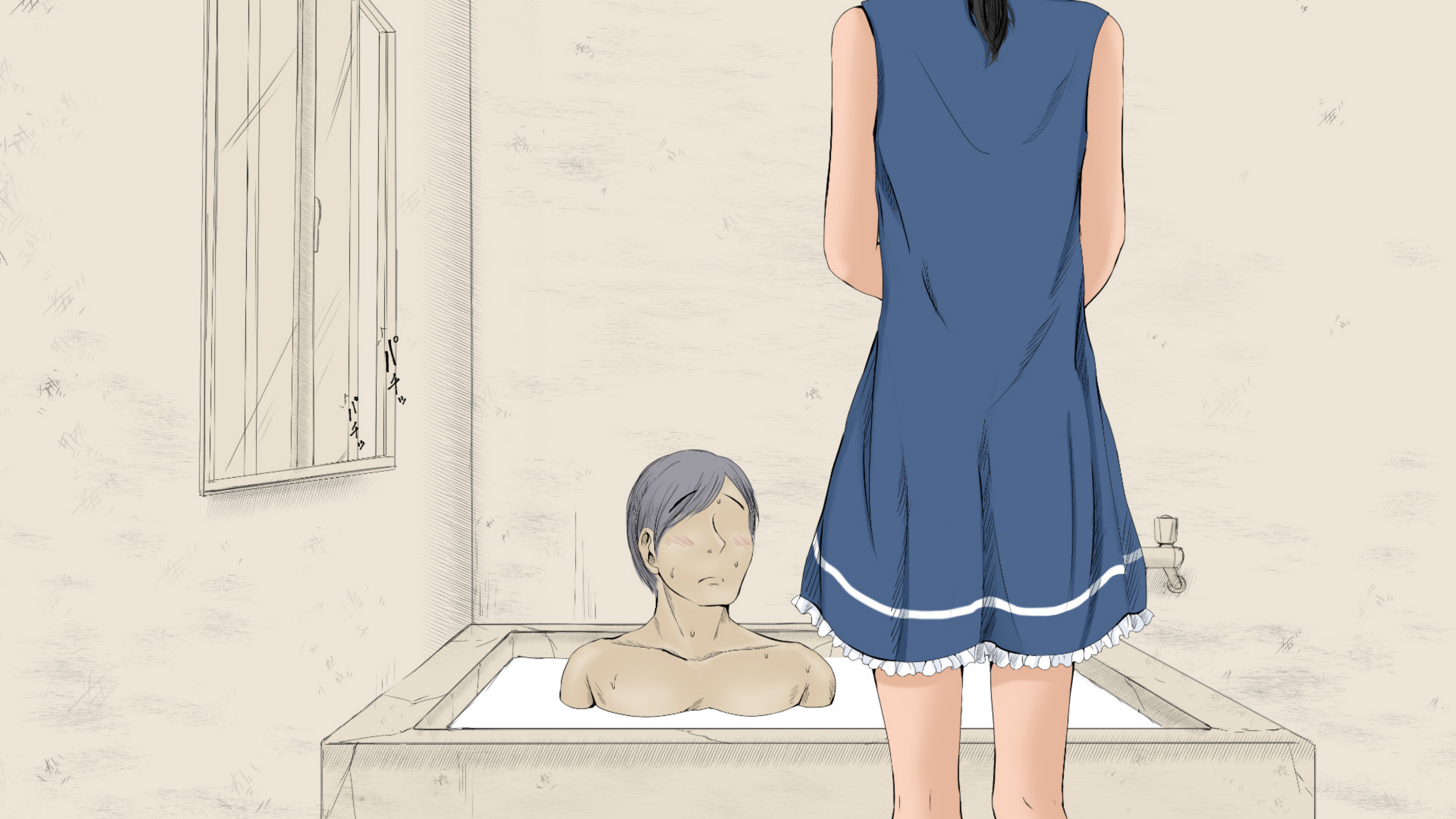




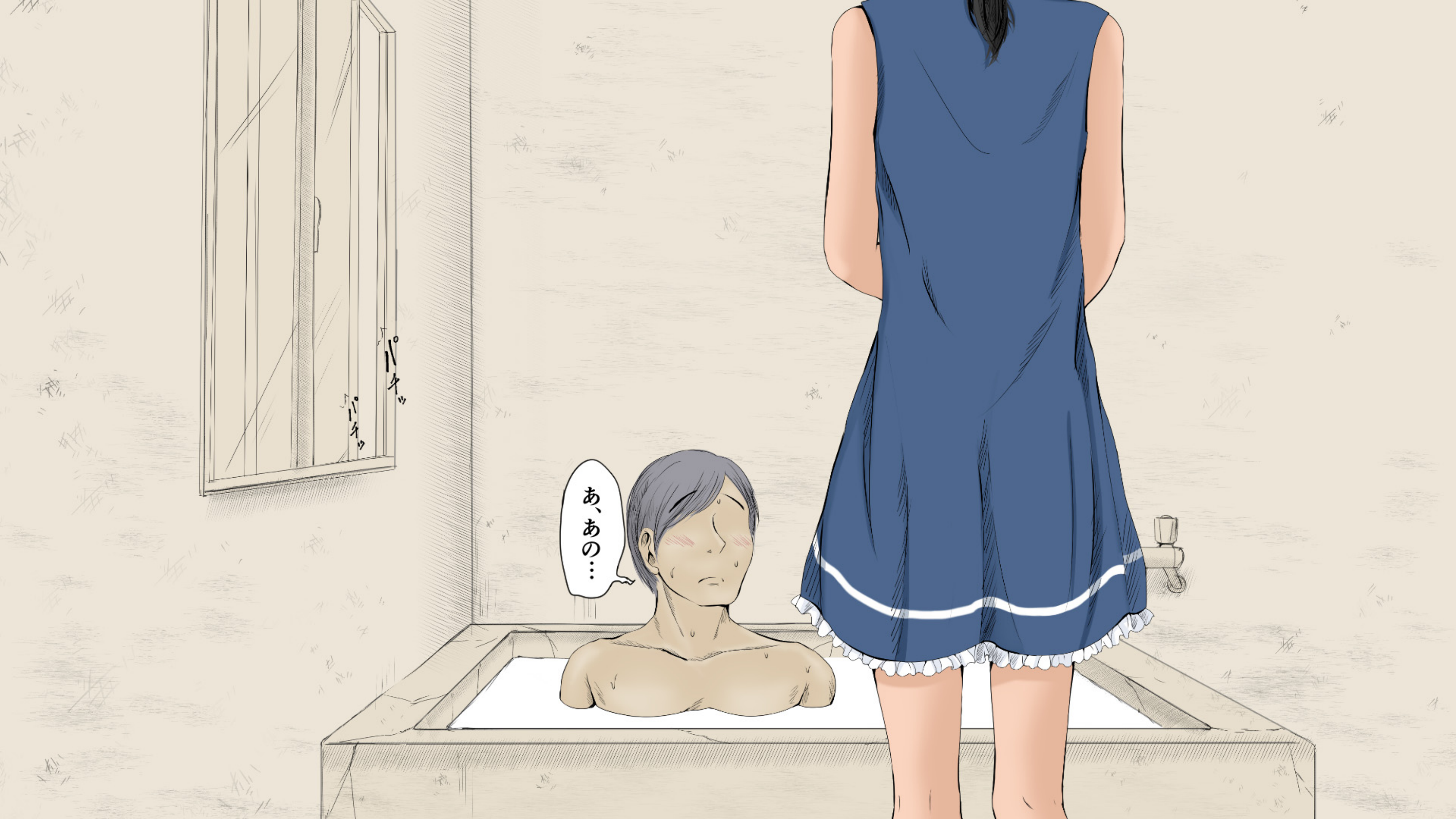
力  
糸  
水







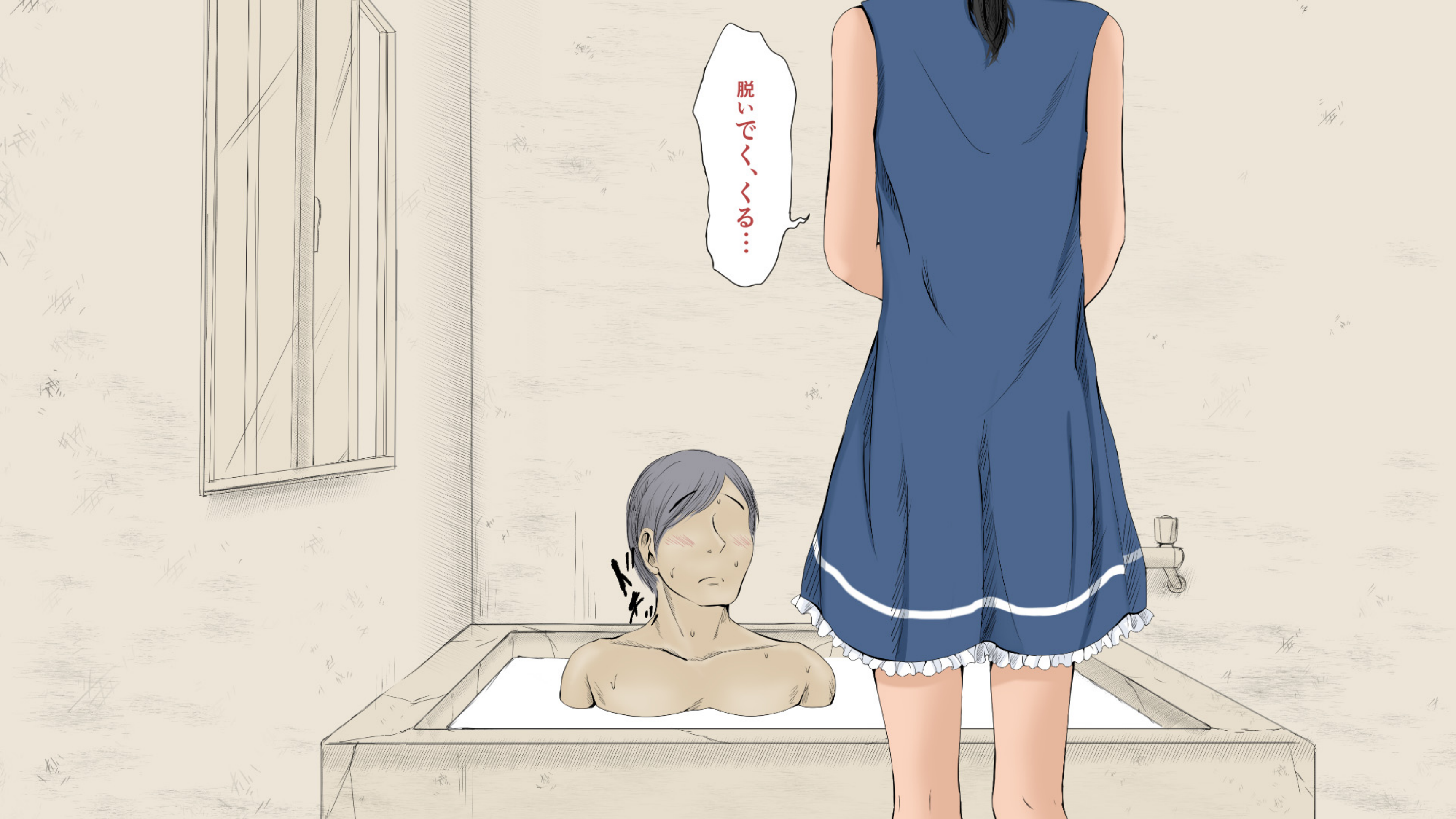




あ、あの...

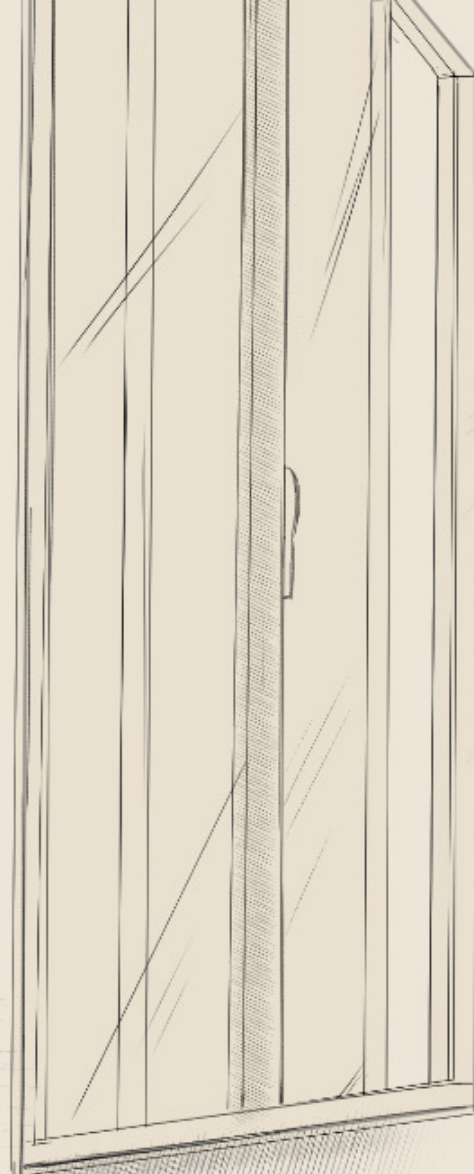
パキッ  
パキッ



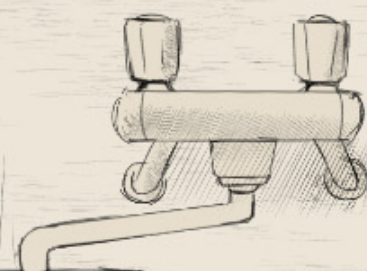


脱いでくくる...



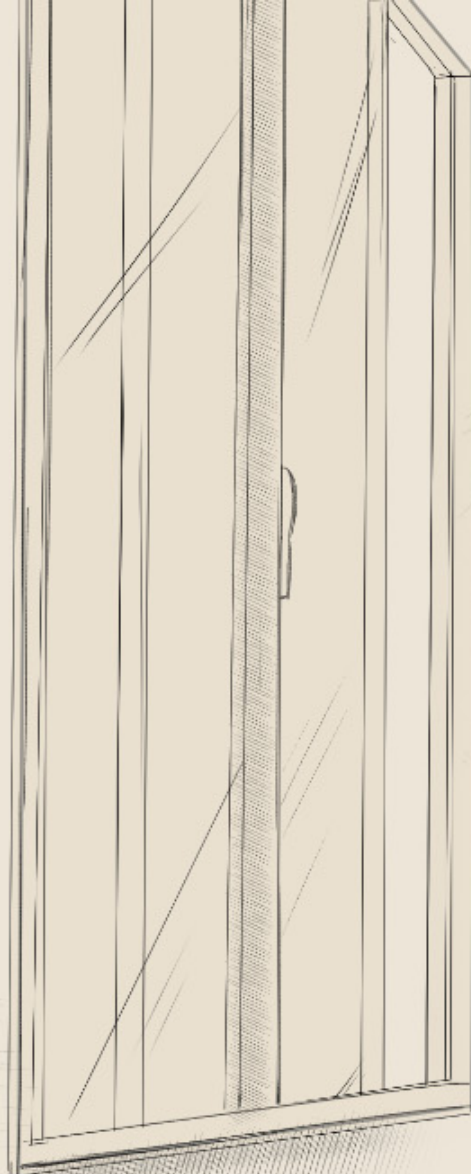


あ…

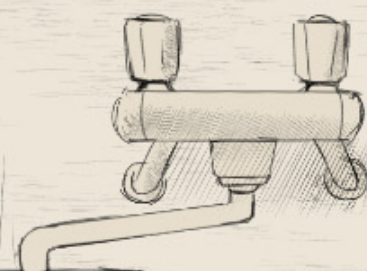


す、

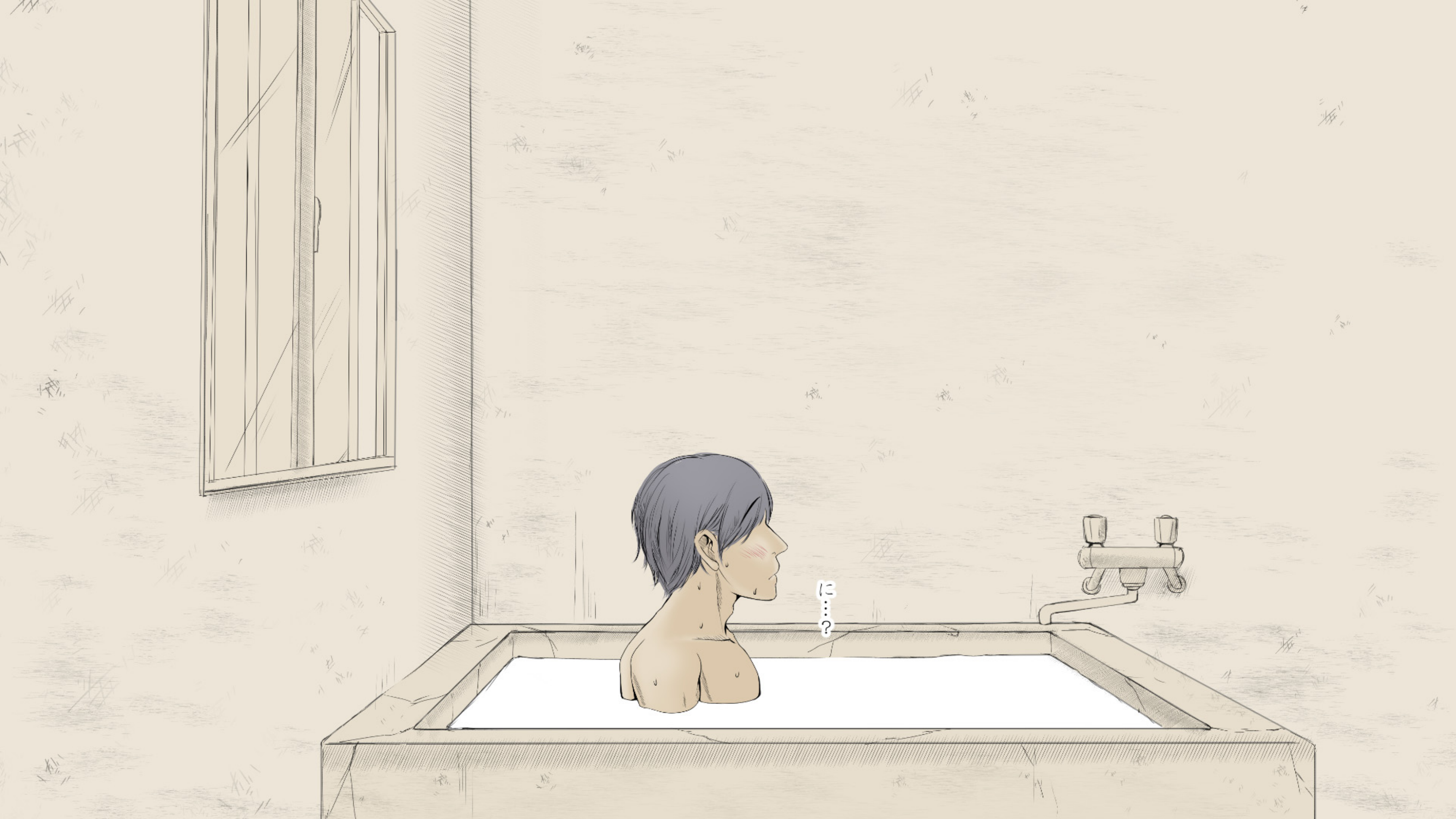




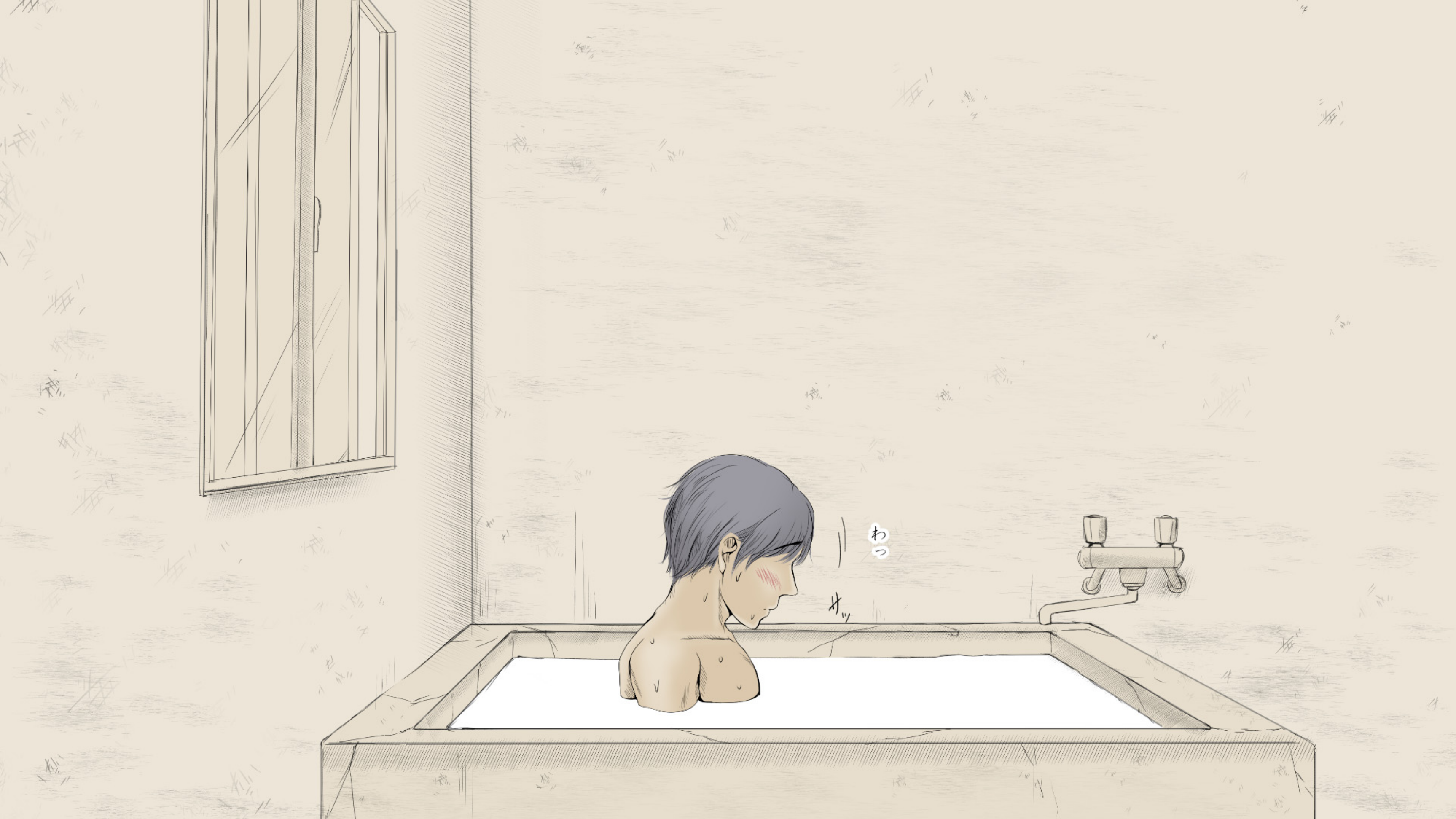
ほんと…

















女性の脱衣を  
注視してはいけない！

ほ、本当に入るの？  
うっそ…

やだ恥ずかしいみたいな反応を  
見たかっただけですよ…？

こちとら一泊すら無理ぐらいに  
気を引き締めて来たもんだから  
到着から今に至るまでの  
好機づくしの展開を  
頭が追えてない。

今どういう状況なの？

……………え？

これ…始まつちゃう？

始まつちゃうんじゃないの？

これってそういうことだよね？

来て早々もう？

まだ外明るいのに？

うっそ…うつつそ♡





あっ!  
でもっ!

カタッ



おばあさんっ

え…と  
ど、どうだっけ？

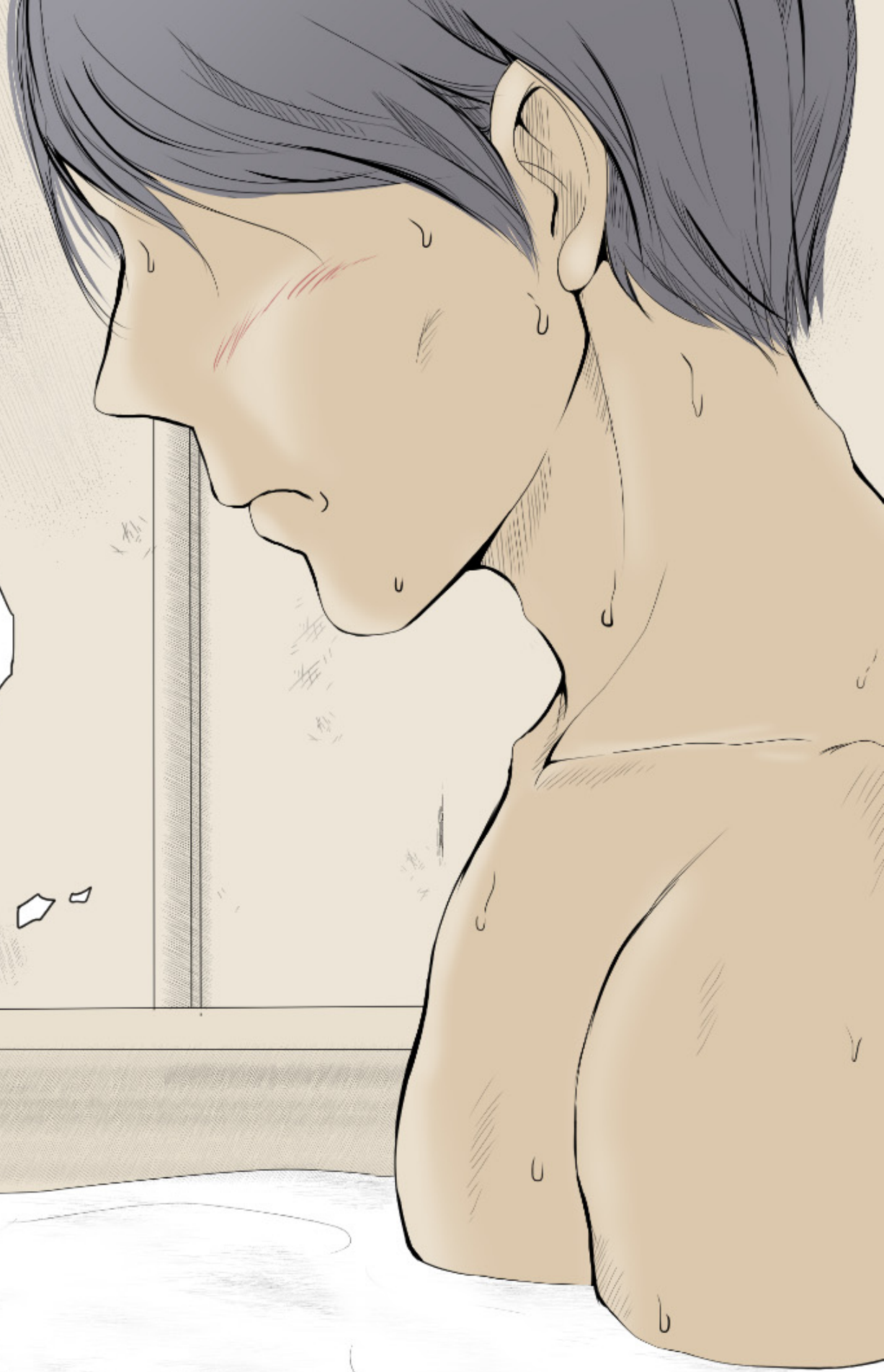
今おばあさんは  
**炊事中**だから…

いや、まって！  
おばあさんが  
**来る来ない**  
**うんぬん**じゃないぞ

スッ

スッ





僕の**覚悟**はどこいった  
こういう**無計画**なのが  
危険なのっ！

ごめん冗談なんだ  
また夜にチャンスを  
伺おうって言えばいい  
じゃないかっ  
**実際これ危ないよ**

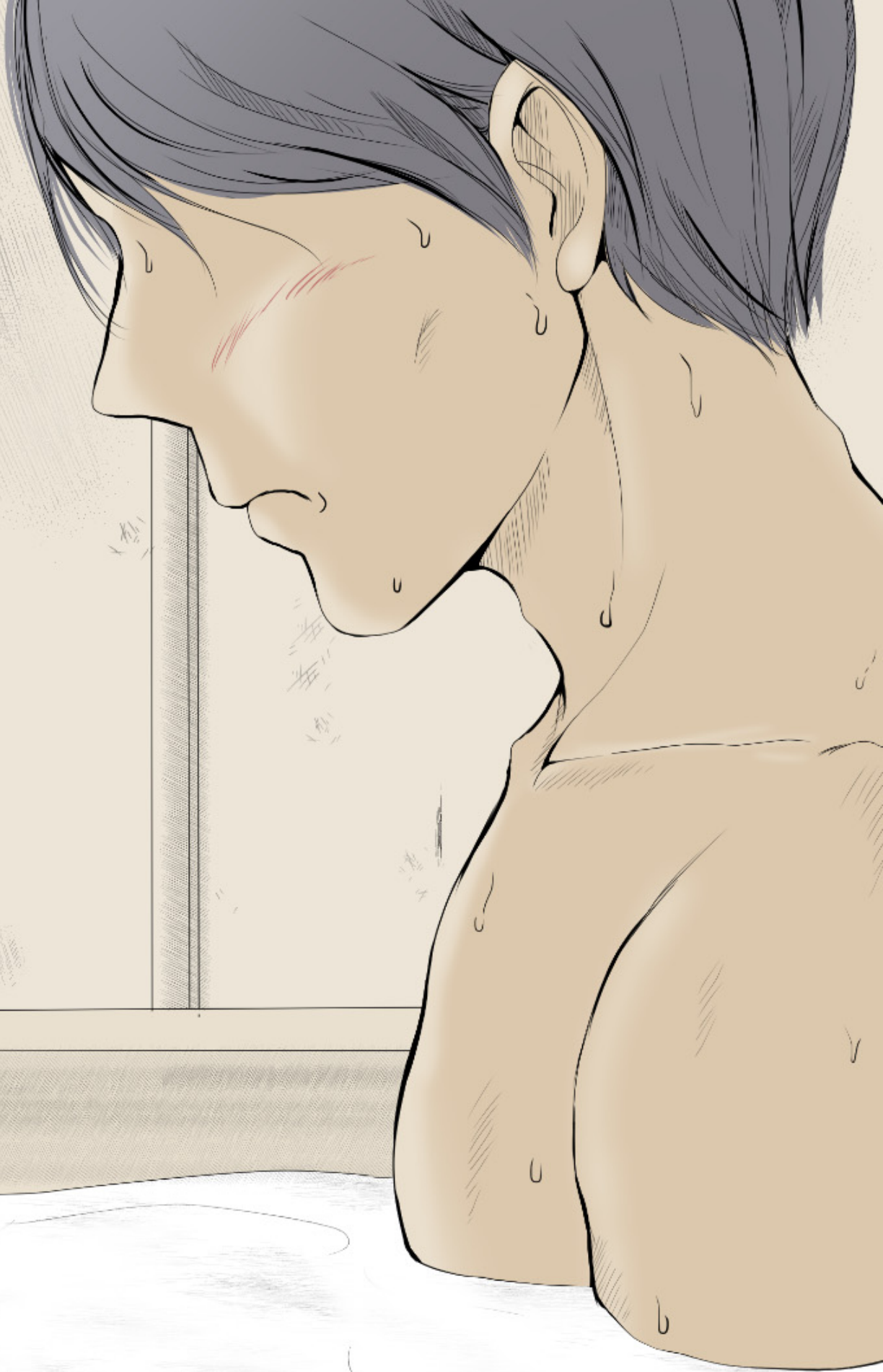
あ、あの…

ジン…くん…



ぜんぶ  
脱ぎ……まし……た

早くあかりちゃんに  
謝って服を脱ぐのを  
やめてもら**おばあさん**  
っ



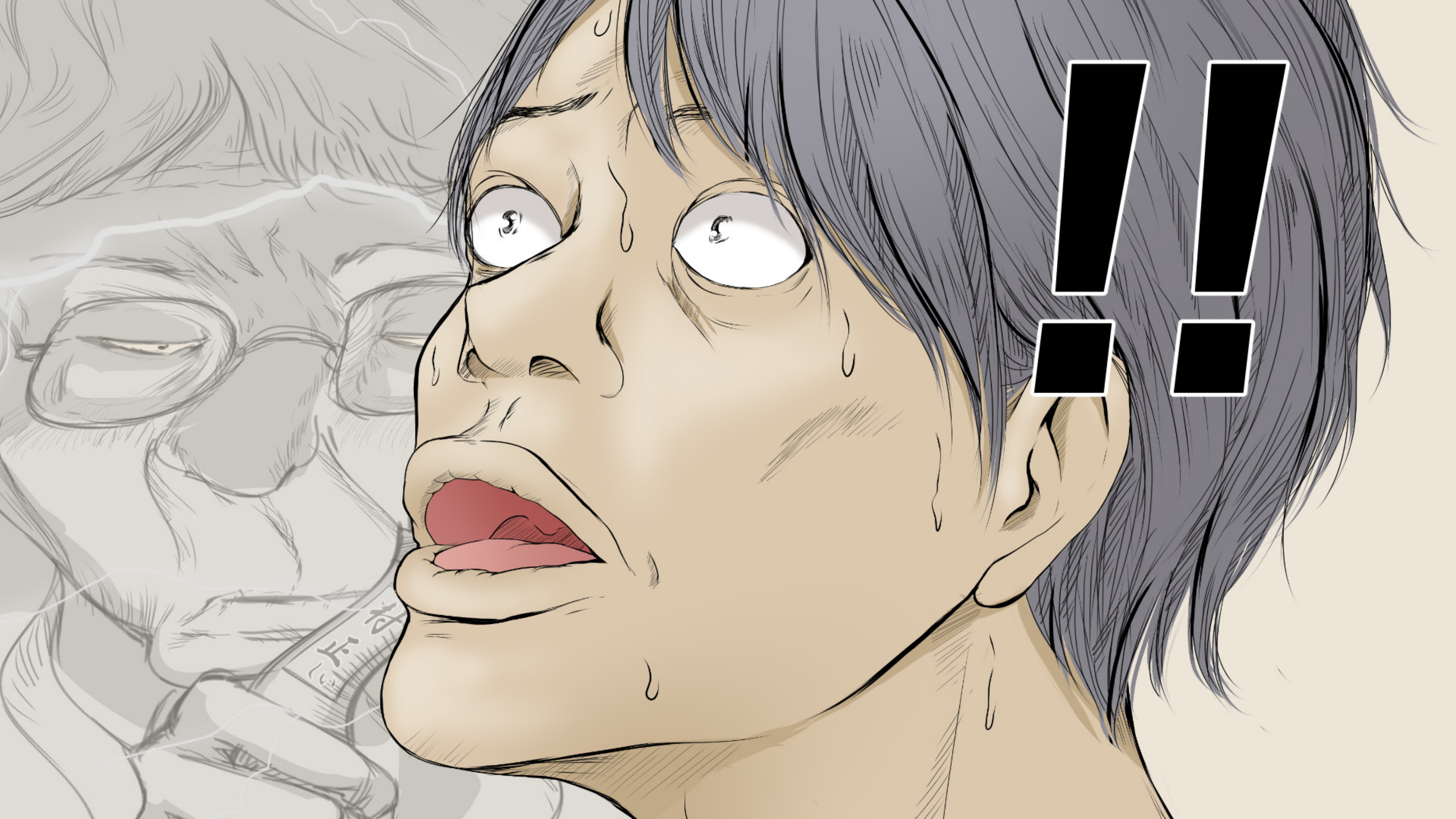




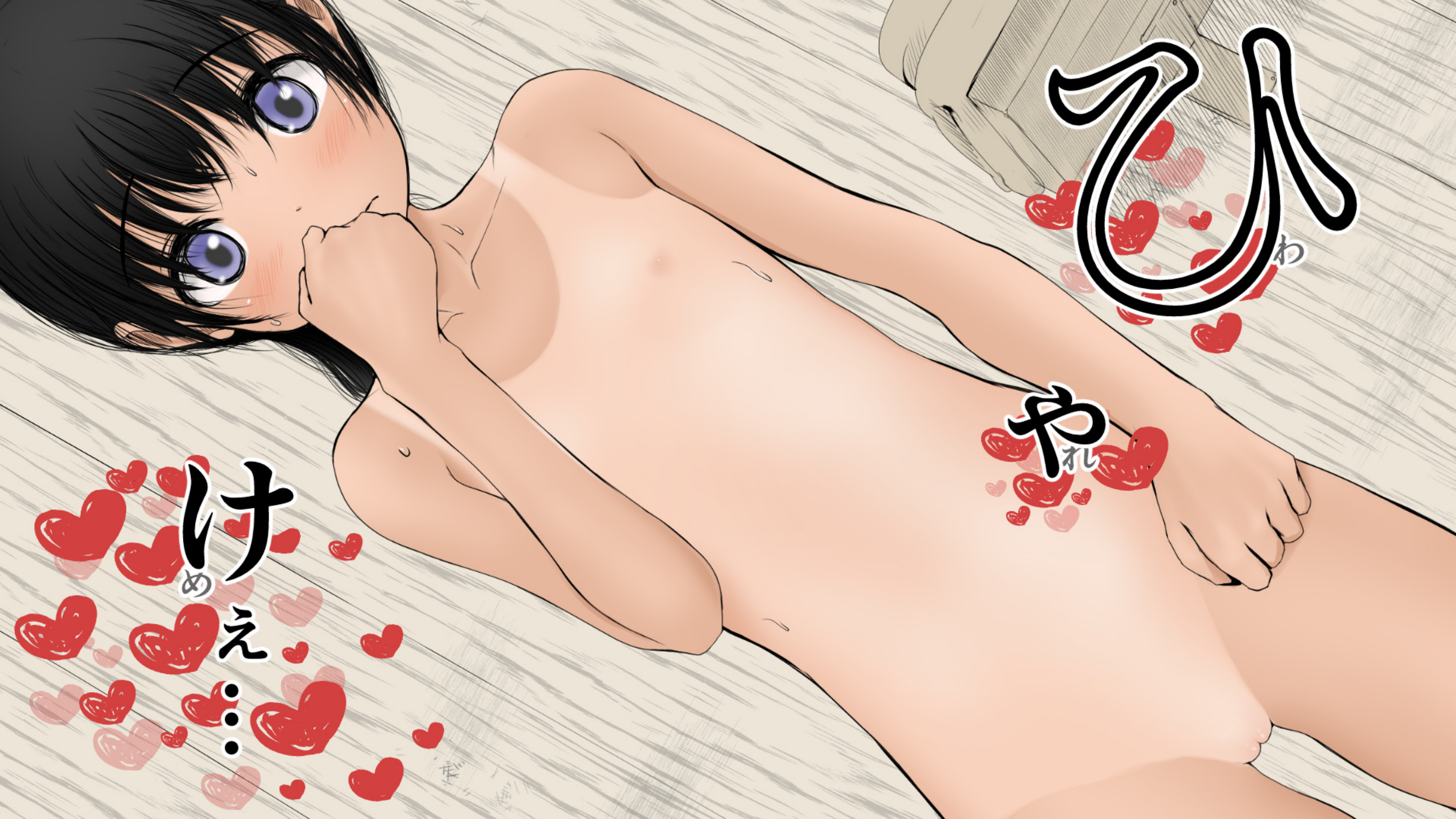
はい…

来ないでっ♡  
どうか









あ

わ

け  
え  
...



「.....」

地肌にコントラストされた小麦色はなぜにこうも色香を帯びるのか先月愛でぬいた美白と紫外線のイタズラ褐色との境界が、混在が、相反が卑猥さを拍車して醸す。脱衣する事により暴かれた彼女の内側が

ココがあなただけの場所です

と語りかけんばかり。ふくらみを廃したバストにそっと添い寝するニップ。うぶ毛すら育っていない恥丘に柔らかかお肉が造る一本の桃色影。それらがキメの細かい絹肌きぬはだにいやに映える。つぼみ

なんと蕾だろろう……

まさかこの子に性交渉の経験があるうとは誰とて思うはずもない。

ここが現実じゃないようなそんな錯覚を覚える

みすがたあですがた  
それ程の御姿艶姿。

いまやこれらを捉えた肖像を所持するだけで人が収監される程の禁忌バンドラ。





そりゃそうだよ…  
こんな造形の存在を  
無制御に流布する  
嬉しさで地球が  
滅亡してしま

ジ、ジーンくん…？

……あ……  
す、す、すごく  
灼けたんだね……  
跡くつきり……

……うん……





.....

は、入っても...  
いいですか...?

えっ、えっ...





イッテキ  
キキキ

シンくん...

シンくんだ...♡

.....

ん







はわっ...はわわわわ

わわわわわわわわ  
はわわわわわわわ  
♡♡

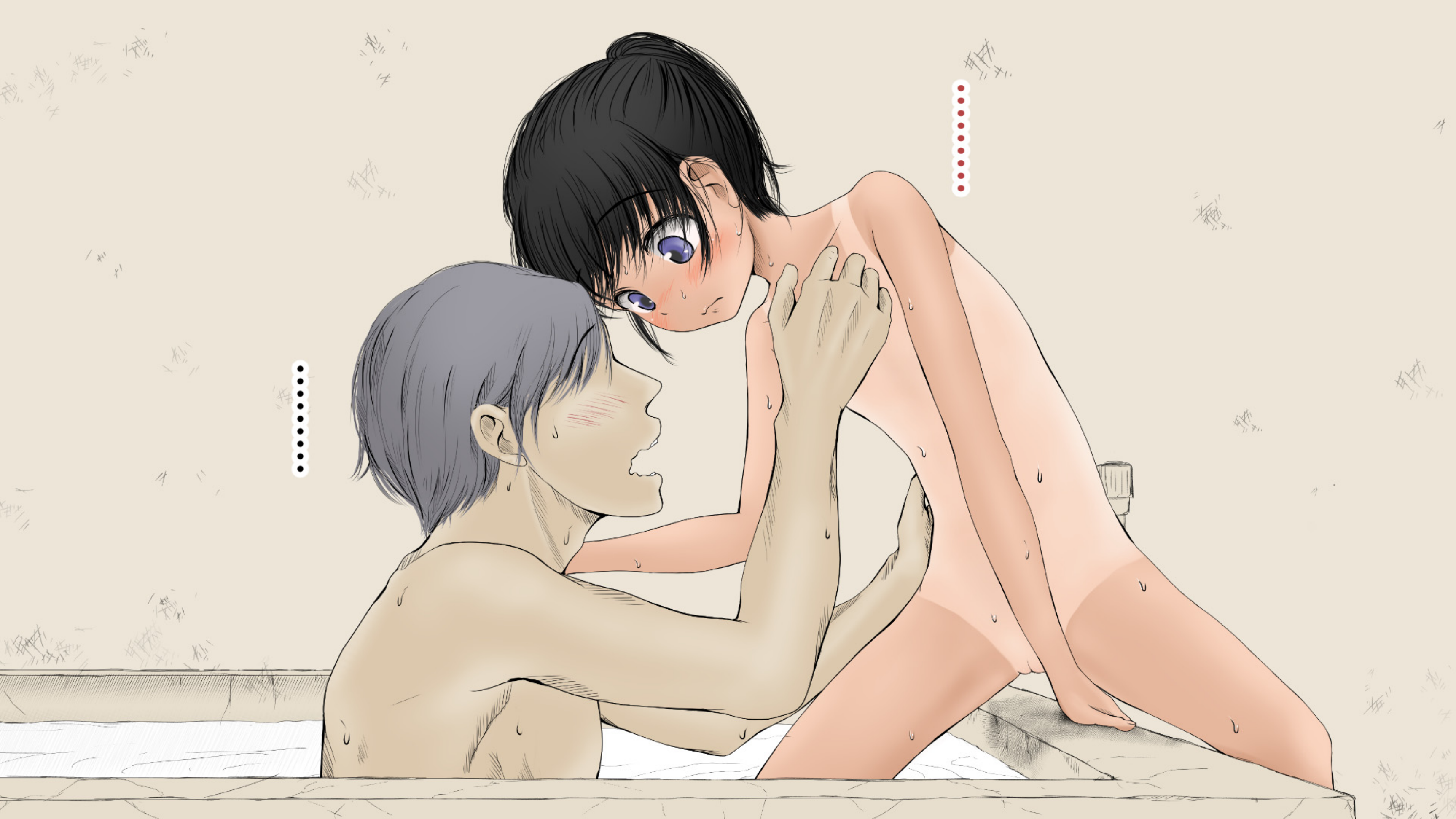
ホッ



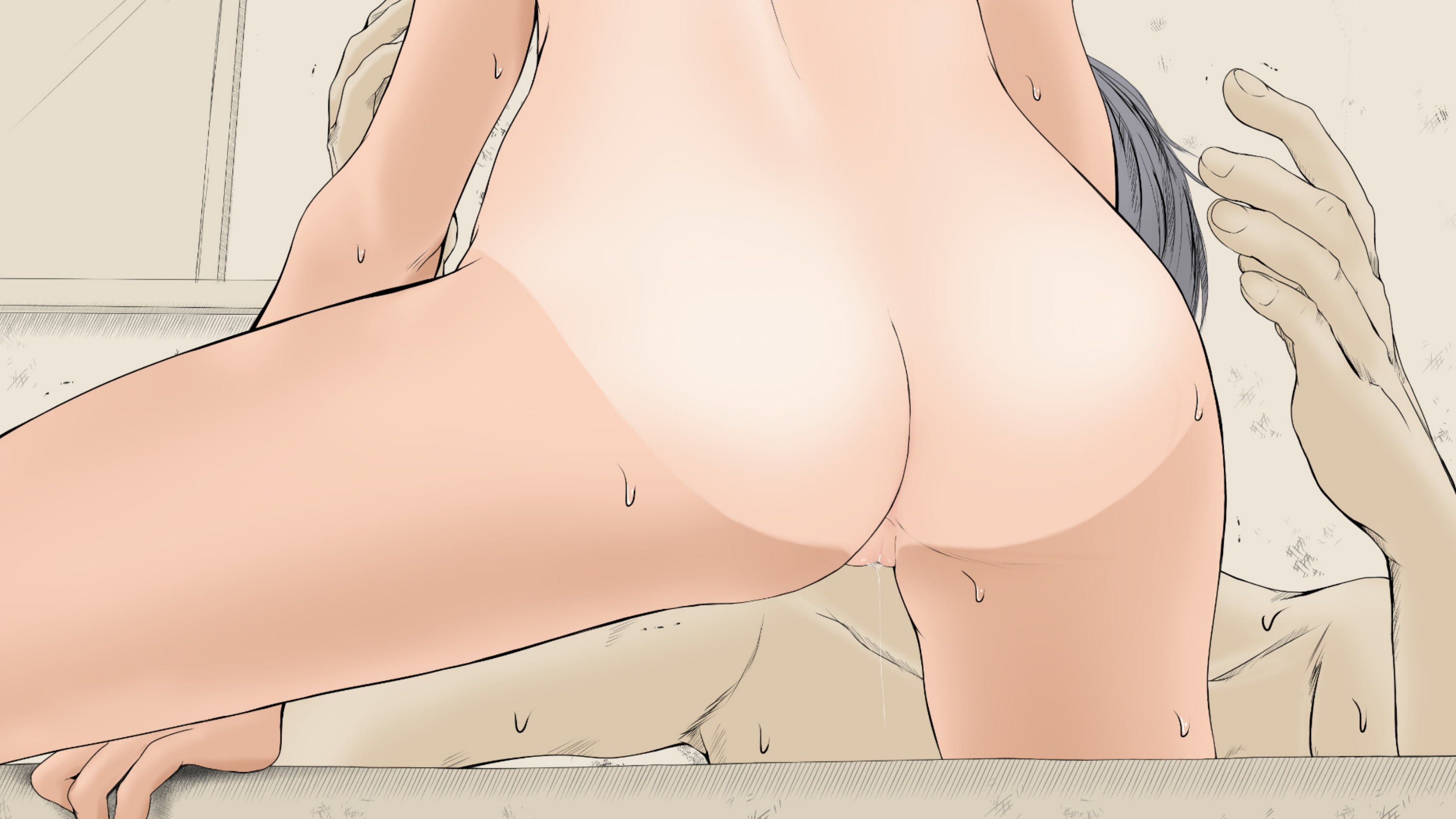
あかり〜















は...はは...

んー...

ははは





うん…  
…夜…に…

夜…

よ…



試し読み版はここまでと  
なっております。  
よろしければ  
ぜひ本編をお手にとってみてください。

真咲シサリ

